

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPC11F048S	専門教育科目 心理カウンセリング領域	心理カウンセリング Psychological Counseling	2単位	必修	講義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的

カウンセリングの基本的態度や諸理論には「人間理解」へのヒントとなる知見や、円滑な対人コミュニケーションを促す手法が含まれている。そのため、本講義においては、臨床心理学の成り立ち、代表的なカウンセリング理論を学び、人間理解のための心理学的な基礎知識を学ぶことを目的とする。

キーワード

人間理解
コミュニケーション
カウンセリング理論
臨床心理学

学修教育目標

- ・代表的なカウンセリング理論の基礎的な知識を身につけることができる。
- ・自己と向き合い、自己成長を促すことができる。
- ・カウンセリングに対する問題意識を高め、さらに深く学ぼうとする姿勢を身につけることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

心理カウンセリング学科としての導入となる講義である。また、心理学検定の「臨床」分野に関連した授業内容である。したがって、単位取得という観点だけでなく、より主体的な学びとなるよう、各自授業ノートを準備し、学びに活かしていくことを望む。
事前に授業資料を公開するので、各自確認し印刷して授業に臨むこと。
さらに、講義形式ではあるが、ペアワークやディスカッションを取り入れながら授業を進めていくため、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「心理学概論A」「心理学概論B」の学びが本講義に繋がります。さらに、本講義が2年時以降の心理カウンセリング学科の専門教育科目の理解に繋がります。

教科書

参考書・リザーブドブック

なし

書名：心理学検定 基本キーワード 改訂版
著者名：日本心理学諸学会連合 心理学検定局編
出版社：実務教育出版

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	臨床心理学の成り立ち、カウンセリング理論を理解し、人間理解のための基礎知識を習得できる。	○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。	△
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35							35
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15						20	35
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価								25	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
臨床心理学の成り立ちについて十分に理解している。 カウンセリングの理論を十分に理解している。 各項目の理解度が80%以上である。					臨床心理学の成り立ちについて理解している。 カウンセリングの理論を理解している。 各項目の理解度が60%～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	精神分析と精神分析療法	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第2回 /	心的装置論（局在論・構造論）	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第3回 /	自我の防衛機制	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第4回 /	心理（精神）一性的発達理論	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第5回 /	分析心理学	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第6回 /	精神分析学の発展	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第7回 /	行動療法①：レスポナント・オペラント条件づけ	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第8回 /	行動療法②：社会的学習，SST	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第9回 /	認知行動療法	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第10回 /	自律訓練法	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第11回 /	人間性心理学	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第12回 /	自己実現	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第13回 /	クライアント中心療法	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第14回 /	エンカウンターグループ	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPC12S049S	専門教育科目 心理カウンセリング領域	カウンセリング実務論Ⅰ Theory of Counseling Practice I	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>今日、我が国において、カウンセリングの知見は、教育、医療、福祉分野および、産業社会や地域社会においても必要なものと認められている。本授業では、精神分析理論、自己理論、行動理論の三大理論を基礎として、家族システム理論やグループカウンセリングなど、実務実践に即して幅広く学んでもらう。 本講義では、学生自身の幼少期、少年期、青年期を振り返りつつ、カウンセリングとの出会いや必要性を認識しつつ、基礎的なカウンセリング理論を学んでもらう。</p>	
	キーワード	<p>カウンセリング 心理学</p>

授業科目の概要及び学修上の助言

本授業では、精神分析理論、自己理論、行動理論の三大理論を基礎として、家族システム理論やグループカウンセリングなど、実務実践に即して幅広く積極的に学んでもらう。
本講義では、学生自身の幼少期、少年期、青年期を振り返りつつ、カウンセリングとの出会いや必要性を認識しつつ、基礎的なカウンセリング理論を積極的に学んでもらう。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

カウンセリング実務論Ⅱ、臨床心理学、人格心理学、発達心理学、人間関係論、人間関係学、行動カウンセリングなどに関連する。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：ピアヘルパーハンドブック
著者名：日本教育カウンセラー協会編
出版社：図書文化

書名：教育カウンセラー標準テキスト初級編
著者名：日本教育カウンセラー協会編
出版社：図書文化
書名：カウンセリングの理論
著者名：國分 康孝 著
出版社：誠信書房

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	カウンセリングと心理学の関係性を調べる。	○
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	カウンセリングの三大理論およびシステム理論について、それぞれの特徴を理解する。	◎
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	カウンセリング実務を学ぶ者としての倫理観を身に付け、個人情報の保護に努める。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題などについて主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	未知の事柄について真摯に学び、知識を得ながら想像力を働かせて理解を進める。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	傾聴がカウンセリングの基本であることを意識して、自己訓練に努める。	○
	③ 柔軟性	自分の考えに固執せず、他者の考えや意見を柔軟に受け入れる。	○
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	授業中に得た、友人の個人情報についての秘密を守る。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		25	15			15	100
評価 の 指標	知識に関する評価		15		15	5			10	45
	技能に関する評価		10			10				20
	応用力に関する評価		10		5					15
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10		5				5	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>精神分析理論、行動理論、自己理論、および家族理論について、それぞれの理論における語句を正確に使い分けて、且つ、カウンセリング理論としての共通性も理解した記述ができること。</p>					<p>精神分析理論、行動理論、自己理論、および家族理論について、それぞれの理論における共通性と、それぞれの特徴を正確に理解して記述できること。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション カウンセリング概論	面接授業	カウンセリングの概念と心理学について	40
	ミニレポート			
第2回 /	カウンセリングの定義	課題研究による授業	カウンセリングの色々	40
	ミニレポート			
第3回 /	カウンセリングと心理療法	面接授業	教育カウンセリングと心理カウンセリングについて	40
	ミニレポート			
第4回 /	カウンセリングの3大理論について①	課題研究による授業	精神分析理論	60
	ミニレポート			
第5回 /	カウンセリングの3大理論について②	面接授業	行動理論	90
	ミニレポート			
第6回 /	カウンセリングの3大理論について③	課題研究による授業	自己理論	40
	ミニレポート レポート課題			
第7回 /	教育現場における諸問題について①不登校、引きこもり	面接授業	不登校、引きこもり問題 レポート提出	40
	ミニレポート			
第8回 /	教育現場における諸問題について②いじめ、学級崩壊	課題研究による授業	いじめ・学級崩壊などへの対処	40
	ミニレポート			
第9回 /	教育現場における諸問題について③大学生活における諸課題	面接授業	大学生活における諸課題	40
	ミニレポート			
第10回 /	家族システム理論	課題研究による授業	家族理論について	60
	ミニレポート レポート課題			
第11回 /	事例に学ぶ①	面接授業	ノンバーバル・コミュニケーションについて レポート提出	40
	ミニレポート			
第12回 /	事例に学ぶ②	課題研究による授業	ノンバーバル・コミュニケーションについて	40
	ミニレポート			
第13回 /	描画投影法①	面接授業	バウムテスト KFD	40
	ミニレポート			
第14回 /	描画投影法②	課題研究による授業	写真投影法 コラージュ療法	60
	ミニレポート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPC12F049A	専門教育科目 心理カウンセリング領域	カウンセリング実務論Ⅱ Theory of Counseling Practice II	2単位	必修	講義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>今日、我が国においてカウンセリングの知見は、教育、医療、福祉分野だけでなく、産業社会や地域社会でも求められている。本授業では、カウンセリング実務論Ⅰに続いて心理治療的側面、教育開発的側面にも視野を広げて、それぞれの現場を想定した実務的、体験的な学びをしてもらう。</p>	
	キーワード	学修教育目標

教育カウンセリング カウンセリング心理学

学修教育目標

カウンセリングの基礎理論および基礎技法を学び、それらを実践的に体験し、カウンセリングの基礎技法を身につける。そのために、学生自身のコミュニケーション能力を高める。自己理解・他者理解が進み、自己肯定感や他者尊重が深まるよう励んでいただく。本科目は、カウンセリング実務士およびピアヘルパーの資格取得に関わる科目であり、資格取得要件を満たすための学習を期待する。

授業科目の概要及び学修上の助言

教育カウンセリングの一環として、構成的グループエンカウンターなどのグループワークを行う。知識理解だけでなく行動と体験で学ぶ事が多いので積極的な参加姿勢が大切である。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

カウンセリング実務論Ⅰ、カウンセリング実務演習Ⅰ・Ⅱ、カウンセリング実務実習、臨床心理学、人格心理学、発達心理学、人間関係論、行動カウンセリングなどと関連する。

教科書

参考書・リザーブドブック

書名：ピアヘルパーワークブック
著者名：日本教育カウンセラー協会 編
出版社：図書文化

書名：カウンセリングの技法
著者名：國分 康孝 著
出版社：誠信書房

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	心理・教育カウンセリングの観点から、エンカウンター等を体験し、実践的に理解すること。	◎
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	カウンセリング実務を学ぶ者としての倫理観を身に着け、個人情報の保護に努める。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	人間関係を良くするためのコミュニケーションスキルを体得する。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	カウンセラーの資質の基本であるコミュニケーション能力を育成する。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力		
	③ 創造力	対話場面における共感性を育てる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	積極的傾聴を体験し、その能力を高める。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	グループワークを行うので、自から規律性、規範性を身に着ける。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	授業時に知り得た個人情報の秘密保持に努める。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		20	20			15	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10		10				5	25
	技能に関する評価		10		10	10				30
	応用力に関する評価		10						5	15
	チームワークに関する評価		5			10				15
	関心・意欲に関する評価		10						5	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各種カウンセリング技法の理論理解と実施方法を習得すること、またそれらについて正確に発表することが出来る。					各種カウンセリング技法の中で一つ以上を理解し、それについて正確に発表することが出来る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	構成的グループエンカウンター①	面接授業	授業の理解・感想などの提出	30
	構成的グループエンカウンターについて			
第2回 /	構成的グループエンカウンター②	課題研究による授業	授業の理解・感想などの提出	30
	ミニレポート			
第3回 /	構成的グループエンカウンター③	面接授業	授業の理解・感想などの提出	30
	ミニレポート			
第4回 /	ソーシャルスキルトレーニング①	課題研究による授業	授業の理解・感想などの提出	30
	ソーシャルスキルトレーニングについて			
第5回 /	ソーシャルスキルトレーニング②	面接授業	授業の理解・感想などの提出	30
	ミニレポート			
第6回 /	写真コラージュ法①	課題研究による授業	授業の理解・感想などの提出	30
	写真コラージュ法とは何か			
第7回 /	写真コラージュ法②	面接授業	授業の理解・感想などの提出 レポート提出	90
	写真コラージュ相互交流			
第8回 /	事例検討①	課題研究による授業	授業の理解・感想などの提出	15
	ミニレポート			
第9回 /	事例検討②	面接授業	授業の理解・感想などの提出	30
	ミニレポート			
第10回 /	学校カウンセリングの実際	課題研究による授業	授業の理解・感想などの提出	30
	ミニレポート			
第11回 /	交流分析①	面接授業	授業の理解・感想などの提出	30
	交流分析について			
第12回 /	交流分析②	課題研究による授業	授業の理解・感想などの提出	30
	エゴグラム実習			
第13回 /	個別面接の基本技法	面接授業	授業の理解・感想などの提出	30
	ミニレポート			
第14回 /	個別面接の基本技法②	課題研究による授業	テストの予習	60
	ミニレポート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPC13S050S	専門教育科目 心理カウンセリング領域	カウンセリング実務演習 I Laboratory in Counseling I	3単位	必修	演習	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>カウンセリングは、言語的および非言語的コミュニケーションを通して、相手の行動変容を援助する人間関係であるとの観点から、理論および実務の方法、倫理規定などを学ぶ。本授業では、2年次までに修得したカウンセリングの基礎理論に基づいて、さらなる実務の理論と技法を学び、それらを実践的に体験していく。そして、コミュニケーションスキルを磨き、カウンセラーとしての資質を養う。また、秋学期および4年次の実習につながるように学ぶ。</p>
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

キーワード	<p>事例、訓練、受容、共感、カウンセリングの歴史、精神力動的理論、人間中心理論、認知行動主義的理論、家族システムの理論、事例研究とスーパービジョン、構成的グループエンカウンター、ストレスマネジメント、教育病理と予防的カウンセリング、スクールカウンセリング、スクールソーシャルワーク</p>	学修教育目標	<p>カウンセリング実務の理論と技法を学び、それらを実践的に体験、カウンセラーとしてその援助を、実際に自らがイメージして行うことができる。</p>
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------	---------------------------------------------------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>カウンセリング・心理療法の理論と実践について学びます。カウンセリングの実際や歴史、主な基礎理論やそれが現代的にはどんな展開を見せているかについて理論を事例と共に学びます。援助者としてのあり方を理論学習と体験学習の両方を通して学びます。 専門的な内容ですが、学んだ専門的な知識や技能を自分の日々の生活や学習に適用しつづけてみてください。自分の今や自分が向き合っている関わりが「ほんの少し」変わることを繰り返し体験することが、人との援助的関わり基礎になります。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>カウンセリング実務論Ⅰ・Ⅱ、臨床心理学、人格心理学、発達心理学、人間関係論、人間関係学、行動カウンセリングなどと関連する。</p>

教科書	参考書・リザーブドブック
<p>書名：ピアヘルパーワークブック 著者名：日本教育カウンセラー協会 出版社：図書文化出版 書名：ピアヘルパーハンドブック 著者名：日本教育カウンセラー協会 出版社：図書文化出版</p>	<p>必要に応じて指示。</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	カウンセリング・心理療法の理論や実践について学習し、臨床的な「あり方」を理解する。	◎
②	心理の分析方法を身につける。	理論と事例から心を分析的にみる方法を味わい理解し、適用できるようにする。	○
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	カウンセリング・心理療法の基礎理論から現代的な展開・進展まで、事例について考える視点を学ぶ。	◎
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	理論と実践から生まれてきた技法について学び、体験学習を通して臨床的な感性やあり方を実習する。	○
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	自分の感じ方や考え方だけでなく、自分とは異なる他者の感じ方や考え方を理解する試みを練習する。自分とは異なる他者を理解するあり方を通して、他者を尊重しながら、援助的に関わる力を身につける。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	自分のなかで起こっていること、他者の心の中で起こっていること、自分と他者の関係性やグループ・集団の中で起こっていることを、心理学的に「考え続け」、理解に基づき援助的に関わる技術を身につける。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分自身で調べた学びを元に講義を聞く、自らが主体となって実習課題を行う。	○
	② 働きかけ力	ペア・ワークやグループ・ワークで他者と共に課題を行う。	○
	③ 実行力	予習や聴講・実習を行う際に、学んでいるカウンセリング・心理療法の技法を自らに適用する。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	予習や実習を行う際に自分が困難な点を見つけ、それを課題として問題解決の方法を考える。	○
	② 計画力	予習や実習を行う際に見通しを自分のなかで形作りながら行う。	○
	③ 創造力	今、ここで、自分のなか、他者のなか、関係性のなかで起きていることを建設的・創造的に用いる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	非言語的なあり方・態度としてそこにいる「プレゼンス」と言語的なコミュニケーションの力を磨く。	○
	② 傾聴力	相手の言語的・非言語的な様々なコミュニケーションに自分の全体で傾聴する力をつける。	○
	③ 柔軟性	今、ここでの相手との交流や非交流を感じ考え、相手のところに触れる対応ができる力を育てる。	○
	④ 状況把握力	自分の心、他者の心の状態や関係性のなかで起こっていることを捉える力を養う。	○
	⑤ 規律性	自分が取り組んでいる課題から離れずに、心の内的設定を保ちながら、課題を遂行する力を育てる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	他者や状況のなかで反応する自分の情動を観察し、適切に対処し「続ける」力を養う。	○
4. 倫理観	① 倫理性	自分のその瞬間の思いだけでなく、思慮深く、他者の心のひろがりや注意を込めて関わる力を養う。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			49	17	5	15			14	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	13	5					53
	技能に関する評価					10				10
	応用力に関する評価		14						5	19
	チームワークに関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価			4					9	13
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>相談業務を行うような設定で、カウンセリングや心理療法の専門的な技能について基本的な業務を実践することができる。</p>					<p>職場や家庭や仲間との間柄など一般的な人間関係の中で、カウンセリング・心理療法の専門的な技能をころにおいて、自分に対しても他者に対しても成長促進的な態度や関わりを考え、実行することができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	カウンセリングとの出会い なぜカウンセリングが求められるのか	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	(予習) 何を学べたらと思って、この授業を選択するのかを言葉で書き出しておいてください。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。(1日で3分の1の量をそれぞれ読みましょう。大きな仕事を分割して実行する練習です)。	40
第2回 /	カウンセリングとカウンセラー カウンセラーへの道程	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	(予習) カウンセリングの訓練についてあらかじめ自分で調べてみましょう。400字以上800字以内でまとめます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。 (復習) 『ピアヘルパーワークブック』37ページで学習した内容読み直します。そして、この一週間で誰かとの会話のときに使ってみてください。	60
第3回 /	カウンセラーの基本 共感と受容	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	(予習) 共感と受容についてあらかじめ自分で調べてみましょう。400字以上800字以内でまとめます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。 (復習) 『ピアヘルパーワークブック』38ページで学習した内容読み直します。そして、この一週間で誰かとの会話のときに使ってみてください。	60
第4回 /	カウンセリングの歴史 日米の比較	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	(予習) カウンセリングの日米の歴史についてあらかじめ自分で調べてみましょう。400字以上800字以内でまとめます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。 (復習) 『ピアヘルパーワークブック』39ページで学習した内容読み直します。そして、この一週間で誰かとの会話のときに使ってみてください。	60
第5回 /	基礎理論 (1) 精神力動的理論	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	(予習) 『ピアヘルパーワークブック』25ページをあらかじめ読んで理解しておきます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第6回 /	基礎理論 (2) 人間中心的理論	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	(予習) 『ピアヘルパーワークブック』24ページをあらかじめ読んで理解しておきます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第7回 /	基礎理論 (3) 認知行動主義的理論	個人ワークならびにペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	(予習) 『ピアヘルパーワークブック』26ページをあらかじめ読んで理解しておきます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第8回 /	基礎理論 (4) 家族システムの理論	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	(予習) 家族システム論についてあらかじめ自分で調べて情報を得ておきましょう。800字以上1200字以内でまとめます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。 (復習) 授業で学習したワークや技法を復習して、身近な人間関係で応用できるか考えてみます。	60
第9回 /	面接技法の理論と実際 事例研究とスーパーヴィジョン	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	(予習) 事例研究についてあらかじめ自分で調べて情報を得ておきましょう。800字以上1200字以内でまとめます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。 (復習) 『ピアヘルパーワークブック』40・41ページで学習した内容読み直します。そして、この一週間で誰かとの会話のときに使ってみます。	60
第10回 /	開発的カウンセリングの理論と実際 構成的グループエンカウンター	グループワークでの実習と講義 面接授業	(予習) 『ピアヘルパーワークブック』10ページから21ページをあらかじめ読んで理解しておきます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第11回 /	現代人の生活とカウンセリング(1) ストレス・マネジメント、他	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	(予習) 『ピアヘルパーワークブック』46・47ページをあらかじめ読んで理解しておきます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第12回 /	現代人の生活とカウンセリング(2) 教育病理と予防的カウンセリング	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	(予習) 『ピアヘルパーワークブック』48・49ページをあらかじめ読んで理解しておきます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第13回 /	学校におけるカウンセリング スクールカウンセリング、スクールソーシャルワーク	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	(予習) 『ピアヘルパーワークブック』50ページと54ページをあらかじめ読んで理解しておきます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第14回 /	まとめ カウンセラーとしての援助	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	(予習) 『ピアヘルパーワークブック』51ページから53ページをあらかじめ読んで理解しておきます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPC13F050A	専門教育科目 心理カウンセリング領域	カウンセリング実務演習Ⅱ Laboratory in Counseling Ⅱ	3単位	必修	演習	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>カウンセリング実務演習Ⅰで修得した理解と技術を基本に、さらにクライアントを深く理解するための理論や心理アセスメントを学び、総合的な理解に基づいてクライアントに向き合うことを目指す。また、臨床領域の理解とともに、カウンセリングの流れに応じた活動を応用としておさえ、実践的に学ぶ。</p>
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

キーワード	<p>無意識、意識、初回面接、家族力動、パーソナリティ、質問紙、投影法、心理アセスメント、心理検査のフィードバック、来談者中心療法、認知行動療法、精神分析的な心理療法</p>	学修教育目標	<p>総合的な理解に基づいてクライアントに向き合い、カウンセリングを行うことができる。また、臨床領域の理解とともに、カウンセリングの流れに応じた活動を行うことができる。</p>
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------	--------	------------------------------------------------------------------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

カウンセリング、相談業務を行うのに必要な、援助者としての関わり方を学びます。初回面接や見立ての仕方、心理検査、心理療法のアプローチ、カウンセラーの働く現場について知り、援助者としての学びを深めます。援助者としての関わり方を理論学習と体験学習の両方を通して学びます。専門的な内容ですが、学んだ専門的な知識や技能を自分の日々の生活や学習に適用しつづけてみてください。自分の今や自分が向き合っている関わりが「ほんの少し」変わることを繰り返し体験することが、人との援助的関わり方の基礎になります。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

カウンセリング実務論Ⅰ・Ⅱ、臨床心理学、人格心理学、発達心理学、人間関係論、人間関係学、行動カウンセリングなどと関連する。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：私設 対象関係論的心理療法入門
著者名：松木 邦裕
出版社：岩崎学術出版

なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	カウンセリング・心理療法の理論や実践について学習し、臨床的な「関わり」を身につける。	◎
②	心理の分析方法を身につける。	理論と事例から心を分析的にみる方法を学習し、実際に用いる練習をする。	◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	カウンセリング・心理療法の理論と実践について学び、方法的な関わり方を身につける。	◎
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	心理アセスメントや心理療法のアプローチに体験学習を通して臨床的なあり方や関わり方を実習する。	◎
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	自分の感じ方や考えだけでなく、自分とは異なる他者の感じ方や考え方を理解する試みを練習する。自分とは異なる他者を理解するあり方を通して、他者を尊重しながら、援助的に関わる力を身につける。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	自分のなかで起きていること、他者の心の中で起きていること、自分と他者の関係性やグループ・集団の中で起きていることを、心理学的に「考え続け」、理解に基づき援助的に関わる技術を身につける。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分自身で調べた学びを元に講義を聞く、自らが主体となって実習課題を行う。	○
	② 働きかけ力	ペア・ワークやグループ・ワークで他者と共に課題を行う。	○
	③ 実行力	予習や聴講・実習を行う際に、学んでいるカウンセリング・心理療法の技法を自らに適用する。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	予習や実習を行う際に自分が困難な点を見つけ、それを課題として問題解決の方法を考える。	○
	② 計画力	予習や実習を行う際に見通しを自分のなかで形作りながら行う。	○
	③ 創造力	今、ここで、自分のなか、他者のなか、関係性のなかで起きていることを建設的・創造的に用いる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	非言語的なあり方・態度としてそこにいる「プレゼンス」と言語的なコミュニケーションの力を磨く。	○
	② 傾聴力	相手の言語的・非言語的な様々なコミュニケーションに自分の全体で傾聴する力をつける。	○
	③ 柔軟性	今、ここでの相手との交流や非交流を感じ考えて、相手のところに触れる対応ができる力を育てる。	○
	④ 状況把握力	自分の心、他者の心の状態や関係性のなかで起きていることを捉える力を養う。	○
	⑤ 規律性	自分が取り組んでいる課題から離れずに、心の内的設定を保ちながら、課題を遂行する力を育てる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	他者や状況のなかで反応する自分の情動を観察し、適切に対処し「続ける」力を養う。	○
4. 倫理観	① 倫理性	自分のその瞬間の思いだけでなく、思慮深く、他者の心のひろがりや注意を含めて関わる力を養う。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			44	13	9	20			14	100
評価 の 指標	知識に関する評価		36	10	5					51
	技能に関する評価					10				10
	応用力に関する評価		8						7	15
	チームワークに関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価			3	4	5			7	19
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>相談業務を行うような設定で、カウンセリングや心理アセスメント・心理療法の専門的な技能について基本的な業務を実践することができる。</p>					<p>職場や家庭や仲間との間柄など一般的な人間関係の中で、カウンセリング・心理療法の専門的な技能をこころにおいて、自分に対しても他者に対しても成長促進的な態度や関わりを考え、実行することができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	心の世界について 意識と無意識について ことばと表象の体験（箱庭、コラージュ、描画などを用いて理解する）	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	（予習）「意識と無意識」についてあらかじめ自分なりに調べて文章にしてください。A4の紙1枚に400字以上1200字未満でまとめて、レポートにして提出します。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第2回 /	カウンセリングの流れ 出会い：初回面接 出会いの設定と態度、雰囲気、観察 インテークに必要な情報について	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	（予習）『私説対象関係論的心理療法入門』52ページから69ページ上から7行目までを読んでおきます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第3回 /	家族力動の理解とパーソナリティー 家族歴と生育歴 家族システムと発達課題の理解	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	（予習）『私説対象関係論的心理療法入門』107ページから121ページまでを読んでおきます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第4回 /	心理アセスメント(1) 簡単な質問紙法と投影法 TEG、バウムテストの体験をとおして	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	（予習）質問紙法と投影法についてあらかじめ自分で調べてA4サイズの紙に400字以上、1200字以内でレポートにして提出してください。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第5回 /	心理アセスメント(2) 無意識の理解とパーソナリティー 風景構成法の体験を通して	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	（予習）風景構成法とは何かをあらかじめ自分で調べて情報を得ておきましょう。400字以上800字以内でまとめます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第6回 /	心理アセスメント(3) 無意識の理解とパーソナリティー ロールシャッハテスト	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	（予習）ロールシャッハテストとは何かをあらかじめ自分で調べて情報を得ておきましょう。400字以上800字以内でまとめます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第7回 /	心理アセスメント(4) TAT、MMPI などを用いて	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	（予習）主題統覚検査とは何かをあらかじめ自分で調べて情報を得ておきましょう。400字以上800字以内でまとめます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第8回 /	パーソナリティーの診断と見たて クライアントの病理、対人関係の取り方、不安について学ぶ	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	（予習）『私説対象関係論的心理療法入門』V「パーソナリティーを見よう」30ページから44ページまでを読んでおきます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第9回 /	パーソナリティーの総合的な理解とカウンセリング パーソナリティーの理解とフィードバックについて (所見レポート、インフォームドコンセント、告知などに)	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	（予習）『私説対象関係論的心理療法入門』Ⅲ「口のはさみ方の種類」93ページから106ページを読んでおきます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第10回 /	アプローチの方法(1) -来談者中心療法- ロジャーズのパーソナリティー理論とその進め方	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	（予習）来談者中心療法について自分であらかじめ調べて情報を得ておきましょう。800字以上1200字以内でまとめます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第11回 /	アプローチの方法(2) -認知行動療法- 受け取り方と心の問題について 心の解放に向う進め方	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	（予習）認知行動療法について自分であらかじめ調べて情報を得ておきましょう。800字以上1200字以内でまとめます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第12回 /	アプローチの方法(3) -精神分析的な心理療法- 無意識の理解とこころの解放に向う進め方 (明確化、直面化、解釈など)	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	（予習）精神分析的な心理療法について自分であらかじめ調べて情報を得ておきましょう。800字以上1200字以内でまとめます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第13回 /	カウンセラーとして働く場 学校、病院、警察の少年相談など	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	（予習）教育、医療、司法、産業、福祉などのさまざまな領域の中で自分の興味のある分野でカウンセリングや心理療法、心理学がどのように用いられているか、自分で調べてみましょう。800字以上1200字以内にまとめます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第14回 /	まとめ カウンセリング・心理療法	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義 面接授業	（予習）これまで14回の授業の中で自分が学んだ重要なことを書きだしてみましょう。自分が現在やこれからの生活で使える考え方や技法、気付きを800字以上1200字以内にまとめます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPC31F051	専門教育科目 心理カウンセリング領域	健康心理学 Health Psychology	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	「健康心理学」においては、健康の維持と増進、疾病の予防など健康に関わる知識を、心理学を基礎にさまざまな視点から学ぶ。また、ストレスについて学び、生活習慣病になりやすい行動パターン等についても理解し、運動実践への動機づくりや各自の健康リスク行動を含めた生活習慣の見直しをはじめとして、健康な生活を送っていくために健康心理学の知見を活用する。
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

キーワード	健康概念 ストレス対処 健康行動	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、健康心理士の資格取得を目指すための健康心理学専門必修科目の一つである。本科目を含めて、履修の手引きに示されている資格取得要件を満たすことによって、「健康心理士」の資格を取得することができる。 ・本科目は、「健康運動実践指導者」受験資格要件科目の一つである。履修の手引きに示されている要件を満たすことによって、人びとの健康づくりのための運動指導者に与えられる「健康運動実践指導者」の資格を取得することができる。 ・健康心理学への理解を深め、心身の健康に向けて各自の生活習慣を見直し、改善していくための知識を身につけることができる。
-------	------------------	--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

実際生活に関わる新しい学問領域であることを理解して、健康概念の変遷やストレス研究の最新知識を真摯に学ぶことが求められる。加えて、自他の健康行動と健康生活に留意する態度が求められる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目との関連
健康心理カウンセリング・健康心理カウンセリング実習・健康心理アセスメント・健康心理アセスメント実習・生涯発達と健康教育
履修に必要な予備知識や技能
心理カウンセリング関連科目の履修が望ましい。

教 科 書

参考書・リザーブドブック

書 名：健康心理学概論 著者名：日本健康心理学会編 出版社：実務教育出版	書 名：健康心理学がとってもよくわかる本 著者名：野口京子 出版社：東京書店
--------------------------------------------	----------------------------------------------

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	学術的、専門的な情報に基づいた知識の習得と健康生活を心がける。	◎
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	心理学の健康的側面について議論する。	○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	ストレス・マネジメントおよびコーピングの技能を身に着ける。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	教科書の予習、授業準備につとめること。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	広範な知識体系を持つ領域であるので、着実な学習と理解を進めること。	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力	ストレス研究が中心的な概念であるので、アセスメント演習などに力を入れる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	授業中に得た他者の個人情報秘密保持に努める。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30				20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10		20				10	40
	技能に関する評価		10						10	20
	応用力に関する評価		10		5					15
	チームワークに関する評価		10							10
	関心・意欲に関する評価		10		5					15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>テキストに沿った理論や情報を確実に理解し、参考書籍やネット検索情報なども整合させて理解を深めること。また、試験やレポートには、誤りなく論述できること。</p>					<p>左の内容について、誤字脱字や、字数制限を大きく逸脱しない程度を標準的な達成レベルとする。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション ー健康心理学を学ぶにあたってー 心の健康論	面接授業	次時授業の予習	30
第2回 /	健康心理学とは 健康の概念および健康心理学成立への経緯	課題研究による授業	次時授業の予習	30
第3回 /	健康心理学の基礎理論(1) 健康心理学の理解を深めるための心理学の基礎理論	面接授業	次時授業の予習	30
第4回 /	健康心理学の基礎理論(2) 健康心理学の理解を深めるための心理学の学説史	課題研究による授業	次時授業の予習	30
第5回 /	健康心理学の基礎理論(3) 健康心理学の理解を深めるための心理学の現状	面接授業	次時授業の予習 レポート作成	60
第6回 /	健康維持の生理学的側面 神経系、免疫系、内分泌系等の働きと健康・維持との関連 レポート提出	課題研究による授業	次時授業の予習	30
第7回 /	ストレスと健康 ストレスとは何か、ストレス対処、ストレス理論およびストレスの心身に及ぼす影響について	面接授業	次時授業の予習	30
第8回 /	健康とパーソナリティ パーソナリティと疾病との関連、および行動や性格の特徴をふまえて健康を考える	課題研究による授業	次時授業の予習	30
第9回 /	健康行動と健康習慣 健康行動への理解を深める	面接授業	次時授業の予習	30
第10回 /	健康行動と疾病予防 健康増進や疾病予防に影響を及ぼす睡眠や喫煙、食生活等について、運動の心理的効果	課題研究による授業	次時授業の予習	30
第11回 /	生活習慣と健康との関連 生活習慣病およびその予防について	面接授業	次時授業の予習 レポート作成	60
第12回 /	ソーシャルサポートとヘルスケアシステム ソーシャルサポートとヘルスケアシステム レポート提出	課題研究による授業	次時授業の予習	30
第13回 /	健康心理アセスメントの方法 健康心理学におけるアセスメントの概要	面接授業	次時授業の予習	30
第14回 /	健康心理カウンセリングの基本 人びとの健康に関する問題への援助活動を行うために健康心理カウンセリングの基本を学ぶ	課題研究による授業	テストの予習	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPC32F052	専門教育科目 心理カウンセリング領域	生涯発達と健康教育 Life-span Development and Health Education	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的

人間の一生の生涯発達と健康教育は、人間の一生の健康の維持・増進と疾病の予防・治療に貢献する健康心理学の1つの重要な応用分野である。従来の健康教育では、人々は教育指導を受けるものとして、受け身的な立場に立たされてきた。しかしこれからの健康教育では、能動的な学習者とみなされ、その学習を援助することが本来の健康教育のあり方とされるようになった。そしてまた、たんに能動的に学習するのみでなく、学習した健康教育をみずから前向きに受容し、生涯発達の各段階においてライフスタイルをより健康的なものに変容することにそのもっとも重要なポイントがある。本講義では、既述の観点から生涯発達と健康教育について具体的に学び、ひるがえって学生諸君の青年期におけるいっそう健康な行動スタイルの獲得と実践を目的としたい。

キーワード

エリクソン
ライフサイクル
佐藤一斎
健康行動モデル
感覚・知覚・認知

学修教育目標

生涯発達における、エリック・エリクソンの考え、特にアイデンティティだけでなく、ほかの7段階の発達課題も、人間の一生を考えると重要な発達課題であることを理解できる。また、健康教育は、地域、具体的には市町村との関連が重要であり、さらにWHOなど、グローバルな視点で不可欠であることを理解できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

発達とは、乳幼児期、児童期、学童期、思春期、青年期にとどまらず、成人期や中年期、老年期、そして高齢期と人の一生を考えると大事になってきている。もちろん、一人前の成人になるまでの発達過程が変化が大きく重要であるが、社会を支える中高年の心身の在り方、医療の発展により治療より予防が重要になってきた健康のあり方、生活習慣が日常的な課題となり、さらに日本では4人に1人が高齢者の時代となり、健康維持、健康教育は現代社会において学ばなければならない重要な課題となっている。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「健康心理学」「発達心理学」「人格心理学」の理解につながる。
予習課題を教科書の中から、または追加資料を用意して提出するので、教室を離れても学習することを身につける。

教科書

書名：健康教育概論（健康心理学基礎シリーズ4）
著者名：日本健康心理学会
出版社：実務教育出版

参考書・リザーブブック

授業の中で適宜紹介する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	心理学のカバーする領域は広く共通の基礎知識が重要であることを理解できる。	◎
②	心理の分析方法を身につける。	心理アセスメントの幅広い適用例を理解できる。	◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	コミュニケーション力を理解できる。	○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	健康なライフスタイルを理解できる。	○
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	人間の一生の生涯発達と健康教育は、ライフスタイルをより健康的なものに変容し、個人そして地域の活性化につながることを理解できる。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	健康教育は、健康の維持・増進と疾病の予防・治療に貢献する健康心理学の重要な応用分野であり、人間の一生にとって重要であることが理解できる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	社会における健康教育の能動的な学習を援助する者として知識を吸収することができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	わかっていること、わかっていることを明確にして学習に取り組むことができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聴いて、理解することができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	他受講生の課題取り組みへの理解と自己のライフスタイルの向上に取り組むことができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	30	20					100
評価 の 指標	知識に関する評価		20	10	10					40
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		20	10	5					35
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10	10	5					25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>社会における健康教育の能動的な学習を援助する者として知識を吸収することが充分にできるようになる。さらに、自己のライフスタイルの向上に取り組むことができる。</p>					<p>社会における健康教育の能動的な学習を援助できる。 率先して理解したことを実践していけるまでには充分でない。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / ／	生涯発達と健康教育 ① 生涯発達と健康教育	講義 受講アンケート調査 面接授業	教科書の予習 (KYB プログラム)	30
	これまでの学習をどの程度理解していたか評価する			
第2回 / ／	健康教育 ① 健康教育の歴史と現況 (KYB プログラム) ② 健康教育の意義と目標	講義 受講アンケート調査結果のまとめ 小テスト (KYB) 面接授業	予習結果のまとめ (KYB プログラム) 教科書の予習 (健康行動)	30 30
	医療・生活習慣病・健康教育の流れ、の理解の評価			
第3回 / ／	健康行動 ① 健康行動の概念・分類 ② 個人の、個人間の、社会の健康行動モデル	小テスト返却 講義 面接授業	予習結果のまとめ (健康行動) 教科書の予習 (ライフスタイル)	30 30
	健康行動を理解したかを評価する			
第4回 / ／	ライフスタイル ① ライフスタイルの健康教育の必要性 ② 生活やスポーツ、喫煙などの影響	講義 面接授業	予習結果のまとめ (ライフスタイル) 教科書の予習 (発育・発達の大枠)	30 30
	生活習慣の重要性を理解したか、評価する			
第5回 / ／	水平的発達、垂直的発達	講義 面接授業	予習結果のまとめ (発育・発達の大枠) 教科書の予習 (プリシード・プロシードモデル)	30 30
	発育・発達の体系を基礎として理解したかを評価する			
第6回 / ／	健康教育の手順 ① 健康上の問題の発生・把握・分析・立案、そして実施の留意点	講義 課題レポート作成と提出 (プリシード・プロシードモデル) 面接授業	予習結果のまとめ (プリシード・プロシードモデル) 教科書の予習 (家庭と学校)	30 30
	プリシード・プロシードモデルをどこまで理解したか、評価する			
第7回 / ／	人間形成 ① 人間形成の場における健康教育の実施 (家庭) ② 人間形成の場における健康教育の実施 (学校)	レポート返却 講義 面接授業	予習結果のまとめ (家庭と学校) 資料について予習 (佐藤一斎)	30 30
	人間は家庭と学校で形成されることを理解したか評価する			
第8回 / ／	生涯発達哲学 ① 江戸時代の生涯発達哲学	講義 課題レポート作成と提出 (佐藤一斎) 面接授業	予習結果のまとめ (佐藤一斎) 教科書の予習 (医療モデルから生活モデルへ)	30 30
	世界に先駆けた佐藤一斎の生涯学習説を理解したか、評価する			
第9回 / ／	医療・福祉 ① 医療モデルから生活モデルへ	レポート返却 講義 小テスト (医療モデルから生活モデルへ) 面接授業	予習結果のまとめ (医療モデルから生活モデルへ) 教科書の予習 (ストレスマネジメント)	30 30
	キュアからケアへのパラダイムシフトを理解したか、評価する			
第10回 / ／	ストレス自己管理 ① ストレスマネジメント教育とは何か	小テスト返却 講義 課題レポート作成と提出 (ストレスマネジメント教育) 面接授業	予習結果のまとめ (ストレスマネジメント) 教科書の予習 (健康日本21)	30 30
	ストレスの構造を理解したか、評価する			
第11回 / ／	ヘルスケア・システム ① ヘルスケア・システムと健康教育との関連 (健康日本21)	レポート返却 講義 小テスト (健康日本21) 面接授業	予習結果のまとめ (健康日本21) 資料について予習 (グローバルな健康教育)	30 30
	国民健康づくり運動を理解したか、評価する			
第12回 / ／	グローバルな健康教育 ① 健康信念モデル、UNESCO, WHO	小テスト返却 講義 課題レポート作成と提出 (UNESCO, WHO) 面接授業	予習結果のまとめ (グローバルな健康教育) 教科書の予習 (健康教育指導者)	30 30
	グローバルな健康教育を理解したか、評価する			
第13回 / ／	健康教育指導者 ① 健康教育指導者の役割と養成 ② 日本の「認定健康心理士」の資格と教育訓練について	レポート返却 講義 面接授業	予習結果のまとめ (健康教育指導者) 教科書の予習 (健康教育カウンセリング)	30 30
	「認定健康心理士」の役割の理解の評価			
第14回 / ／	カウンセリング ① 健康教育カウンセリングの理論と技術 ② 一般のカウンセリングとの差異	講義 面接授業	予習結果のまとめ健康教育カウンセリング) 教科書の予習 (発達、発育、健康)	30 30
	カウンセリングの理解度の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPC32S053	専門教育科目 心理カウンセリング領域	健康心理カウンセリング Health Psychology Counseling	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	健康心理カウンセリングでは、「健康増進、健康維持、健康回復に必要な生活習慣を形成することを主目的として、心理学的立場から、個人あるいはグループを対象として行われる実践的援助活動であること」を学び、身につけることを目指す。 古くからいわれているように、「大欲を抱かず、健全な身体に健全な精神が宿る」ように、日々生活し努力する、そして「自分のからだを知ろう」という意欲を持ち続けることを目指す。	
	キーワード	学修教育目標

カウンセリングのプロセス
認知行動療法的アプローチ
自己効力感
ストレスマネジメント

学修教育目標

健康心理カウンセリングの基本的考え方や技法、適用法を理解し、隣接領域である臨床心理学における心理療法との、類似点、相違点についても明確にできる。

授業科目の概要及び学修上の助言

カウンセリングは、現在幅広くあらゆる学問領域において学習の基幹とされている。特に心理学、そして健康心理学においても重要であり、カウンセリングは学習する取り組みにおいて、指導する側と指導される側が、相互にどういう状況にあり何が伝えられることにより成果が上がるか、健康心理カウンセリングは「健康増進、健康維持、健康回復に必要な生活習慣を形成することを目的とし」、受講生は「何をどこまで知り得て何を知ることが望ましいか」を検討しながら授業が進められるので、受講生はどこまで理解しどこが理解できないか、その都度授業の中で自己反芻していくことが望ましい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「健康スポーツ」「生理生化学」の理解につながる。
予習課題を教科書の中から、または追加資料を用意して提出するので、教室を離れても学習することを身につける。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：健康心理学基礎シリーズ③ 「健康心理カウンセリング概論」
著者名：日本健康心理学会（編）
出版社：実践教育出版

授業の中で適宜紹介する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	年齢や目的に応じてスポーツや生活を意識的に取り組むことができる。	◎
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	率先して「健康増進、健康維持、健康回復の生活習慣」を形成することができる。	○
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	学修成果がどこまで進んでいるか確認しコミュニケーション力を鍛えることができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	「健康増進、健康維持、健康回復の生活習慣」の形成を率先して実践する。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	例えば、飲酒行動は受講生やクライアントの状況により多様であることを理解する。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	行動変容ステージモデルの五段階から、個々人の異なるステージを理解する。	○
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	他受講生の行動変容への理解と自己の生活習慣への取り組みの強化。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	30	20					100
評価 の 指 標	知識に関する評価		20	10	10					40
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		20	10	5					35
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10	10	5					25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>「健康増進、健康維持、健康回復に必要な生活習慣を形成すること」を十分に理解し実践できるようになる。さらに個人またはグループを対象として「実践的な援助活動」ができるようになる。</p>					<p>「健康増進、健康維持、健康回復と生活習慣」を理解できる。率先して理解したことを実践していけるまでには充分でない。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	健康心理カウンセリング ① 臨床心理学におけるカウンセリング ② 健康心理カウンセリングの意義と役割	講義 受講アンケート調査 面接授業	教科書の予習（プロセスについて）（教科書 第3章）	30
	臨床心理学におけるカウンセリングをどの程度理解しているか			
第2回 /	健康心理カウンセリング ① 健康心理カウンセリングの進め方（教科書第3章）	講義 課題レポートの作成と提出（プロセスについて） 面接授業	予習結果のまとめ（プロセスについて） 教科書の予習（三項随伴性）	30 30
	プロセスについて、の理解			
第3回 /	健康心理カウンセリングで用いる技法（1） ① カウンセリング技法－認知行動療法	レポート返却 講義 課題レポートの作成と提出（三項随伴性について） 面接授業	予習結果のまとめ（三項随伴性） 教科書の予習（交流分析）	30 30
	悪循環、三項随伴性、の理解			
第4回 /	健康心理カウンセリングで用いる技法（2） ① カウンセリング技法－交流分析	レポート返却 講義 視聴覚教材（交流分析） 聴解テスト（小テスト） 面接授業	予習結果のまとめ（交流分析） 教科書の予習（自律訓練法）	30 30
	TEG(テグ)の理解			
第5回 /	健康心理カウンセリングで用いる技法（2） ① カウンセリング技法－自律訓練法	聴解テスト（小テスト）返却 講義 視聴覚教材（自律訓練法） 聴解テスト（小テスト） 面接授業	予習結果のまとめ（自律訓練法） 教科書の予習（理性感情行動療法）	30 30
第6回 /	健康心理カウンセリングで用いる技法（2） ① カウンセリング技法－理性感情行動療法	聴解テスト（小テスト）返却 講義 面接授業	予習結果のまとめ（理性感情行動療法） 教科書の予習（喫煙行動のカウンセリング）	30 30
第7回 /	喫煙行動の害 1. 禁煙カウンセリングについて	講義 面接授業	予習結果のまとめ（喫煙行動のカウンセリング） 教科書の予習（飲酒行動のカウンセリング）	30 30
第8回 /	飲酒問題のカウンセリング ① 飲酒問題におけるカウンセリングについて	講義 面接授業	予習結果のまとめ（飲酒行動のカウンセリング） 教科書の予習（食行動のカウンセリング）	30 30
第9回 /	食行動のカウンセリング 食行動の変容を目指すカウンセリングについて	講義 小テスト（食行動） 面接授業	予習結果のまとめ（食行動のカウンセリング） 教科書の予習（エイズ患者へのカウンセリング）	30 30
第10回 /	身体疾患におけるカウンセリング ① 身体疾患にともなう心理的問題	小テスト返却 講義 面接授業	予習結果のまとめ（エイズ患者へのカウンセリング） 教科書の予習（ステージモデル）	30 30
第11回 /	プロチャスカのステージモデル （健康行動の変容）	講義 課題レポート作成と提出 面接授業	予習結果のまとめ（ステージモデル） 教科書の予習（タイプA行動のカウンセリング）	30 30
	ステージモデルの活用の理解を評価する			
第12回 /	健康を害しやすい性格とカウンセリング ① タイプA行動パターン	講義 課題レポートの返却 課題レポートの作成と提出（タイプA行動について） 面接授業	予習結果のまとめ（タイプA行動のカウンセリング） 教科書の予習（ストレスマネジメント）	30 30
第13回 /	ストレスマネジメント ① ストレスマネジメントにおけるカウンセラーの教育的役割	講義 面接授業	予習結果のまとめ（ストレスマネジメント） 教科書の予習（健康心理カウンセリングとヘルスケアシステム）	30 30
第14回 /	健康心理カウンセリングとヘルスケアシステム ① 組織の中での健康心理カウンセラーの役割について	講義 面接授業	予習結果のまとめ（健康心理カウンセリングとヘルスケアシステム） 教科書の予習（ヘルスケア行動）	30 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPC32F054	専門教育科目 心理カウンセリング領域	健康心理カウンセリング実習 Health Psychology Counseling Practice	1単位	選 択	演 習	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標							
学修教育目的	健康心理カウンセリングの基礎を踏まえ、各種の心理検査、実際のカウンセリングの進め方や、クライアントとの会話の仕方、各種のカウンセリング技法について、認知行動療法の理論と実践を学習し、特にロールプレイなどの実践を実習形式で学ぶ。						
キーワード	健康心理カウンセリング カウンセリング技法 認知行動療法 ロールプレイ	学修教育目標	健康心理カウンセリングの基礎を踏まえ、認知行動療法のカウンセリングの進め方や、クライアントとの会話の仕方、各種のカウンセリング技法について基本から学び、対人関係や社会に向き合ったときに学習結果を活用出来るようになる。				
授業科目の概要及び学修上の助言							
<p>授業科目の概要 本科目では健康心理カウンセリングで学んだ内容を実習する。特に行動療法、認知行動療法を中心とした健康心理カウンセリングの基礎を実習する。</p> <p>学修上の助言 本科目は健康心理士資格関連科目である。</p>							
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能							
<p>他の科目との関連 健康心理学・健康心理カウンセリング・健康心理アセスメント・健康心理アセスメント実習・生涯発達と健康教育</p> <p>履修に必要な予備知識や技能 心理カウンセリング関連科目の履修が望ましい。</p>							
教 科 書				参考書・リザーブドブック			
書 名：健康心理学基礎シリーズ② 健康心理アセスメント概論 著者名：日本健康心理学会（編） 出版社：実践教育出版				授業の中で適宜紹介する。			
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）					
①	心理の専門知識を身につける。						
②	心理の分析方法を身につける。						
③	心理カウンセリングの知識を身につける。						
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	健康心理カウンセリングの技法を身につける。					◎
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。						
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。						
授業科目における社会人基礎力の育成目標							
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）					
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。					◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。					○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。					○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。					○
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことについて、十分に説明できる。					○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。					○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。					○
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。					○
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。					○
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。					○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べることができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状態では発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	30	20					100
評価 の 指標	知識に関する評価		20	10	10					40
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		20	10	5					35
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10	10	5					25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
健康心理カウンセリングの基礎、認知行動療法、各種のカウンセリング技法について理解でき、対人関係や社会で活用出来るようになる。 健康心理士の資格を取得する。					健康心理カウンセリングの基礎、認知行動療法、各種のカウンセリング技法について理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	心理学概論等で学習した「カウンセリング」の内容の確認	講義 受講アンケート調査 面接授業	行動主義（教科書「はじめて出会う心理学」）の予習	90
	既に学習したことをどこまで活用できたか評価する。			
第2回 /	カウンセリングの基本「傾聴」すること、「傾聴」されること、を理解する。	受講アンケート調査結果のまとめ 講義 面接授業	教科書の予習（セルフ・エフィカシー）	90
	行動理論のカウンセリングへの寄与の理解を評価する。			
第3回 /	ポムス（気分プロフィール検査）の実習	実習 検査結果の集計とレポート作成 面接授業	ポムスの活用実態の理解	90
	ポムスのレポート評価			
第4回 /	セルフ・エフィカシーと行動変容	レポート返却 講義 課題レポート作成と提出 （セルフ・エフィカシー） 面接授業	教科書の予習（RET）	90
	セルフ・エフィカシー（自己効力感）の理解を評価する。			
第5回 /	合理情動療法（RET）	講義 課題レポート作成と提出 （RET） 面接授業	資料について予習（社会的学習理論と認知行動療法の発展）	90
	合理情動療法（RET）の理解度を評価する。			
第6回 /	社会的学習理論と認知行動療法の発展	講義 小テスト 面接授業	教科書の予習（認知とは何か）	90
	社会人基礎力に臨床場面の活用をどこまで考えるかを評価する。			
第7回 /	内田クレペリン精神検査の実習	実習 検査結果の集計とレポート作成 面接授業	クレペリン検査の活用の理解	90
	クレペリン検査のレポート評価			
第8回 /	セルフコントロールとセルフモニタリング	小テスト 面接授業	資料について予習	90
	行動の二側面をどこまで理解したかを評価する。			
第9回 /	友人関係の影響 バンデューラ、モデリング	講義 課題レポート作成と提出 面接授業	教科書の予習（神経性食欲不振症）	90
	具体的な場面をどの程度理解できるかを評価する。			
第10回 /	認知行動療法 事例研究	講義 レポート返却 面接授業	教科書の予習（ストレスと認知）	90
	事例をどの程度理解できるかを評価する。			
第11回 /	スタイ（STAI 状態・特性不安検査）の実習	実習 検査結果の集計とレポート作成 面接授業	資料について予習（ロールプレイ）	90
	スタイのレポート評価			
第12回 /	ロールプレイ	レポート返却 講義 Video、videoの聴解テスト（小テスト） 面接授業	教科書の予習（認知的反応検査）	90
	治療がどう進むかの理解度を評価する。			
第13回 /	社会不安障害（SAD）に対する認知行動モデル	小テスト返却 講義 面接授業	教科書の予習（行動的技法と認知的技法）	90
	社会に向き合ったとき、どう学習を活用するかの理解度を評価する。			
第14回 /	社会不安障害（SAD）に対する認知行動療法（CBT）	講義 面接授業	教科書の予習（行動的裏付けの必要性）	90
	社会に向き合ったとき、どう実践していくかの理解度を評価する。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPC33S055	専門教育科目 心理カウンセリング領域	健康心理アセスメント Health Psychology Assessment	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>アセスメント（査定）は、「対象（者）のさまざまな特徴を総合的に評価すること」である。本授業では健康心理学領域におけるアセスメントの方法や役割について学び活用するための知識を獲得する。心理学が扱う変化は、言語として人間の外側へ出て来るものを評価するので、言葉が持つ役目を理解し、活用できるようになる。</p>	
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

キーワード	<p>アセスメント ストレス 心理的健康</p>	学修教育目標	<p>アセスメントはカウンセリングを進めていく上での羅針盤ともなるべき重要なものである。アセスメントの方法をカウンセリングとの関連も踏まえて理解し説明できるようになる。</p>
-------	----------------------------------	--------	------------------------------------------------------------------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>健康心理にかかわるアセスメントの方法や一般的な留意点について述べ、後半はアセスメントの種類と活用について、具体的なアセスメントの種類等を挙げて授業を進める。アセスメントシートなどを実際に記入して、自己理解にも役立ててほしい。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>「健康心理学」「臨床心理学Ⅰ」などの理解につながります。</p>

教科書

参考書・リザーブドブック

<p>書名：健康心理学基礎シリーズ② 「健康心理アセスメント概論」 著者名：日本健康心理学会（編） 出版社：実践教育出版</p>	<p>授業の中で適宜紹介する。</p>
--------------------------------------------------------------------------	---------------------

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	健康をアセスメントの視点から理解することの有用性や限界について理解できる。	◎
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題などに主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	日常生活習慣など健康を維持する観点から見直す。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考え、感想を文章や口頭で説明することができる。	○
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスの発生源やその程度、日常生活における影響を評価することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	15	15				20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	15	10					75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5				10	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
健康アセスメントの視点から、日常生活を見直し、生活に生かすことができる。また、積極的に健康を増進することができるように、行動を起こす。					健康アセスメントの視点から、日常生活を見直し、生活に生かすことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	アセスメントの意義と役割 ① アセスメント（査定）とは何か？ ② アセスメントを実施する意義とその役割について コメントシート、小テストなど	面接授業	復習：授業内容に関する小レポート	10
第2回 ／	アセスメントのターゲット 「誰」の「何」を対象にアセスメントするか コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第3回 ／	アセスメントの方法 アセスメントにおける様々な方法を紹介 コメントシート、小テストなど	オンデマンドによる遠隔授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第4回 ／	アセスメントへの必要条件 アセスメントが成り立つための必要条件について コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第5回 ／	アセスメントの留意点 実施上の留意点について コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第6回 ／	「パーソナリティ」のアセスメント (1) 様々なパーソナリティの測定法 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第7回 ／	「パーソナリティ」のアセスメント (2) 健康心理領域での活用法について コメントシート、小テストなど	オンデマンドによる遠隔授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第8回 ／	「ストレス」のアセスメント ① ストレスの要因 ② ストレスの程度 ① ストレス対処法のアセスメントについて コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第9回 ／	「情動」のアセスメント 不安、抑うつなどのアセスメントについて コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第10回 ／	「生活態度・習慣」のアセスメント ライフスタイル・行動パターンなどのアセスメントについて コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第11回 ／	「社会関係」のアセスメント 親子関係やその他の人間関係も含めた「社会関係」のアセスメントについて コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第12回 ／	「知能・発達」のアセスメント 知的能力や子どもの発達のアセスメントについて コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第13回 ／	アセスメントにおける倫理 アセスメントにおける倫理的諸問題について コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第14回 ／	アセスメント結果の活用 カウンセリングや治療の中での、アセスメント結果の活用 コメントシート、小テストなど	面接授業	復習：授業内容に関する小レポート	10

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPC33F056	専門教育科目 心理カウンセリング領域	健康心理アセスメント実習 Health Psychology Assessment Practice	1単位	選 択	実 習	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	健康心理アセスメントの基礎を踏まえ、各種の心理検査を中心としたアセスメントを実習形式で学んでいく。実習において、検査の実施法だけではなく、採点や簡単な解釈ができ、さらには検査所見の書き方についても習得することを目的とする。						
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

キーワード	アセスメント ストレス 健康 実習形式	学修教育目標	実習においては検査の実施法だけではなく、採点や簡単な解釈、さらには検査所見の書き方についても習得できる。また、パーソナリティテストやストレスコーピングなどのアセスメントを自分自身で実施し、自己の特徴を知ることできる。				
-------	------------------------------	--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

毎回の授業で、前半は健康心理に関わるテーマについて講義し、後半はアセスメントを実習形式で行う。日頃から、健康への気付きを大切にして、レポートやコメント等にもまとめて記載してほしい。							
--------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「健康心理学」「臨床心理学Ⅰ」などの理解につながります。							
------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

教 科 書				参考書・リザーブドブック			
書 名：健康心理学基礎シリーズ② 「健康心理アセスメント概論」 著者名：日本健康心理学会（編） 出版社：実践教育出版				授業の中で適宜紹介する。			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	健康をアセスメントの視点から理解し、適切な方法で数種のアセスメントができる。	◎
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題などに主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	日常生活習慣など健康を維持する視点からアセスメントする。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考え、感想を文章や口調で説明することができる。	○
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスの程度や受け止め方をアセスメントし、対処することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	15	15				20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	15	10					75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5				10	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
健康心理アセスメントの視点を参照しながら、日常生活を自分でアセスメントして、ストレスに対処できる。また、積極的に健康を増進することができる。					健康心理アセスメントの視点を参照しながら、ストレスやストレスに対する自らの脆弱性に気付くことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	健康心理アセスメントの基本的事項 「健康心理アセスメント」で学修した内容の確認 コメントシート、小テストなど	面接授業	復習：授業内容に関する小レポート	10
第2回 /	面接によるアセスメント 面接によるアセスメントをロールプレイで学ぶ（実習） コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第3回 /	行動観察によるアセスメント ビデオから行動観察について学ぶ コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第4回 /	質問紙を用いたパーソナリティのアセスメント（1） 「エゴグラム」 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第5回 /	質問紙を用いたパーソナリティのアセスメント（2） 「考え方のくせ」と認知行動療法 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第6回 /	投影法を用いたパーソナリティのアセスメント 「PFスタディ」 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第7回 /	投影法を用いたパーソナリティのアセスメント 「TAT」 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第8回 /	ストレスの測定 ①測定実習：ストレッサー ②測定実習：ストレス反応 ③測定実習：コーピング コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第9回 /	ストレスと性格 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第10回 /	情動の測定 測定実習：不安・抑うつなどの情動 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第11回 /	社会関係の測定 人間関係の測定 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第12回 /	知能と発達の測定（1） 「知能検査」「発達検査」の基本的な実施方法 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第13回 /	知能と発達の測定（2） 「知能検査」「発達検査」の評価の仕方 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第14回 /	アセスメント結果の報告と治療計画（1） ①さまざまな査定結果からの仮説の導出 ②査定結果に基づく報告書の作成 コメントシート、小テストなど	面接授業	復習：授業内容に関する小レポート	10

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPD11S057S	専門教育科目 心理学領域	心理学概論A Introduction to Psychology A	2単位	必修	講義	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標							
学修教育目的	心理学はこころの学問であるが、心理学を学ぶということは人間そのものについての多角的理解を深めることでもある。心の進化・発達、感覚や知覚、脳の働きや心と身体との関連、さらにパーソナリティや深層心理などの広範囲の心理学の領域を学修し、1年を通じて、心理学の全体像を理解する。心理学概論Aでは、心理学の成り立ち・発達・人格・臨床分野の基礎的な内容を理解する。						
キーワード	心理学の成り立ち 発達 人格 臨床	学修教育目標	人の心を知ることで人の一般的な心の作用が説明できる。さらに、スポーツ・心理学・教育等の各論を学ぶための基礎を身につけ、各論のより深い理解につなげるための基本的な知識を身につける。				
授業科目の概要及び学修上の助言							
心理カウンセリング学科に入学して最初の専門教育科目となる講義である。授業を通して心理学に対する興味・関心が増し、秋学期以降の学習意欲に繋がるよう、各自授業ノートを準備し、学びに活かしていくことを望む。 事前に授業資料を公開するので、各自確認し印刷して授業に臨むこと。 さらに、講義形式ではあるが、ペアワークやディスカッションを取り入れながら授業を進めていくため、積極的な姿勢で授業に臨むこと。							
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能							
秋学期開講の「心理学概論B」「心理カウンセリング」の理解に繋がります。							
教科書				参考書・リザーブドブック			
書名：はじめて出会う心理学（第3版） 著者名：長谷川 寿一，東條 正城，大島 尚，丹野 義彦，廣中 直行（著） 出版社：有斐閣アルマ				なし			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	心理の専門知識を身につける。	心理学の成り立ち・発達・人格・臨床分野の知識を理解できる。					
②	心理の分析方法を身につける。						
③	心理カウンセリングの知識を身につける。						
④	心理カウンセリングの技法を身につける。						
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。						
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。						
授業科目における社会人基礎力の育成目標							
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。					
	② 働きかけ力	授業中の私語を注意することができる。					
	③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力						
	② 計画力						
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力						
	② 傾聴力	クラスメートの発表について、十分な意見が言えるよう傾聴することができる。					
	③ 柔軟性						
	④ 状況把握力						
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。					
	⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観	① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35							35
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15						20	35
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価								25	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
心理学の成り立ちについて十分に理解している。 心理学の発達分野の基礎的知識について十分に理解している。 心理学の人格分野の基礎的知識について十分に理解している。 心理学の臨床分野の基礎的知識について十分に理解している。 各項目の理解度が80%以上である。					心理学の成り立ちについて理解している。 心理学の発達分野の基礎的知識について理解している。 心理学の人格分野の基礎的知識について理解している。 心理学の臨床分野の基礎的知識について理解している。 各項目の理解度が60%～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション - 心理学を学ぶにあたって -	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第2回 /	心理学の成り立ち - 心理学の歴史概観 -	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第3回 /	比較行動学の視点から - 心の進化、人間と他の動物との比較 -	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第4回 /	心の発達(1) - 乳幼児期の心理 - ①乳幼児期の特徴 ②愛着 ③言語の発達	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第5回 /	心の発達(2) - 児童期の心理 - ①ライフサイクル ②児童期	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第6回 /	心の発達(3) - 青年期の心理 - ①青年期 ②青年期に生じやすい心的問題	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第7回 /	心の発達(4) - 成人期・高齢期の心理 - ①成人期 ②高齢期	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第8回 /	動機づけと情動 ①動機づけ ②情動	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第9回 /	認知行動療法知能 - 知能とは何か - ①知能検査 ②知能モデルについて	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第10回 /	パーソナリティ(1) ①パーソナリティ（性格）とは何か ②その人らしさとは	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第11回 /	パーソナリティ(2) ①パーソナリティ（性格）に関する諸理論 ②性格検査	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第12回 /	カウンセリングと心理療法(1) ①心の病理 ②適応障害 ③対人不安・対人恐怖	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第13回 /	カウンセリングと心理療法(2) - カウンセリング・心理療法の諸理論 -	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第14回 /	ストレスとメンタルヘルス - 心と身体に関連および心身の健康に向けて -	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPD11F057A	専門教育科目 心理学領域	心理学概論B Introduction to Psychology B	2単位	必修	講義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標							
学修教育目的	心理学はこころの学問であるが、心理学を学ぶということは人間そのものについての多角的理解を深めることでもある。心の進化・発達、感覚や知覚、脳の働きや心と身体との関連、さらにパーソナリティや深層心理などの広範囲の心理学の領域を学修し、1年を通じて、心理学の全体像を理解する。心理学概論Bでは、感覚、知覚、学習など人の心の基本的な仕組みと働きや、脳と心、心と社会などとの関係などについても理解する						
キーワード	感覚 知覚 学習 脳と心 心と社会	学修教育目標	人の心を知ることで人の一般的な心の作用が説明できる。さらに、スポーツ・心理学・教育等の各論を学ぶための基礎を身につけ、各論のより深い理解につなげるための基本的な知識を身につける。				
授業科目の概要及び学修上の助言							
<p>授業科目の概要 本科目では心理学の基礎的な領域について学ぶ。</p> <p>学修上の助言 本科目は認定心理士資格関連科目である。</p>							
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能							
<p>他の科目との関連 心理学概論A・心理学研究法Ⅰ・心理学研究法Ⅱ・心理学実験実習（実験）・心理学実験実習（調査）</p> <p>履修に必要な予備知識や技能 心理学領域の科目履修が望ましい。</p>							
教科書				参考書・リザーブドブック			
書名：はじめて出会う心理学 第3版 著者名：長谷川 寿一 他 出版社：有斐閣アルマ				なし			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	心理の専門知識を身につける。	心理学の基礎知識を身につける。					
②	心理の分析方法を身につける。						
③	心理カウンセリングの知識を身につける。						
④	心理カウンセリングの技法を身につける。						
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。						
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。						
授業科目における社会人基礎力の育成目標							
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。					
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。					
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。					
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。					
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことについて、十分に説明できる。					
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。					
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。					
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。					
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。					
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。					
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べることができる。					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	40	10					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	40	2					92
	技能に関する評価				2					2
	応用力に関する評価				2					2
	チームワークに関する評価				2					2
	関心・意欲に関する評価				2					2
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
心理学の基礎的な領域について理解し、説明できる。 認定心理士の資格を取得する。					心理学の基礎的な領域について理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	・講義 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業の復習	10
第2回 /	感覚 (1) 感覚の性質、視覚	・講義 ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第3回 /	感覚 (2) 聴覚、嗅覚、味覚、皮膚感覚 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第4回 /	知覚 (1) 形、奥行き ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第5回 /	知覚 (2) 動きの知覚、知覚の恒常性 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第6回 /	記憶 (1) 記憶の過程、感覚記憶 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第7回 /	記憶 (2) 記憶の種類、知識とスキーマ ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第8回 /	学習 (1) 学習とは何か、インプリンティング、古典的条件づけ ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第9回 /	学習 (2) オペラント条件づけ、概念の学習 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第10回 /	思考 推論、概念と言語 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第11回 /	脳損傷と心の働き (1) 脳と心の関係を知る方法 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第12回 /	脳損傷と心の働き (2) 脳損傷によるさまざまな影響、健忘 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第13回 /	社会のなかの人 (1) 対人認知、同調行動、先入観・偏見等 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第14回 /	社会のなかの人 (2) 他者との協調関係・信頼関係の構築の大切さ ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業の復習 ・レポート課題作成	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPD12S058S	専門教育科目 心理学領域	心理学研究法 I Research Methods in Psychology I	2単位	必修	講義	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標							
学修教育目的	心理学における実証的研究方法の基礎を理解する。また心理学で用いられる統計手法の基礎を理解する。						
	キーワード	実証的研究 心理統計 心理学研究技法 心理学実験法 心理調査法	学修教育目標	心理学研究法 I では心理学の実証的研究の手順・技法（量的研究・質的研究）・心理学実験法・実験計画法・調査法等、心理学研究の基礎知識を理解することが出来る。			
授業科目の概要及び学修上の助言							
授業科目の概要 本科目では心理学における研究法の基礎的な領域について学ぶ。 学修上の助言 本科目は認定心理士資格関連科目である。							
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能							
他の科目との関連 心理学概論 A・心理学概論 B・心理学研究法 II・心理学実験実習（実験）・心理学実験実習（調査） 履修に必要な予備知識や技能 心理学領域の科目履修が望ましい。							
教科書				参考書・リザーブドブック			
書名：心理学検定 基本キーワード 改訂版 著者名：日本心理学諸学会連合 心理学検定局 出版社：実務教育出版				書名：心理学 実験・研究レポートの書き方―学生のための初歩から卒論まで― 著者名：B. フィンドレイ(著) 細江 達郎 細江 久美子(訳) 出版社：北大路書房			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	心理の専門知識を身につける。						
②	心理の分析方法を身につける。	心理学の研究方法を身につける。					◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。						
④	心理カウンセリングの技法を身につける。						
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。						
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。						
授業科目における社会人基礎力の育成目標							
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。					○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。					○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。					○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。					○
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことについて、十分に説明できる。					○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。					○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。					○
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。					○
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。					○
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。					○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるることができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	40	10					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	40	2					92
	技能に関する評価				2					2
	応用力に関する評価				2					2
	チームワークに関する評価				2					2
	関心・意欲に関する評価				2					2
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
心理学における研究法の基礎的な領域について理解でき、説明できる。 認定心理士の資格を取得する。					心理学における研究法の基礎的な領域について理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	・講義 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業の復習	10
第2回 /	心理学の科学的方法論	・講義 ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第3回 /	心理学の研究法 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第4回 /	心理学の変数 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第5回 /	質的研究と量的研究 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第6回 /	信頼性 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第7回 /	妥当性 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第8回 /	仮説検定法 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第9回 /	実験法 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第10回 /	調査法 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第11回 /	観察法 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第12回 /	検査法 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第13回 /	面接法 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第14回 /	心理学研究の倫理 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・レポート課題作成	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPD12F058A	専門教育科目 心理学領域	心理学研究法Ⅱ Research Methods in Psychology II	2単位	必修	講義	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標							
学修教育目的	心理学における実証的研究方法の基礎（心理学データに関する基礎的統計処理法とデータを用いた実証的な思考方法）を理解する。						
	キーワード	実証的研究方法 統計処理法 実証的な思考方法	学修教育目標	心理学研究法Ⅱでは、心理学研究法Ⅰの内容を踏まえながら、心理学データに関する基礎的統計処理法を理解することが出来る。			
授業科目の概要及び学修上の助言							
授業科目の概要 本科目では、心理学研究法Ⅰに続き、心理学における研究法について学ぶ。 学修上の助言 本科目は認定心理士資格関連科目である。							
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能							
他の科目との関連 心理学概論A・心理学概論B・心理学研究法Ⅰ・心理学実験実習（実験）・心理学実験実習（調査） 履修に必要な予備知識や技能 心理学領域の科目履修が望ましい。							
教科書				参考書・リザーブドブック			
書名：心理学検定 基本キーワード 改訂版 著者名：日本心理学諸学会連合 心理学検定局 出版社：実務教育出版				書名：ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法 著者名：田中 敏・山際 勇一郎 出版社：教育出版			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	心理の専門知識を身につける。						
②	心理の分析方法を身につける。	心理学の研究方法を身につける。					◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。						
④	心理カウンセリングの技法を身につける。						
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。						
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。						
授業科目における社会人基礎力の育成目標							
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。					○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。					○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。					○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。					○
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことについて、十分に説明できる。					○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。					○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。					○
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。					○
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。					○
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。					○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べることができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	40	10					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	40	2					92
	技能に関する評価				2					2
	応用力に関する評価				2					2
	チームワークに関する評価				2					2
	関心・意欲に関する評価				2					2
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
心理学における実証的研究方法について理解でき、説明できる。 認定心理士の資格を取得する。					心理学における実証的研究方法について理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	・講義 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業の復習	10
第2回 /	代表値	・講義 ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第3回 /	散布度 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第4回 /	変数の変換 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第5回 /	2変数の記述統計 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第6回 /	母数の推定 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第7回 /	検定（統計的仮説検定） ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第8回 /	単回帰分析 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第9回 /	実験計画と分散分析 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第10回 /	心理テストの信頼性と妥当性 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第11回 /	心理学的測定法 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第12回 /	心理テストの分析 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第13回 /	心理検査の種類と特徴 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第14回 /	多変量解析 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・レポート課題作成	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPD13S059S	専門教育科目 心理学領域	心理学実験実習（調査） Practice in Psychology (Research Methods)	3単位	必修	実習	3年次	春(秋)学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	心理学実験実習(調査)では、実際にデータを収集して分析し、レポートを作成するという、実習を行なう。本授業においては、調査計画の立案、質問項目の作成、データ収集、データ入力、解析、レポート作成等の主に調査法のスキルを理解し、その専門知識を身につける。	
	キーワード	学修教育目標

パーソナリティ
印象形成
対比較法
対人認知
社会的態度

学修教育目標

本授業では、社会調査、特に質問紙調査のスキルを修得し、調査の実施とレポートの作成に加えて、実際に質問紙の作成過程を理解し、卒業論文に応用できるようにする。

授業科目の概要及び学修上の助言

授業では、様々な調査を体験する。各自が得た種々のデータを分析し、レポートを作成する。本授業においては、一つの課題が複数週に亘ることもある。毎回の課題を一つずつ仕上げる。第11週～第15週はグループに分かれて実習を行う。個人の行動がグループに影響するので、協力して実習に取り組むこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「ソフトウェアリテラシー基礎」「ソフトウェアリテラシー応用」などパソコン関連の科目や「現代の統計学」、「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」の内容とも関連するので、これらの科目の内容と関連付けながら受講すると理解がより深まる。

教科書

参考書・リザーブドブック

なし

心理学検定基本キーワード 改訂版 日本心理学諸学会連合心理学検定局（編）

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	心理学での心理調査の考え方が理解できる。	◎
②	心理の分析方法を身につける。	心理データの収集及び処理を適切に行うことができる。	◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	グループワークをすることで、意見の違いや立場の違いを理解する力を身につけることができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	データを客観的に分析することで、社会について正確な判断をすることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	◎
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。	◎
	② 計画力	課題発表ができるように計画的に準備ができる。	◎
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	データを用いてわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	◎
	③ 柔軟性	発表者が前向きに、かつ理解しやすいようにコメントすることができる。	◎
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	◎
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるることができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合					75	10			15	100
評価 の 指標	知識に関する評価				25				5	30
	技能に関する評価				25	5				30
	応用力に関する評価				25					25
	チームワークに関する評価					5			5	10
	関心・意欲に関する評価								5	5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>実習を通して、心理調査の考え方を理解する。パーソナリティの測定、印象形成、一対比較法、社会的態度の測定などを修得する。</p>					<p>実習を通して、心理調査の考え方を理解する。統計的手法を用いて、結果をまとめることができる。 心理調査の書式に従ったレポートを作成することができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 調査系のレポートの書き方について学ぶ。平均値の差の検定、について解説し、模擬データを用いて、調査の基礎を学ぶ。	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「代表値と散布度」を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート・課題			
第2回 /	ソーシャル・スキルの測定 K i s s -18 を実施し、尺度の代表値を理解し、平均値の男女比較を行い、結果の書き方について説明する。	面接授業	課題：レポート作成	180
	コメントシート・課題			
第3回 /	5因子説に基づく質問紙法性格検査(1) 質問紙法性格検査である NEO-PIR を実施し、自己分析を行う。	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「主要（特性）5因子モデル」を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート・課題			
第4回 /	5因子説に基づく質問紙法性格検査(2) 質問紙法性格検査である FFPQ を実施する。その結果を元に自己分析を行う。	面接授業	予習：NEO-PIR と FFPQ の結果を比較し、自己分析を行う。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート・課題			
第5回 /	5因子説に基づく質問紙法性格検査(3) NEO-PIR と FFPQ のデータを用いて、両者の相関分析を行う。	面接授業	予習・復習：課題（レポート作成）	180
	コメントシート・課題			
第6回 /	印象形成 印象がどのようにして形成されるのかを経験し、実際にデータを収集し、確かめる。	面接授業	予習・復習：レポート作成	180
	コメントシート・課題			
第7回 /	イメージの測定：SD法（1） 対象物についてのイメージ評定をSD法によって行い、データ入力を行う。	面接授業	予習：平均値の差の検定について調べておく。 復習：イメージ測定について復習する。	60
	コメントシート・課題			
第8回 /	イメージの測定：SD法（2） 第7回で得られたイメージ測定の結果についての基本的な分析手続きを確認し、分析を行う。	面接授業	予習：心理学検定キーワードの「実験計画と分散分析」を読む。 復習：平均値の差の検定について復習する。	60
	コメントシート・課題			
第9回 /	イメージの測定：SD法（3） 第8回の分析結果を元にして、認知次元の内容、対象物の意味的な差異を考察する。	面接授業	予習・復習：課題（レポート作成）	180
	コメントシート・課題			
第10回 /	一対比較法 一対比較法の基本的な手続きを確認し、実際に対象を選択し、これについての評定を行い、データを解析する。最終的に「一対比較法」の基本を理解する。	面接授業	予習・復習：課題（レポート作成）	180
	コメントシート・課題			
第11回 /	社会的態度尺度の構成(1) 質問紙の作成について理解する。グループごとにテーマを選択し、仮説についてグループ内でディスカッションする。	面接授業	予習：態度測定について調べておく。 復習：授業の中で取り上げたテーマについて調べ、仮説を立てる。	60
	コメントシート・課題			
第12回 /	社会的態度尺度の構成(2) グループごとに調査用紙を作成し、データを収集する。	面接授業	予習：配布プリントを読んでおく。 復習：平均値の差の検定について復習する。	60
	コメントシート・課題			
第13回 /	社会的態度尺度の構成(3) これまで学習した分析方法を応用しながら、データ分析を行う。	面接授業	得られた結果についての考察を行う。レポート作成の準備を行う。	60
	コメントシート・課題			
第14回 /	社会的態度尺度の構成(4) 目的から考察までをレポートとして作成する。	面接授業	予習・復習：課題（レポート作成）	270
	コメントシート・課題			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPD13F060S	専門教育科目 心理学領域	心理学実験実習（実験） Practice in Psychology (Experiment)	3単位	必修	実習	3年次	秋（春）学期
授業科目の学修教育目的・目標							
学修教育目的	心理学実験実習(実験)では、実際にデータを収集して分析し、レポートを作成するという、実習を行う。本授業においては、実験計画の立案、データ収集、データ入力、解析、レポート作成等の主に実験法のスキルを理解し、その専門知識を身につける。						
	キーワード	実験計画の立案 データ収集 データ解析 レポート作成	学修教育目標	本授業では、心理学実験のスキルを修得し、実験の実施とデータの解析、レポートの作成等、実際の心理学実験を理解し、卒業論文に応用できるようにする。			
授業科目の概要及び学修上の助言							
授業科目の概要 本科目では、心理学実験実習（調査）と同様、心理学実験を実習し、そのスキルを修得する。 学修上の助言 本科目は認定心理士資格関連科目である。							
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能							
他の科目との関連 心理学概論A・心理学概論B・心理学研究法Ⅰ・心理学研究法Ⅱ・心理学実験実習（調査） 履修に必要な予備知識や技能 心理学領域の科目履修が望ましい。							
教科書				参考書・リザーブブック			
なし				書名：認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 著者名：日本心理学会認定心理士資格認定委員会(編) 出版社：金子書房 書名：SPSSによる統計処理の手順 著者名：石村 貞夫 出版社：東京図書 書名：SPSSによる分散分析と多重比較の手順 著者名：石村 貞夫 出版社：東京図書			
No.	学科教育目標		学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。						
②	心理の分析方法を身につける。		心理実験の方法を身につける。				◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。						
④	心理カウンセリングの技法を身につける。						
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。						
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。						
授業科目における社会人基礎力の育成目標							
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。					◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。					◎
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。					◎
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。					◎
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。					◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことについて、十分に説明できる。					◎
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。					◎
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。					◎
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。					◎
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。					◎
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。					◎
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるることができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状態で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合計
総合評価割合			20		40	10			30	100
評価 の 指標	知識に関する評価		8		16	2				26
	技能に関する評価		8		16	2			10	36
	応用力に関する評価		4		8	2				14
	チームワークに関する評価					2			10	12
	関心・意欲に関する評価					2			10	12
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
心理学実験のスキルを修得し、実際の心理学実験を理解し、卒業論文に応用できる。 認定心理士の資格を取得する。					心理学実験のスキルを修得し、実際の心理学実験を理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	・オリエンテーション	・講義 ・演習 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習	20
	・演習			
第2回 /	・ストロープ効果（1） ー実験ー	・講義 ・演習 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習	20
	・演習			
第3回 /	・ストロープ効果（2） ー解析ー・ー考察ー	・講義 ・演習 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・レポートの完成	60
	・演習			
第4回 /	・短期記憶（1） ー実験ー	・講義 ・演習 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習	20
	・演習			
第5回 /	・短期記憶（2） ー解析ー・ー考察ー	・講義 ・演習 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・レポートの完成	60
	・演習			
第6回 /	・大きさの恒常性（1） ー実験ー	・講義 ・演習 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習	20
	・演習			
第7回 /	・大きさの恒常性（2） ー解析ー	・講義 ・演習 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習	20
	・演習			
第8回 /	・大きさの恒常性（3） ー考察ー	・講義 ・演習 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・レポートの完成	60
	・演習			
第9回 /	・鏡映描写（1） ー実験ー	・講義 ・演習 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習	20
	・演習			
第10回 /	・鏡映描写（2） ー解析ー	・講義 ・演習 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習	20
	・演習			
第11回 /	・鏡映描写（3） ー考察ー	・講義 ・演習 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・レポートの完成	60
	・演習			
第12回 /	・ミューラー・リヤー錯視（1） ー実験ー	・講義 ・演習 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習	20
	・演習			
第13回 /	・ミューラー・リヤー錯視（2） ー解析ー	・講義 ・演習 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習	20
	・演習			
第14回 /	・ミューラー・リヤー錯視（3） ー考察ー	・講義 ・演習 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・成果発表の準備	60
	・演習			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPD32S061S	専門教育科目 心理学領域	発達心理学 Developmental Psychology	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標							
学修教育目的	人間は時間と共に変化しつづけていく。それは受精し生命が誕生した時に始まり、死とともに生命がなくなるまで続く。発達心理学は、このような人間の変化を扱う心理学である。本授業においては、人間の生涯発達という観点から、認知機能の発達、感情と動機づけの発達、言語の発達、社会性の発達、自己意識の発達等、様々な観点から発達心理学を理解することを目標とする。						
キーワード	生涯発達 発達段階 発達理論	学修教育目標	人間の一生の発達を、様々な角度から理解し、人間の発達の変化に関する考え方や知識を身につけ、自分自身の発達について考えることができるようになる。				
授業科目の概要及び学修上の助言							
本授業においては、人間の生涯発達という観点から、認知機能の発達、感情と動機づけの発達、言語の発達、社会性の発達、自己意識の発達等、様々な観点から発達心理学を説明する。授業では、発達心理学の各種理論についても学ぶ。自身の経験を振り返りながら、授業を受講して欲しい。ディスカッションの場では、自分の意見を積極的に述べる姿勢が大事となる。目的意識をもって授業に参加して欲しい。							
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能							
社会心理学や人間関係論の内容とも関連するので、これらの科目の内容と関連付けながら受講すると、理解がより一層深まる。							
教 科 書				参考書・リザーブドブック			
なし				心理学検定基本キーワード 改訂版 日本心理学諸学会連合心理学検定局（編）			
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）					
①	心理の専門知識を身につける。	発達心理学の基礎的な概念・理論について説明できる。					
②	心理の分析方法を身につける。	発達心理学の研究手法について説明することができる。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。						
④	心理カウンセリングの技法を身につける。						
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	他者のことを考えながら意見を述べ、自発的に課題に取り組むことができる。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	生涯発達の観点から、発達課題について説明することができる。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標							
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）					
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。					
	② 働きかけ力						
	③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。					
	② 計画力						
	③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力						
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。					
	③ 柔軟性						
	④ 状況把握力						
	⑤ 規律性						
	⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるができる。					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			44						56	100
評価 の 指標	知識に関する評価		44						22	66
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								24	24
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>発達心理学の全体を十分に理解し、人間の生涯発達について概説することができる。 発達心理学の理論を理解すると共に、社会で生じている事象を考察することができる。</p>					<p>発達心理学の基本的な概念を理解し、人間の発達の全体を理解している。 自身の心理的な発達を振り返ることができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	発達的基础(1) ・ 発達の生物学的基礎 ・ 発達の過程	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「初期経験と臨界期」を読み理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第2回 /	発達的基础(2) ・ 発達の要因 ・ 発達の加速現象について	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「発達の研究法」を読み理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第3回 /	認知機能の発達(1) ・ 認識の始まり ・ 表象的思考の始まり	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「ピアジェの発達理論・ヴォゴツキーの発達理論」を読み理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第4回 /	認知機能の発達(2) ・ 「みかけ」からの脱却 ・ 内的世界の広がり	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「ヴォゴツキーの発達理論」を読み理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第5回 /	情動の発達(1) ・ 情動発達の基礎 ・ 乳幼児期における情動の発達	面接授業	予習：これまでの学んだことを整理する。 復習：授業内容全体を復習する。	90
	コメントシート			
第6回 /	情動の発達(2) ・ 情動と親子のコミュニケーション ・ 情動の生涯発達	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「アタッチメント」を読み理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第7回 /	言語の発達(1) ・ 言語の獲得 ・ 発話の発達	面接授業	予習：子どもの言語の発達について考える 復習：これまでの内容を全て復習する。	270
	コメントシート			
第8回 /	言語の発達(2) ・ 言語発達の諸相	面接授業	予習：これまでの学んだことを整理する。 復習：授業内容全体を復習する。	90
	コメントシート			
第9回 /	対人関係の広がり和社会性の発達(1) ・ 子どもの対人世界の広がり ・ 共感性の発達	面接授業	予習：子どもの対人関係について考える 復習：授業内容全体を復習する。	90
	コメントシート			
第10回 /	対人関係の広がり和社会性の発達(2) ・ 心の理論の発達 ・ 道徳性の発達	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「社会性の発達」を読み理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第11回 /	自己意識とアイデンティティの発達(1) ・ 乳幼児期の自己意識 ・ 児童期の自己意識の発達 ・ 青年期の自己意識の発達	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「思春期・青年期」を読み理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第12回 /	自己意識とアイデンティティの発達(2) ・ 理想自己と現実自己について考える ・ 自己意識の成熟とアイデンティティの形成	面接授業	予習：同一性地位判定尺度について整理する。 復習：自己分析を行う。配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第13回 /	高齢期の発達	面接授業	予習：高齢者の特性について考える 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第14回 /	発達障がい	面接授業	予習：発達障がいについて調べる。 復習：授業内容全体を復習する。	270
	コメントシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SPD32F062S	専門教育科目 心理学領域	幼児児童心理学 Psychology to Infancy	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	ヒトの一生における幼児期・児童期の特徴や、幼児児童心理学の 基本的な概念の理解を深める。幼児期および児童期の認知発達、パーソナリティの発達、あるいは生活環境について学修する。							
キーワード	心理発達 生涯発達 乳幼児期から児童期 家庭・学校	学修教育目標	1. 定型発達を理解することにより、子どものよりよい発達を促す環境と援助について理解する。 2. 子どもの学びの過程や特性の基本手知識を習得し、発達の課題に応じた援助や関わりを考えることができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
<p>授業科目の概要 本科目では乳幼児期から児童期に至る心理発達における基礎的な理論を学ぶ。</p> <p>学修上の助言 本科目は福祉心理士資格関連科目である。</p>								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
<p>他の科目との関連 福祉心理学・障がい児心理学・介護概論・社会福祉論・福祉相談援助・障がい者福祉論・福祉住環境論・社会的養護論</p> <p>履修に必要な予備知識や技能 心理カウンセリング関連科目の履修が望ましい。</p>								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：幼児・児童の発達心理学 著者名：中澤 潤 監修 中道圭人・榎本淳子（編） 出版社：ナカニシヤ出版				なし				
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）						
①	心理の専門知識を身につける。	心理学の専門的な用語を学び、子どもの発達の变化について説明することができる。						◎
②	心理の分析方法を身につける。							
③	心理カウンセリングの知識を身につける。							
④	心理カウンセリングの技法を身につける。							
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	発達支援についての説明することができる。						◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	発達心理学の専門的知識を身につけ、その知識を実社会に応用することができる。						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。						○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。						△
	③ 実行力							
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。						○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。						○
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。						○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力							
	② 傾聴力							
	③ 柔軟性							
	④ 状況把握力							
	⑤ 規律性							
	⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べることができる。						△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			44						56	100
評価 の 指標	知識に関する評価		44						36	80
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
乳幼児期から児童期に至る心理発達における基礎的な理論を理解し、説明できる。 福祉心理士の資格を取得する。					乳幼児期から児童期に至る心理発達における基礎的な理論を理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション —幼児児童心理学の概観—	面接授業	社会人基礎力事前・事後評価シートの記入	30
	コメントシート			
第2回 /	人間の発達と幼児児童期の位置づけ	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	コメントシート			30
第3回 /	からだと運動 —未分化から分化へ—	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	コメントシート			30
第4回 /	記憶 —記憶の様々な側面—	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	コメントシート			30
第5回 /	思考 —具体的な思考から抽象的な思考へ—	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	コメントシート			30
第6回 /	概念発達 —素朴な概念から科学的概念へ—	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	コメントシート			30
第7回 /	言語 —話し言葉から書き言葉へ—	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	コメントシート			30
第8回 /	遊び —遊びが育むもの—	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	コメントシート			30
第9回 /	自己と情動 —情動表出の調整について—	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	コメントシート			30
第10回 /	社会性 —他律から自律へ—	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	コメントシート			30
第11回 /	対人関係（1） 親子関係について	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	コメントシート			30
第12回 /	対人関係（2） 仲間関係について	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	コメントシート			30
第13回 /	集団生活 —幼稚園・保育園から小学校へ—	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	コメントシート			30
第14回 /	子どもの障がいと非定型発達の理解	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	コメントシート			30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPD31F063S	専門教育科目 心理学領域	教育心理学 Educational Psychology	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的

教育心理学は、学校や家庭、さらに社会における人格の発達に及ぼす諸要因を心理学的に解明し、幼児・児童・生徒の心身の望ましい発達や人格形成を目指すものである。教育に関連する諸事象、教授・学習過程、評価、発達、人格・適応領域、並びに集団における人間関係や障がいのある子ども達への理解、発達心理学領域もその対象となる。また、人間そのものの本質を理解することは教育心理学の重要な課題の一つでもある。「人間とは?」「生きるとは?」これらの視点も含めて、広く教育心理学を学んでいくことを目的とする。

キーワード

教授・学習過程
評価
発達
人格
障がい
人間関係

学修教育目標

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴が理解できる。
- ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方が理解できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

教師になるために必要な心理学の理論を中心に学ぶ。本講義は教職関連科目であるため、15回の授業を通して、授業態度や物事に取り組む姿勢についても身に付けていく必要がある。「教師になる」という高い目的意識が求められる科目であることを自覚して履修すること。主体的な学びとなるよう、各自授業ノートを準備し、学びに活かしていくことが必須である。事前に授業資料を公開するので、各自確認し印刷して授業に臨むこと。さらに、講義形式ではあるが、ペアワークやディスカッションを取り入れながら授業を進めていくため、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「教育相談の基礎Ⅰ」と関係づけて学んでいくことで学びが深くなっていきます。

教科書

プリント配布

参考書・リザーブブック

書 名：『教育心理学』
著者名：米澤富士雄・足立正常・倉盛一郎（編著）
出版社：北大路書房

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	教育心理学（望ましい発達や人格形成）に関する知識を身につけることができる。	◎
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	○
	② 働きかけ力	集団や組織（チーム）の中でリーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）や組織を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。	△
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し現状を把握する中で、課題を抽出し問題を解決することができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探ることができる。	△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35							35
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15						20	35
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価								25	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
生徒の望ましい発達や人格形成に関する知識を十分に理解している。 生徒・保護者への対応に役立つカウンセリングの知識や技法を十分に理解している。 各項目の理解度が80%以上である。					生徒の望ましい発達や人格形成に関する知識を理解している。 生徒・保護者への対応に役立つカウンセリングの知識や技法を理解している。 各項目の理解度が60%～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / コメントシート	オリエンテーション - 教育心理学とは コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第2回 / コメントシート	発達と教育および発達の諸理論 - ハヴィガーストとエリクソンの発達課題 - コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第3回 / コメントシート	発達の諸理論 - ピアジェ・フロイト・ヴィゴツキーの理論 - コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第4回 / コメントシート	心身の発達（1） 幼児期から青年期における心身の発達の概要 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第5回 / コメントシート	心身の発達（2） 幼児期から青年期の運動発達、言語発達、認知発達及び社会性 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第6回 / コメントシート	心身の発達（3） 自己概念の発達と学校教育。社会性や道徳性の発達と学校教育 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第7回 / コメントシート	心身の発達（4） 障がいのある幼児・児童・生徒の心身の発達及び学習の過程 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第8回 / コメントシート	人格・個性・適応 生徒の人格形成や個性 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第9回 / コメントシート	学習のメカニズムと動機づけ（1） 主体的学習を促す効果的な学習法及び教授法 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第10回 / コメントシート	学習のメカニズムと動機づけ（2） 集団における人間関係、動機づけとやる気の持続 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第11回 / コメントシート	学習のメカニズムと動機づけ（3） 教育評価の種類と方法 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第12回 / コメントシート	学校文化 家庭での学習と学校での学習の違いと指導法 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第13回 / コメントシート	カウンセリングの知識や技法を活かした児童・生徒理解（1） カウンセリングの知識と技法 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第14回 / コメントシート	カウンセリングの知識や技法を活かした児童・生徒理解（2） 実践事例からみる指導法 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPD32S064S	専門教育科目 心理学領域	福祉心理学 Psychology of Well-being	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	福祉心理学とは、福祉のための心理学であり、福祉に役立つ心理学的知見の提供ということである。福祉分野で働く人のための基礎知識となる、福祉的対応を必要とする人々の心理的理解、福祉的対応に役立つ心理検査や心理療法等の心理学的技術の提供の方法を学修する。また、福祉の現場における経済的対応、教育的対応、心理的対応、社会的対応などがどのような心理的影響を与えるかを知る。						
	キーワード	福祉領域 社会福祉 心理的援助	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 福祉分野に必要な心理学の基礎知識を習得する。 福祉領域における倫理や価値、基本的視点・技術を通じて、援助する側とされる側の双方の心理を説明できる。 人を理解する力と援助実践の心理的効果について学び、初期的な相談援助面接ができるようになる。 			

授業科目の概要及び学修上の助言

本授業では、現代社会における福祉な問題や課題を知ることがを基本にし、そこでの心理的援助の在り様について学ぶ。							
--------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

心理学概論、社会福祉論、心理学研究法の内容とも関連するので、関連付けながら受講して欲しい。							
-----------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブドブック

授業内でレジュメを適宜配布する。オンデマンドによる遠隔授業においても資料を配布する。				書 名：福祉心理学 著者名：中島健一編（2020） 出版社：遠見書房			
--------------------------------------------	--	--	--	------------------------------------------	--	--	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	生涯発達の各段階での心理的発達と課題を理解する。	○
②	心理の分析方法を身につける。	事例について、分析することができる。	○
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	援助に必要なカウンセリングの技法を適切に使うことができる。	○
④	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	他者との関わりの中で仕事をすることを意識することができる。	◎
⑤	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業の内容を理解しようとする。	○
	② 働きかけ力	理解のために質問することができる。	○
	③ 実行力	仲間にはたずねることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	福祉領域の課題を見つけることができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を述べることができる。	○
	② 傾聴力	他者の意見を聴くことができる。	○
	③ 柔軟性	異なる意見を理解することができる。	○
	④ 状況把握力	意見をまとめることに協力できる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力	他者との関わりを楽しむことができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	他者と適切な距離をおきつつ行動できる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30	10			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		25		10	5			5	45
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				10	5				15
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		25		10				5	40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で学んだ知識を理解し、将来の希望の職業を考えることができる。 ・ 希望の職業に更に必要な知識、技術を見つけることができる。 					<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の内容を概ね理解し、福祉領域についての視野が広がる。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション - 福祉の基本的視点を知る-	講義 面接授業		
第2回 /	生活を支える心理支援	講義 面接授業	予習：興味のある福祉領域について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	30
第3回 /	暴力被害者への心理支援	オンデマンドによる遠隔授業	予習：暴力はどういった場面で生じるか考える。 復習：配布プリントを復習する。	30
第4回 /	高齢者への心理支援	オンデマンドによる遠隔授業	予習：身近にいる高齢者について考える。 復習：配布プリントを復習する。	30
第5回 /	障害・疾病のある人への心理的支援	オンデマンドによる遠隔授業	予習：どのような障害者がいるか、調べる。 復習：配布プリントを復習する。	30
第6回 /	生活困窮・貧困者への心理的支援	オンデマンドによる遠隔授業	予習：生活困窮者・貧困者とはどういった人をいうのか調べる。 復習：配布プリントを復習する。	30
第7回 /	地域の諸問題と福祉心理的アプローチ	オンデマンドによる遠隔授業	予習：自分が住んでいる地域はどのような地域か調べる。 復習：配布プリントを復習する。	30
第8回 /	医療の諸問題と福祉心理的援助とアプローチ	オンデマンドによる遠隔授業	予習：医療の中で福祉心理的援助はどんなものがあるか調べる。 復習：配布プリントを復習する。	30
第9回 /	就労の諸問題と福祉心理的アプローチ	オンデマンドによる遠隔授業	予習：自分が就きたい仕事について考える。 復習：配布プリントを復習する。	30
第10回 /	ひきこもり・自殺予防の心理的支援	オンデマンドによる遠隔授業	予習：自殺について自分の考えをまとめる。 復習：配布プリントを復習する。	30
第11回 /	精神障害者の理解と心理的支援	講義 面接授業	予習：精神障害者について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	30
第12回 /	犯罪者及び犯罪被害者に対する処遇と心理的援助	講義 面接授業	予習：累犯障害者について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	30
第13回 /	各種心理的アセスメントの実際	講義 面接授業	復習：配布プリントを復習する。	30
第14回 /	福祉心理学における心理と支援 福祉心理学の知識をどう活かしていくか	講義 面接授業	予習：これまで学んだことを整理する。 復習：配布プリントを復習する。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPD33S065S	専門教育科目 心理学領域	障がい児心理学 Psychology of Physically and Mentally Handicapped Children	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	身体障がい、知的障がい、および精神障がいの概要を理解し、障がい児の心理社会的課題および必要な支援についての学びを深める。	
	キーワード	障がいとは何か

学修教育目標

1. 代表的な障がい（例：視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由、発達障がい等）の定義、原因、心理・行動特性などを理解し、基本的な支援方法について学ぶ。
2. 特別支援教育と合理的配慮の概要について理解し、説明することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

授業科目の概要
障がい児の概念とその歴史の変遷を学び、現状や今後の課題について考える。
人間社会の多様性を認め、互いに理解し、尊重することを学ぶ。
学修上の助言
本科目は福祉心理士資格関連科目である。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目との関連
福祉心理学・幼児児童心理学・発達心理学・心理カウンセリング・カウンセリング実務論ⅠⅡ・臨床心理学ⅠⅡ・健康心理学・人間関係論
履修に必要な予備知識や技能
社会福祉関連の科目履修が望ましい。

教 科 書

参考書・リザーブブック

書 名：よくわかる障害児教育
著者名：石部元雄 上田征三 高橋実 柳本雄次 編著
出版社：ミネルヴァ書房

書 名：障害児心理入門
著者名：井澤信三 小島道生 編
出版社：ミネルヴァ書房

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	教科書を熟読し、要点をまとめ説明する力を身に着ける。	◎
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	講義を傾聴し、理解したうえで自己の意見を持てるようにする。	○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	提示した参考文献、新聞の記事などを読み、それについてディスカッションをする。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分の意見を述べる。	○
	② 働きかけ力	他者にわかりやすく話す。	○
	③ 実行力	ディスカッションができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	文献を読み、問題点をピックアップする。	◎
	② 計画力	1つのテーマについて調べる。	○
	③ 創造力	レポートにまとめる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を他者にわかりやすく話す。	○
	② 傾聴力	他者の意見をしっかり聞く。	○
	③ 柔軟性	他者の意見を理解する。	◎
	④ 状況把握力	チームの中での多様な意見を図式化する。	△
	⑤ 規律性	他のメンバーの妨げになるようなことをしない。	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスコーピングを心がける。	○
4. 倫理観	① 倫理性	個人情報保護に努める。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30				20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30		20				10	60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		20		10					30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安			標準的な達成レベルの目安							
学習した専門用語やその意味について90%以上理解する。 歴史的背景や現状を理解した上で、今後の課題について建設的な意見を述べる。			学習した専門用語やその意味について60%以上理解する。 歴史的背景や現状を理解する。							

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	面接授業	障がい・障がい児について持っている意識。知っていること、関わった経験について整理する。	60
	障害児心理学とは			
第2回 /	障がい児の概念と歴史の変遷	課題研究による授業	次時予習	60
第3回 /	インクルージョン、ノーマライゼーションについて（1）	面接授業	次時予習	60
	視覚障がい・聴覚障がい児についての理解と支援のための心理学			
第4回 /	インクルージョン、ノーマライゼーションについて（2）	課題研究による授業	次時予習	60
	肢体不自由についての理解と支援のための心理学			
第5回 /	重度・重複障がい児についての理解と支援のための心理学	面接授業	次時予習	60
	病弱児の心理・行動特性			
第6回 /	言語障がい児についての理解と支援のための心理学	課題研究による授業	次時予習	60
第7回 /	知的障がい児についての理解と支援のための心理学	面接授業	レポート作成	60
第8回 /	障害児心理学と障害児教育の関係について	課題研究による授業	次時予習	60
第9回 /	発達障害についての理解と支援のための心理学	面接授業	次時予習	60
第10回 /	発達障害とは何か。発達障害者支援法以来の動向について学ぶ。	課題研究による授業	次時予習	60
第11回 /	LD・ADHD児についての理解と支援のための心理学	面接授業	次時予習	60
第12回 /	自閉症スペクトラムについての理解と支援のための心理学	課題研究による授業	次時予習	60
第13回 /	障がい児教育・療育の専門職の資格と養成	面接授業	自己課題を設けてレポートを作成	60
第14回 /	障がい児教育の課題	課題研究による授業	テストの予習	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SPD33S066S	専門教育科目 心理学領域	知覚心理学 I Perception I	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	<p>本科目では、知覚心理学Ⅱとともに、人の知覚について考えていく。知覚は‘環境の認知’と定義することができる。知覚心理学Ⅰでは人の感覚・知覚等の機序及びその障がいを中心に理解する。</p>							
	キーワード	<p>環境の認知 感覚・知覚の機序 感覚・知覚の障がい</p>	学修教育目標	<p>‘われわれは世界をどのようにとらえているのか’この問いに答えるために、どのようなアプローチがとられてきたか、その結果どのようなことがわかってきたか、どのような問題がどのような形で残っているか。このような点を理解することができる。</p>				
授業科目の概要及び学修上の助言								
<p>授業科目の概要 本科目では人の感覚・知覚等の機序及びその障がいについて学ぶ。 学修上の助言 本科目は認定心理士資格関連科目である。</p>								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
<p>他の科目との関連 知覚心理学Ⅱ・心理学概論B・認知心理学・生理心理学・心理学実験実習（実験） 履修に必要な予備知識や技能 心理学領域の科目履修が望ましい。</p>								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				<p>書 名：心理学検定 基本キーワード 改訂版 著者名：日本心理学諸学会連合 心理学検定局 出版社：実務教育出版</p>				
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）						
①	心理の専門知識を身につける。	知覚心理学の知識を身につける。						◎
②	心理の分析方法を身につける。							
③	心理カウンセリングの知識を身につける。							
④	心理カウンセリングの技法を身につける。							
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。							
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）						
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。						○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。						○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。						○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。						○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。						○
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。						○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことがらについて、十分に説明できる。						○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。						○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。						○
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。						○
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。						○
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。						○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるることができる。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	40	10					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	40	2					92
	技能に関する評価				2					2
	応用力に関する評価				2					2
	チームワークに関する評価				2					2
	関心・意欲に関する評価				2					2
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
人の感覚・知覚等の機序及びその障がいについて理解し、説明できる。 認定心理士の資格を取得する。					人の感覚・知覚等の機序及びその障がいについて理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	・講義 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業の復習	10
第2回 /	視覚の神経生理学的基盤（末梢）	・講義 ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第3回 /	視覚の神経生理学的基盤（中枢） ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第4回 /	明るさの知覚 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第5回 /	コントラストの知覚 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第6回 /	色の知覚 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第7回 /	形の知覚 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第8回 /	奥行きの知覚 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第9回 /	運動の知覚 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第10回 /	錯視 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第11回 /	恒常性 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第12回 /	注意 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第13回 /	聴覚 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第14回 /	まとめ ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・レポート課題作成	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPD33F066A	専門教育科目 心理学領域	知覚心理学Ⅱ Perception Ⅱ	2単位	選 択	講 義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>本科目では、知覚心理学Ⅰとともに、人の知覚について考えていく。知覚は‘環境の認知’と定義することができる。知覚心理学Ⅰでは人の感覚・知覚等の機序及びその障がいについて考察した。知覚心理学Ⅱでは、人がどのようにして自己と外界との関係を確立して生命活動を全うしているのかについて理解する。</p>	
	<p>環境の認知 自己と外界との関係の確立 個体発生 系統発生</p>	<p>学修教育目標</p> <p>知覚という高次の活動が出来上がっていく過程を、個体発生と系統発生の両面からを理解することができる。</p>

授業科目の概要及び学修上の助言

授業科目の概要
本科目では知覚心理学Ⅰに続き、人の感覚・知覚等の機序及びその障がい（またその形成過程）について学ぶ。
学修上の助言
本科目は認定心理士資格関連科目である。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目との関連
知覚心理学Ⅰ・心理学概論B・認知心理学・生理心理学・心理学実験実習（実験）
履修に必要な予備知識や技能
心理学領域の科目履修が望ましい。

教 科 書

参考書・リザーブブック

なし	<p>書 名：心理学検定 基本キーワード 改訂版 著者名：日本心理学諸学会連合 心理学検定局 出版社：実務教育出版 書 名：ヒトから人へ ―知的機能の一つの系譜― 著者名：池田 進 出版社：関西大学出版部 書 名：手のなかの脳 著者名：鈴木 良次 出版社：東京大学出版会</p>
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	知覚心理学の知識を身につける。	◎
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。	○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	○
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことについて、十分に説明できる。	○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	○
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	40	10					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	40	2					92
	技能に関する評価				2					2
	応用力に関する評価				2					2
	チームワークに関する評価				2					2
	関心・意欲に関する評価				2					2
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
人の感覚・知覚等の機序及びその障がい（またその形成過程について）について理解し、説明できる。 認定心理士の資格を取得する。					人の感覚・知覚等の機序及びその障がい（またその形成過程について）について理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	・講義 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業の復習	10
第2回 /	環境の認知 知覚は‘環境の認知’であるという定義について確認する。	・講義 ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第3回 /	把握と到達 随意運動の一つとしての把握と到達動作について確認する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第4回 /	環境からの情報 感覚情報の意味について確認する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第5回 /	視覚的なフィードフォワード 視覚的なフィードフォワードと動作との関係について検討する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第6回 /	視覚的なフィードバック 視覚的なフィードバックと動作との関係について検討する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第7回 /	把握にいたる過程 認知神経科学的視点から把握にいたる過程について検討する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第8回 /	到達にいたる過程 認知神経科学的視点から到達にいたる過程について検討する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第9回 /	把握や到達はどのようにして覚えるのか 把握や到達動作をどのように習熟していくのかについて考察する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第10回 /	歩行はどのようにして覚えるのか 歩行動作をどのように習熟していくのかについて考察する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第11回 /	身体はどのように進化してきたのか 身体と脳の進化について、二足歩行ができるまでを考察する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第12回 /	脳はどのように進化してきたのか 情報を処理する脳機能の進化について考察する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第13回 /	環境と身体と脳との関係 環境と身体と脳との関係について考察する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第14回 /	まとめ ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・レポート課題作成	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPD32S067S	専門教育科目 心理学領域	認知心理学 Cognitive Psychology	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	心理学の分野の中でも比較的新しい認知心理学は、他の心理学の領域のみならず、多くの学問領域に関係し、影響も与えている。本科目は記憶機能を中心に、人の認知、思考等の機序及びその障がいを理解する。						
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

キーワード	記憶の機序 認知の機序 思考の機序 認知機能の障がい	学修教育目標	記憶機能の研究を中心に、認知機能についていかなる研究がなされてきたかを考察することから、認知心理学を理解することができる。				
-------	-------------------------------------	--------	---------------------------------------------------------------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

授業科目の概要
 本科目では人の認知、思考等の機序及びその障がいについて学ぶ。
 学修上の助言
 本科目は認定心理士資格関連科目である。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目との関連
 知覚心理学Ⅰ・知覚心理学Ⅱ・心理学概論B・生理心理学・心理学実験実習（実験）
 履修に必要な予備知識や技能
 心理学領域の科目履修が望ましい。

教 科 書

参考書・リザーブブック

なし

書 名：心理学検定 基本キーワード 改訂版
 著者名：日本心理学諸学会連合 心理学検定局
 出版社：実務教育出版

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	認知心理学の知識を身につける。	◎
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。	○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	○
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことについて、十分に説明できる。	○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	○
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	40	10					100
評価 の 指 標	知識に関する評価		50	40	2					92
	技能に関する評価				2					2
	応用力に関する評価				2					2
	チームワークに関する評価				2					2
	関心・意欲に関する評価				2					2
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
人の認知、思考等の機序及びその障がいについて理解し、説明できる。 認定心理士の資格を取得する。					人の認知、思考等の機序及びその障がいについて理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	・講義 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業の復習	10
第2回 /	自由再生の基本現象	・講義 ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第3回 /	記憶の区分 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第4回 /	ワーキングメモリ（作動記憶）の構造 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第5回 /	2つのプライミング効果 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第6回 /	再生と再認の規定要因 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第7回 /	意味記憶のモデル ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第8回 /	記憶と感情 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第9回 /	記憶の発達 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第10回 /	パターン認識のメカニズム ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第11回 /	推論（推理）の区分 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第12回 /	批判的思考 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第13回 /	言語（文字・単語・文章）の理解 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第14回 /	感情の発達 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・レポート課題作成	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPD32F068S	専門教育科目 心理学領域	生理心理学 Physiological Psychology	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	生理心理学は行動の心理的機能と生理的機能の対応関係を研究する科学であるといわれる。本科目は生理指標を用いた感情、学習、記憶といった心理的機能の研究を中心に、生理心理学の研究アプローチを理解する。	
	キーワード	心理的機能と生理的機能の対応関係 生理指標 感情 学習 記憶

学修教育目標
心理的機能について、いかなる生理指標を用いた研究がなされてきたかを考察することから、生理心理学を理解することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

授業科目の概要
本科目では行動の心理的機能と生理的機能の対応関係について学ぶ。
学修上の助言
本科目は認定心理士資格関連科目である。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目との関連
知覚心理学Ⅰ・知覚心理学Ⅱ・心理学概論B・認知心理学・心理学実験実習（実験）
履修に必要な予備知識や技能
心理学領域の科目履修が望ましい。

教 科 書

参考書・リザーブドブック

なし
書 名：心理学検定 基本キーワード 改訂版
著者名：日本心理学諸学会連合 心理学検定局
出版社：実務教育出版

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	生理心理学の知識を身につける。	◎
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。	○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	○
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことについて、十分に説明できる。	○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	○
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	40	10					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	40	2					92
	技能に関する評価				2					2
	応用力に関する評価				2					2
	チームワークに関する評価				2					2
	関心・意欲に関する評価				2					2
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
行動の心理的機能と生理的機能の対応関係について理解し、説明できる。 認定心理士の資格を取得する。					行動の心理的機能と生理的機能の対応関係について理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	・講義 ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業の復習	10
第2回 /	自律神経機能① 交感神経系、副交感神経系	・講義 ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第3回 /	自律神経機能② ポリグラフ ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第4回 /	動物の行動と心理学 動物実験の方法 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第5回 /	遺伝子と心理学 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第6回 /	感情の生理過程① 理論 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第7回 /	感情の生理過程② 機能 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第8回 /	感情の生理過程③ 神経機構 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第9回 /	睡眠と覚醒 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第10回 /	記憶の神経機構① 長期増強 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第11回 /	記憶の神経機構② 長期抑圧 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第12回 /	学習の機能と神経機構① 知覚学習 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第13回 /	学習の機能と神経機構② 刺激-反応学習 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第14回 /	学習の機能と神経機構③ 運動学習・関係学習 ・小テスト	・講義 ・小テスト ・オンデマンドによる遠隔授業	・今回の授業内容の復習 ・レポート課題作成	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPD33S069S	専門教育科目 心理学領域	臨床心理学 I Clinical Psychology I	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標							
学修教育目的	臨床心理学の基礎的な理解を進め、基本的な理論、立場にはどのようなものがあるか、さらに援助対象者とはどのような人々なのかなど、臨床心理学の全体にわたって広く学ぶ。この臨床心理学 I では、そのなかでも主として臨床心理学の基礎的な理論・概念・様々な援助技法について学び、また実習を加えて体験的に臨床心理学に触れることができるようにしたい。						
	キーワード	臨床心理学 基礎理論 援助技法	学修教育目標	臨床心理学の基礎的な理論・概念・様々な援助技法について学び、実習を通じて体験的に臨床心理学に触れ、理解することができる。			
授業科目の概要及び学修上の助言							
臨床心理学についての一般的な概略について述べ、その後に、心理アセスメント、さまざまな援助技法について概観する。関心を持った理論・技法について、ポイントを絞って詳しく調べ、レポートにして提出できるように、授業内外において主体的に学習を進めてほしい。							
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能							
「臨床心理学Ⅱ」「教育心理学」「健康心理学」など、応用心理学の領域の理解につながります。							
教 科 書				参考書・リザーブブック			
使用しない。				書 名：これからの心の援助 著者名：川瀬正裕・松本真理子・川瀬三弥子 出版社：ナカニシヤ出版 その他			
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1)					
①	心理の専門知識を身につける。						
②	心理の分析方法を身につける。	さまざまな立場から、心理的な側面の理解ができる。					○
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	臨床心理学の基礎的な理論について理解できる。					○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。						
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。						
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	日常生活の中で、課題解決に役立てることができるように、身近な問題と関連付けることができる。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標							
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標 (※2)					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業、課題などに主体的に取り組むことができる。					◎
	② 働きかけ力						
	③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	身近な問題と関連付けて、理解・発見ができる。					○
	② 計画力						
	③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考えや感想を文章や口頭で説明することができる。					○
	② 傾聴力						
	③ 柔軟性						
	④ 状況把握力						
	⑤ 規律性						
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに気付き、適切に対処する手がかりを得ることができる。					○
4. 倫理観	① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	20				20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	10	15					75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5				10	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
臨床心理学の基本的な技法について、位置づけを理解しつつ、概観することができる。最も関心を持った理論については、特に深く理解し、日常生活にも役立てることができる。					臨床心理学の基本的な技法について、概観することができ。関心を持った理論については、特徴を十分に理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	臨床心理学的援助のプロセス 基本的な臨床心理学的援助技法の適応のプロセス	面接授業	復習：授業内容に関する小レポート	10
	コメントシート、小テストなど			
第2回 /	臨床心理学的なかかわりの基礎 心理アセスメント①人格検査	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第3回 /	臨床心理学的なかかわりの基礎 心理アセスメント②知能検査・発達検査	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第4回 /	臨床心理学的なかかわりの基礎 ピアカウンセリング	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第5回 /	トピック1 異常心理学の歴史	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第6回 /	臨床心理学のパラダイム① 生物学的パラダイム 精神分析的パラダイム 精神分析理論の起源	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第7回 /	臨床心理学のパラダイム② 精神分析的パラダイム 精神分析理論の発展	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第8回 /	臨床心理学のパラダイム③ 学習理論パラダイム 行動理解の基礎	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第9回 /	臨床心理学のパラダイム④ 学習理論パラダイム 認知行動療法	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第10回 /	トピック2 SSTと集団精神療法	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第11回 /	臨床心理学のパラダイム⑤ 人間学パラダイム ロジャーズのクライアント中心療法	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第12回 /	臨床心理学のパラダイム⑥ 共感 クライアントの話に耳を傾ける	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第13回 /	トピック3 芸術療法 絵画療法 実習	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第14回 /	臨床心理学における倫理的問題	面接授業	復習：授業内容に関する小レポート	10
	コメントシート、小テストなど			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SPD33F069A	専門教育科目 心理学領域	臨床心理学Ⅱ Clinical Psychology Ⅱ	2単位	選 択	講 義	3年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	<p>臨床心理学の基礎的な理解を進め、基本的な理論、立場にはどのようなものがあるか、さらに援助対象者にはどのような人々なのかなど、臨床心理学の全体にわたって広く学ぶ。</p> <p>この臨床心理学Ⅱでは、そのなかでも主として臨床心理学的援助を必要とするさまざまな問題について、援助の領域と、援助を必要とする人々の状態像、援助の実際について理解を深めることを目的としている。また、実習や発表の機会を通して、積極的に興味や関心の幅を広げてもらいたい。</p>							
キーワード	臨床心理学 援助対象者 精神障がい	学修教育目標	臨床心理学的援助を必要とするさまざまな問題について、援助の領域と、援助を必要とする人々の状態像、援助の実際について理解を深めることができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
臨床心理の領域でかかわる対象者を理解するために、非行や精神疾患などのテーマごとに授業を進める。授業以外にも関心を持つテーマがあれば、主体的に学習し、発表してほしい。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「健康心理学」の理解とつながりがあります。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
使用しない。				書 名：これからの心の援助 著者名：川瀬 正裕・松本 真理子・川瀬 三弥子 出版社：ナカニシヤ出版 その他				
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）						
①	心理の専門知識を身につける。	精神疾患や問題行動等の背景にある心理的な問題の理解について、臨床心理学的な知識を身につける。					◎	
②	心理の分析方法を身につける。							
③	心理カウンセリングの知識を身につける。							
④	心理カウンセリングの技法を身につける。							
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。							
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題などに主体的に取り組むことができる。					◎	
	② 働きかけ力							
	③ 実行力							
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	臨床心理学的な知識を、身近な事柄と関連付けて、捉えなおすことができる。					○	
	② 計画力							
	③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力							
	② 傾聴力							
	③ 柔軟性							
	④ 状況把握力							
	⑤ 規律性							
	⑥ ストレスコントロール力	ストレス状況を理解して、柔軟に対処できる。					○	
4. 倫理観	① 倫理性							

※ ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	15	15				20	100
評価 の 指 標	知識に関する評価		50	15	10					75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5				10	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
臨床心理の領域でかかわる対象者について知り、DSM-Ⅲなども参照しながら、理解のための手がかりを得ることができる。授業以外にも関心を持つテーマがあれば、主体的に学習し、日常生活に敷衍して活用できる。					対象者について、臨床心理学的な視点から、理解の手がかりを得ることができ、日常生活にも生かすことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	臨床心理学的援助とは 臨床心理学的な技法を用いた援助とかわりの基礎	面接授業	復習：授業内容に関する小レポート	10
	コメントシート、小テスト			
第2回 /	臨床心理学の実践領域 思春期・青年期の課題と適応	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第3回 /	臨床心理学の実践領域 社会的逸脱行動としての非行・犯罪	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第4回 /	臨床心理学の実践領域 不登校の理解と支援	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第5回 /	臨床心理学の実践領域 ライフサイクルの中の青年期と病理	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第6回 /	臨床心理学の実践領域 統合失調症の理解と支援	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第7回 /	臨床心理学の実践領域 現代的な問題としてのパーソナリティ障害	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第8回 /	臨床心理学の実践領域 発達障害の理解と支援	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第9回 /	臨床心理学の実践領域 人生半ばの危機とうつ病	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第10回 /	臨床心理学の実践領域 うつ病の理解と支援	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第11回 /	臨床心理学の実践領域 老年期の課題と認知症	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第12回 /	グループ発表	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第13回 /	グループ発表	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第14回 /	様々な分野における心理臨床の実際 医療・教育・司法・産業等の分野における臨床	面接授業	復習：授業内容に関する小レポート	10
	コメントシート、小テスト			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPD32F070S	専門教育科目 心理学領域	人格心理学 Personality Psychology	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>人格心理学は、ときにパーソナリティ研究とも呼ばれ、大別して3つの問題領域をもっている。その第1は、人格をどういうものとするかという、いわば理論（概念）問題である。第2は、性格形成に関して、素質か環境かという古くからの問題がさまざまな方法で研究されている。第3は、性格の診断や測定に関する問題（類型・特性）である。この講義では、これらの問題領域を紹介し概観することから、人格心理学を理解することを目的とする。</p>	
	キーワード	学修教育目標

人格理論（概念）
性格形成
類型・特性

学修教育目標

心理臨床の領域では現在、神経症と精神病の中間領域に位置する、境界人格障害に注目が集まっている。この人格がいかに形成され、またどのように治療されているかについて、理解を深めることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

授業科目の概要
本科目では人格心理学の理論（概念）、性格形成、類型・特性について学ぶ。
学修上の助言
本科目は認定心理士の資格関連科目である。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目との関連
臨床心理学Ⅰ・臨床心理学Ⅱ・人間関係論
履修に必要な予備知識や技能
心理カウンセリング関連科目の履修が望ましい。

教 科 書

参考書・リザーブドブック

なし

書 名：新訂 人格心理学
著者名：榎本 博明、桑原 知子
出版社：放送大学教育復興会

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	人格心理学の知識を身につける。	◎
②	心理の分析方法を身につける。	人格心理学の分析を身につける。	○
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	人格心理学の技法を身につける。	○
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	実社会で応用できる課題解決の力を身につける。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。	○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	○
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことについて、十分に説明できる。	○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	○
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の場合で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	30	20					100
評価 の 指標	知識に関する評価		20	10	10					40
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		20	10	5					35
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10	10	5					25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
人格心理学の理論（概念）、性格形成、類型・特性について理解でき、説明ができる。 認定心理士の資格を取得する。					人格心理学の理論（概念）、性格形成、類型・特性について理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / /	人格心理学 ①シラバスの説明 ②人間を考えるとときに人格心理学が与える重要な視点 人格と心理学をどこまで理解していたか、評価	講義 受講アンケート調査 面接授業	資料の予習（ガル）	90
第2回 / /	性格理論 ①性格の類型論と特性論の特徴 ②その長所・短所について 人格を外観から理解することを、どう評価するか	講義 受講アンケート調査結果のまとめ 小テスト（ガル） 面接授業	資料の予習（気質類型論）	90
第3回 / /	クレッチマー 三つの気質類型論	小テストの返却 講義 課題レポートの作成と提出（気質類型論） 面接授業	資料の予習（マレー）	90
第4回 / /	マレー マレーのパーソナリティ理論、TAT	レポートの返却 講義 面接授業	資料の予習（意識・前意識・無意識）	90
第5回 / /	フロイト フロイトの精神分析とパーソナリティ理論の特徴について 夢を見る人間の特性を臨床的に開発したことを、どう評価するか	講義 課題レポートの作成と提出 面接授業	資料の予習（自我防衛機制）	90
第6回 / /	自我防衛機制 フロイトの自我防衛機制の理論 自我を守るための人間の知恵を、どう評価するか	レポートの返却 講義 小テスト（自我防衛機制） 面接授業	教科書の予習（ユング）	90
第7回 / /	ユング ユングの内向・外向を軸としたパーソナリティ理論 夢を軸にした、意識そして記憶の深奥を、どう評価するか	小テスト返却 講義 課題レポートの作成と提出（ユング） 面接授業	教科書の予習（エゴグラム）	90
第8回 / /	対人関係にあらわれるパーソナリティ エゴグラム エゴグラム、テグの活用の便利さを理解できたかを評価する	レポート返却 講義 課題レポートの作成と提出（エゴグラム） 面接授業	教科書の予習（双生児研究）	90
第9回 / /	双生児研究 ①格形成における双生児研究の意義について	レポート返却 講義 面接授業	教科書の予習（学習理論）	90
第10回 / /	学習理論 学習理論が持つパーソナリティの研究への貢献 パーソナリティは獲得されたものでもあることの理解が出来たかどうか評価する	講義 面接授業	教科書の予習（レヴィンの場の理論）	90
第11回 / /	レヴィン 場の理論に基づくレヴィンのパーソナリティ理論の特徴	講義 面接授業	教科書の予習（投影法）	90
第12回 / /	投影法テスト 投影法開発の背景 行動観察や言語報告で把握できにくい領域を理解できたかを評価する	講義 面接授業	教科書の予習（ライフサイクル）	90
第13回 / /	ライフサイクルとパーソナリティ バルテス、エリクソン	講義 小テスト（ライフサイクル） 面接授業	教科書の予習（質問紙法）	90
第14回 / /	質問紙法テスト ①パーソナリティの研究法と質問紙法の長所と短所 統計の活用が集団と個の特性を分析できることを、どこまで理解できたかを評価する	小テスト返却 講義 面接授業	心理学検定基本キーワードのパーソナリティー理論と測定を予習する。	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPD32S071S	専門教育科目 心理学領域	社会心理学 Social Psychology	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標							
学修教育目的	我々は、社会の中で、他者の影響を受けて生きている。同時に我々は他者に影響を与えている。本授業では、社会の中に生きる人間の心理過程や態度・行動、人間関係の相互作用に焦点をあて、社会心理学の基本的な理論について理解する。						
キーワード	社会的自己 集団 援助行動 服従行動	学修教育目標	本授業においては、現代社会の対人関係に関する様々な問題を知ることができる。社会の中の様々な人間の行動を学ぶことにより、人々が社会で直面する様々な問題について考えることができる。社会心理学の主要な知見を、知識として習得するとともに、それを日常生活に応用し、日々の問題解決に社会心理学の知識を利用できるスキルを身につけることができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言							
本授業では、日常生活で経験する「人と人」、「人と社会」の影響過程について学修する。社会心理学の主要な理論を学ぶとともに、それを日常生活に応用できるようにしてほしい。授業の概要については以下の通りである。							
<ul style="list-style-type: none"> ・社会心理学とは何か ・社会的自己について ・対人認知 ・社会における人間の行動 ・社会的認知 							
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能							
心理学概論、心理学研究法を履修していることが望ましい。							
教 科 書				参考書・リザーブブック			
なし				書 名：心理学検定基本キーワード 改訂版 著者名：日本心理学諸学会連合心理学検定局（編） 出版社：実務教育出版			
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）					
①	心理の専門知識を身につける。	人の態度及び行動について様々な理論を用いて説明することができる。					
②	心理の分析方法を身につける。	社会的態度の測定方法について説明することができる。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。						
④	心理カウンセリングの技法を身につける。						
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	他者のことを考えながら意見を述べ、自発的に課題に取り組むことができる。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。						
授業科目における社会人基礎力の育成目標							
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。					
	② 働きかけ力						
	③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。					
	② 計画力						
	③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考えたことがらについて、十分に説明できる。					
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。					
	③ 柔軟性						
	④ 状況把握力						
	⑤ 規律性						
	⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるすることができる。					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			44						56	100
評価 の 指標	知識に関する評価		44						36	80
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>社会心理学で学んだことについて十分に理解し、説明することができる。 人と人との関係、集団と個人との関係についての理論について十分に理解し、学んだ内容を日常生活に活かすことができる。</p>					<p>社会心理学で学んだことについて説明することができる。社会心理学で用いられている研究手法を理解することができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / コメントシート	ガイダンス ・授業の目的・計画・受講上の注意等の説明を行う コメントシート	面接授業	予習：「社会心理学とは何か」について考える。心理学検定キーワード「社会心理学」を読み、キーワードを抽出する。自己紹介文を作成する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第2回 / コメントシート	社会的自己(1) ・自己についての考え方 ・自己意識 ・自己知覚 ・自己意識の質問に回答し、自己について考える。 コメントシート	面接授業	予習：自己呈示について予習しておく。 復習：配布プリントを復習する。	90
第3回 / コメントシート	社会的自己(2) ・自己スキーマ ・自己呈示 ・没個性化 コメントシート	面接授業	予習：心理学検定キーワード「対人的自己」を読み、キーワードを抽出する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第4回 / コメントシート	対人知覚(1) ・感情の知覚 ・印象形成 コメントシート	面接授業	予習：印象形成について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第5回 / コメントシート	対人知覚(2) ・対人記憶 ・対人認知における歪み ・暗黙の人格理論論 コメントシート	面接授業	予習：心理学検定キーワード 「対人認知」「ステレオタイプ」を読み、キーワードを抽出する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第6回 / コメントシート	態度と態度変容(1) ・態度とは ・説得的コミュニケーションによる態度変化 コメントシート	面接授業	予習：心理学検定キーワード 「偏見と差別」を読み、キーワードを抽出する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第7回 / コメントシート	態度と態度変容(2) ・態度変容の理論 ・説得のテクニック コメントシート	面接授業	予習：心理学検定キーワード「社会的影響」を読み、キーワードを抽出する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第8回 / コメントシート	態度と態度変容(3) ・説得への抵抗・態度の測定方法 コメントシート	面接授業	予習：態度測定について調べる 復習：配布プリントを復習する。	90
第9回 / コメントシート	攻撃行動(1) ・攻撃行動とは ・攻撃行動についての理論 ・攻撃性を測定し、自己を振り返る。 コメントシート	面接授業	予習：攻撃行動について復習する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第10回 / コメントシート	攻撃行動(2) ・攻撃行動のコントロール ・運転における攻撃性 コメントシート	面接授業	予習：心理学検定キーワード 「攻撃」を読み、キーワードを抽出する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第11回 / コメントシート	援助行動 ・援助行動とは ・援助行動の背景要因 思いやり度を測定し、自己を振り返る。 コメントシート	面接授業	予習：援助行動について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第12回 / コメントシート	社会的影響と同調と逸脱(1) ・個人から個人への影響 コメントシート	面接授業	予習：服従行動について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第13回 / コメントシート	社会的影響と同調と逸脱(2) ・集団から個人への影響 ・個人から集団への影響 コメントシート	面接授業	予習：同調行動について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第14回 / コメントシート	社会的認知(1) ・帰属過程 ・帰属と対人行動 ・推論のエラーとバイアス コメントシート	面接授業	予習：心理学検定キーワード「帰属過程」を読み、キーワードを抽出する。 復習：配布プリントを復習する。	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPD33S072S	専門教育科目 心理学領域	人間関係論 Human Relations	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>本授業では、様々な視点から人間関係を概観し、人間関係の重要性について理解し、よりよい人間関係を築くための考え方や行動の仕方について理解する。</p>
--------	-------------------------------------------------------------------------------

キーワード	<p>親子関係 友人関係 援助行動 支配・服従 攻撃行動</p>	学修教育目標	<p>本授業においては、現代社会の様々な人間関係について学ぶことができる。社会心理学と発達心理学の主要な知見を修得するとともに、各自の人間関係についても考察できる能力を身につけ、より良い人間関係の築き方について意見を述べるができる。</p>
-------	--------------------------------------------------	--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

本授業においては、親子関係、友人関係、恋愛関係など、様々な人間関係について学ぶ。これらの各項目についての基礎概念と理論について概説する。授業においては、具体的な例を挙げながら講義する。本授業で、各自が経験する人間関係について考察できる能力を身につけて欲しい。そのためには、学生一人一人が問題意識を持って授業に参加して欲しい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

社会心理学、心理学概論、心理学研究法の内容とも関連するので、これらの科目の内容と関連付けながら受講すると、理解がより一層深まる。

教科書

授業内でレジュメを適宜配布する。

参考書・リザーブブック

書 名：心理学検定基本キーワード 改訂版
著者名：日本心理学諸学会連合心理学検定局（編）
出版社：実務教育出版

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	社会心理学と発達心理学の主要な知見を応用し、様々な人間関係について概説することができる。	◎
②	心理の分析方法を身につける。	論文の読む力を身につけ、その中で使用されている分析手法を理解している。	○
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	人と人との関わりについて意識することができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	日常の対人関係やグループ活動におけるコミュニケーションに応用できる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えることができる。	○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性	ほかの人の気持ちを理解することができる。	○
	④ 状況把握力	出された課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55						45	100
評価 の 指標	知識に関する評価		55						15	70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価								10	10
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> 授業で取り上げた人間関係論の知識について十分に理解し、説明することができる。 本授業で取り上げた理論を用いて、自分自身の人間関係について分析することができる。 予習・復習を行い、疑問点を見つけ、自ら解決することができる。 					<ul style="list-style-type: none"> 授業で取り上げた人間関係論の知識を概ね理解している。 親子関係に関する心理学に関する理論を理解している。 授業を休まずに出席し、予習と復習を行っている。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / コメントシート	ガイダンス ・授業の目的・計画・受講上の注意等の説明を行う コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入 (面接授業)	予習：様々な人間関係について考える。 復習：配布プリントを復習する。	90
第2回 / コメントシート	親子関係からみた人間関係(1) －乳幼児期までの親子関係－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入 (オンデマンドによる遠隔授業)	予習：親子関係について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第3回 / コメントシート	親子関係からみた人間関係(2) －乳幼児期までの親子関係－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入 (オンデマンドによる遠隔授業)	予習：愛着について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第4回 / コメントシート	親子関係からみた人間関係(3) －児童期、青年期の親子関係－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入 (オンデマンドによる遠隔授業)	予習：反抗期について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第5回 / コメントシート	友人関係からみた人間関係(1) －幼児期、児童期の仲間関係－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入 (オンデマンドによる遠隔授業)	予習：社会性の発達について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第6回 / コメントシート	友人関係からみた人間関係(2) －青年期の友人関係－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入 (オンデマンドによる遠隔授業)	予習：青年期の友人関係について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第7回 / コメントシート	友人関係からみた人間関係(3) －友人関係の論文を読む－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入 (オンデマンドによる遠隔授業)	予習：友人関係についての論文をまとめる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第8回 / コメントシート	親密な人間関係(1) －対人魅力について－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入 (オンデマンドによる遠隔授業)	予習：単純接触効果について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第9回 / コメントシート	親密な人間関係(2) －対人魅力の測定－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入 (面接授業)	予習：対人魅力を測定する尺度を調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第10回 / コメントシート	親密な人間関係(3) －恋愛のプロセスについて－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入 (オンデマンドによる遠隔授業)	予習：恋愛心理について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第11回 / コメントシート	コミュニケーション(1) －コミュニケーションについて考えよう－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入 (オンデマンドによる遠隔授業)	予習：コミュニケーションについて調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第12回 / コメントシート	コミュニケーション(2) －ノンバーバル・コミュニケーションとは－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入 (面接授業)	予習：対人距離について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第13回 / コメントシート	コミュニケーション(3) －対人コミュニケーションとは－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入 (オンデマンドによる遠隔授業)	予習：説得について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第14回 / コメントシート	競争と協同 コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入 (面接授業)	予習：社会的ジレンマについて調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPD32F073S	専門教育科目 心理学領域	ビジネス心理学 Business Psychology	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>人々は社会に出て、仕事に取り組む時、様々な問題に直面する。たとえば、仕事に対するやる気の無さ、職場での人間関係の悩み、職場でのうっかりミスなどである。本授業においては、「ワーク・モチベーション」「職場のコミュニケーション」「仕事の能率と安全」などの心理学の領域を勉強し、人々が仕事に取り組む際に直面する様々な問題とそれに対する必要な心理に関する支援について学ぶことを目的とする。</p> <p>組織とは、人間からなり人間のためにある。その中で人間同士の相互作用により生じてくる心理学的・行動学的特性について理解する。</p>
----------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

キ ー ワ ー ド	<p>ワーク・モチベーション リーダーシップ ヒューマンエラー ストレス 消費者行動</p>	学 修 教 育 目 標	<p>本授業においては、「ワーク・モチベーション」「職場のコミュニケーション」「仕事の能率と安全」などの心理学の領域を学ぶことにより、人々がビジネス場面で直面する様々な問題について知ることができる。</p>
-----------------------	----------------------------------------------------------------	----------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>本授業では、人々が日常、ビジネス場面で直面する様々な問題について学修する。職場集団の特徴やビジネス場面で起こりうる事象についての理論を学ぶとともに、それを日常生活に応用できるようにしてほしい。毎回の授業の理解度を確認するためにコメントシートを配布し、授業に関するコメントを記述してもらおう。また、グループディスカッションを行い、事例発表、およびケーススタディを通じ、ビジネス心理学の理解を深めて欲しい。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>社会心理学、心理学概論、心理学研究法の内容とも関連するので、これらの科目の内容と関連付けながら受講すると理解がより一層深まる。</p>

教 科 書	参考書・リザーブブック
なし	<p>書 名：心理学検定基本キーワード 改訂版 著者名：日本心理学諸学会連合心理学検定局（編） 出版社：実務教育出版</p>

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	組織における人の行動について概説できる。	◎
②	心理の分析方法を身につける。	ストレスの測定方法について説明することができる。	◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	人と人との関わりについて意識することができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	日常の対人関係やビジネス場面で生じるヒューマンエラー対策に応用できる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考えたことがらについて、十分に説明できる。	○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	相手の意思決定や権利を守ることの重要性を意識することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			44						56	100
評価 の 指標	知識に関する評価		44						36	80
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
ビジネス心理学の全体像を十分に理解し、ビジネス場面で心理学的な知識を適切に応用できる。					心理カウンセリング領域の一つの科目として、ビジネス心理学の概観を理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス 授業の目的・計画・受講上の注意等の説明を行う。	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「産業・組織心理学の概観」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第2回 /	ワーク・モチベーション(1) ・ワーク・モチベーションに関する初期研究	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「職務態度とディセントワーク」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第3回 /	ワーク・モチベーション(2) ・内容理論的アプローチと過程理論的アプローチ ・職務満足感	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「仕事への動機づけ」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第4回 /	職場の情報処理とコミュニケーション(1) ・職場集団の特性 ・職場集団の発達論 ・職場の規範と社会化	面接授業	予習：これまでの学んだことを整理する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第5回 /	職場の情報処理とコミュニケーション(2) ・職場のチームワーク ・職場のコミュニケーション会議による意思決定過程の特性 ・職場で起こる対人葛藤への対処	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「集団ダイナミズム」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第6回 /	集団・組織におけるリーダーシップ ・地位と役割 ・リーダー行動の類型化	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「リーダーシップ」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第7回 /	キャリアの展開と育成	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「多様な働く人々と雇用の多様化」、「キャリア発達と能力開発」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第8回 /	仕事の能率と安全(1) ・ヒューマンエラーとは ・エラー誘発環境とは何か	面接授業	予習：これまでの学んだことを整理する。 復習：配布プリントを復習する。	270
	コメントシート			
第9回 /	仕事の能率と安全(2) ・エラーに関係する人間的特性は何か ・不安全行動とは	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「安全人間工学」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第10回 /	仕事の能率と安全(3) ・事故のヒューマンファクター ・ルール違反による事件・事故 ・事故防止対策	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「組織の安全文化とリスクマネジメント」「事故モデル」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第11回 /	職場の快適性・疲労・ストレス ・ワークロード ・疲労とストレス	面接授業	予習：これまでの学んだことを整理する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第12回 /	消費者行動(1) ・消費者行動とは ・マーケティングとは	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「消費者の心理メカニズム」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第13回 /	消費者行動(2) ③消費者行動の理論枠組みと研究法	面接授業	予習：心理学検定基本キーワード「マーケティングと消費者行動」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			
第14回 /	消費者の価格判断と心的会計 ・消費者の価格判断 ・参照価格とプロスペクト理論 ・消費者の心的会計	面接授業	予習：これまでの学んだことを整理する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	コメントシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA33S075S	専門教育科目 関連科目領域	ホスピタリティ・マネジメント Hospitality Management	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	①社会で必要とされるホスピタリティ・マネジメントについて理解を深める。 ②相手の立場になって考え、行動できる誠実な人間性を高める。 ③異文化社会の理解を深める ④仕事における喜びの創造を描く	
	キーワード ホスピタリティ おもてなし 接客マナー 顧客満足 従業員満足 コミュニケーション 観光 サービス業 組織経営 キャリア形成	学修教育目標 ①ホスピタリティ・マネジメントの意義を理解し、必要とされる人物像を描く。 ②実習を通じて具体的に理解し、プロを目指した実践ができるようになる。 ③さまざまな国の文化の違いを理解しあう。 ④日常の場で、ホスピタリティマインドを持った行動をとる。

授業科目の概要及び学修上の助言

「ホスピタリティ」の歴史的背景から「ホスピタリティ・マネジメント」の現場での実例を学び、本質を理解する。
 観光、サービス業、人と関わる仕事に活かすことができる。
 楽しむ心で、積極的に参加し、心と技を磨いてほしい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

社会人基礎力

教科書

参考書・リザーブドブック

なし	なし
----	----

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	ホスピタリティマインドを持った傾聴力を身に付ける	◎
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	ホスピタリティの本質を理解し、社会の一員として取るべき行動・言動を理解し、できることを行動化する。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	ホスピタリティの本質を理解し、問題解決ができる。相手の気持ちを考え、提案をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら目標を持ち主体的に授業に取り組むこと。	◎
	② 働きかけ力	グループワークにおいて、メンバーに積極的な意見交換や行動を促す働きかけをすること。	◎
	③ 実行力	ワーク等、積極的に取り組む。自ら発言する。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	ものごとの改善点を見出す。うまくいかないことに対して、解決策を見出す。	◎
	② 計画力	やるべきことを実現するための計画を考える。	◎
	③ 創造力	お客様に喜ばれるための創意工夫ができる	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	相手に良い印象を与える話し方を身に付ける。相手に正確に伝える。	◎
	② 傾聴力	相手を理解するスキルを身に付ける。事実を正確に聴く。相手の気持ちに共感し聴く。	◎
	③ 柔軟性	さまざまな人の考え方、価値観があることを尊重し、理解する。	◎
	④ 状況把握力	今、どんな言動、行動をすべきか考え、実行する。	◎
	⑤ 規律性	欠席、遅刻をしない。やるべきことを期限内になしとげる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ものごとを前向きにとらえることができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	思いやりの心を持つ。互いに協力しあう姿勢を持つ。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45	10	15	20			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		5		5					10
	技能に関する評価		15	5	5	5				30
	応用力に関する評価		10	5		5				20
	チームワークに関する評価		5			5			5	15
	関心・意欲に関する評価		10		5	5			5	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>ホスピタリティの本質を理解し、問題意識、改善意識を持つ。 相手に喜ばれる創意工夫、計画立案ができ、自ら実践することができる。 目標に向かってチームを巻き込む行動ができる。</p>					<p>ホスピタリティの本質を理解し、基本的な対応ができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ホスピタリティ・マネジメントとは 授業の目的、取り組み方 ホスピタリティ・マネジメントの基礎知識 歴史的背景	講義 面接授業	授業の復習	20
第2回 /	ホスピタリティマインドの必要性 日常の中でのホスピタリティマインド	講義・ワーク 面接授業	授業の復習 日常の中にあるホスピタリティマインドの観察・実践	30
第3回 /	ホスピタリティ・マネジメントの事例研究	講義、レポート 面接授業	授業の復習・実践	30
第4回 /	接客マナーの基本 おもてなしの心 相手に良い印象を与える 相手を思い真心を伝える	講義、実習 面接授業	授業の復習・実践	30
第5回 /	感謝の心 感謝の気持ちの伝え方 感謝する人になる 感謝される人になる	講義、グループディスカッション 面接授業	授業の復習・実践	30
第6回 /	お客様との話し方、聴き方 感じの良い話し方・聴き方 要望を傾聴し、提案する	講義・実習 面接授業	授業の復習・実践	30
第7回 /	異文化社会における相互理解	講義・グループワーク 面接授業	授業の復習・実践	30
第8回 /	創意工夫 お客様に喜ばれるためのアイデアを考える	講義、グループディスカッション 面接授業	授業の復習・実践	30
第9回 /	ホスピタリティ・マネジメントの事例研究	講義 ワーク 面接授業	授業の復習・実践	30
第10回 /	接客マナー実践 ・電話応対・来客応対	講義、実習 面接授業	授業の復習・実践	30
第11回 /	お客様のことを考えたプラン作り	講義、グループ実習 面接授業	授業の復習・実践	30
第12回 /	成果発表	グループ実習 面接授業	授業の復習・実践	30
第13回 /	さまざまな業界で必要とされるホスピタリティ・マネジメント	講義、ワーク 面接授業	授業の復習・実践	30
第14回 /	まとめ 思いやりの心に満ちた社会へ	講義 面接授業	授業の復習・実践	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA32S076S	専門教育科目 関連科目領域	経営概論 Survey of Business Administration	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	経営概論の主たる対象は「ビジネス」である。ビジネスを「金もうけ」と考える経営者は、少数派になりつつある。ビジネスは「 」のため。あなたは「 」にどのような言葉を入れるのか？ 本講義では、経営管理の古典的な手法から組織における人間の行動、モチベーションやリーダーシップのありかた、ビジネス競争に打ち勝つ基本的な考え方など、企業における実務でも役立つ知識を学ぶだけでなく、自分なりのビジネス観の基礎を構築することを目的とする。	
	キーワード	マネジメント 経営組織論 経営戦略論

学修教育目標

経営理論の誕生、経営組織論、経営戦略論の3つの観点を通じて、経営学の主要な理論についての基礎知識を修得することを目標とする。

授業科目の概要及び学修上の助言

経営概論では、過去100年にわたり、ビジネスを対象にして、先人たちがどのような問題に直面し、それを解決するためにどのような理論をつくり出したのか、その過程や理論の内容について学びます。家族や自分が仕事やアルバイト等を通じて関わりのある企業について、その企業が何を目標にどのような取り組みを行っているのかについて調べることが、学修テーマの理解を深めます。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「マーケティング論」とあわせて受講すると、経営学の全体像を学べます。3年次の「企業論」の理解につながります。履修に必要な予備知識や技能はありません。

教 科 書

参考書・リザーブブック

なし

なし

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	心理の専門知識を身につける。	
②	心理の分析方法を身につける。	
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	経営学の主要な理論がわかる。 ◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。 ○
	② 働きかけ力	
	③ 実行力	
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。 ○
	② 計画力	時間内に成果を出せる。 △
	③ 創造力	成果のまとめ方にオリジナリティがある。 ○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	
	② 傾聴力	
	③ 柔軟性	
	④ 状況把握力	
	⑤ 規律性	
	⑥ ストレスコントロール力	
4. 倫理観	① 倫理性	

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		40		20					60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10		20					30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				10					10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>経営学の主要な理論についての基礎知識を十分理解している。 ビジネスは「 」のため。「 」にどのような言葉を入れるか、自分なりの考えが明確になっている。</p>					<p>経営学の主要な理論についての基礎知識を理解している。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス、本講義の進め方や受講上の注意事項 経営概論を学ぶ意義、経営学の全体像、経営学とその位置づけ	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第2回 /	経営理論の誕生（1） 経営学の発生、テイラーの科学的管理法、ファヨールの管理過程論 TGU e-Learning システムからレポート（課題）提出	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第3回 /	経営理論の誕生（2） 科学的管理法からフォードシステムへ、	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第4回 /	経営理論の誕生（3） 科学的管理法の限界、人間関係論	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第5回 /	経営理論の誕生（まとめ）	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第6回 /	経営組織論（1） モチベーション理論 TGU e-Learning システムからレポート（課題）提出	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第7回 /	経営組織論（2） リーダーシップ論 TGU e-Learning システムからレポート（課題）提出	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第8回 /	経営組織論（3） 組織とは何か、組織原則、組織構造	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第9回 /	経営組織論（まとめ）	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第10回 /	経営戦略論（1） 戦略論の誕生 マネジメントから戦略へ	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第11回 /	経営戦略論（2） ポジショニング派	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第12回 /	経営戦略論（3） ケイパビリティ派	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第13回 /	経営戦略論（4）	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第14回 /	まとめ	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA32F077S	専門教育科目 関連科目領域	マーケティング論 Marketing	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>マーケティングは、かつては自社の製品やサービスを効率よく販売するための手段であった。しかし、今日では、非営利企業、さらには国や地方公共団体などのあらゆる社会活動においてマーケティング的発想が不可欠である。本講義では、現代社会において重要性がますます高まっているマーケティング論における基礎的な知識を修得することを目的とする。</p>						
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

キーワード	マーケティング・コンセプト STP マーケティングミックス 顧客価値 デジタルマーケティング	学修教育目標	マーケティングの中心概念である「顧客価値」とは何か、また、製品やサービスを通じて顧客価値をいかに創出し、顧客に提供するかについての一連の基本的な知識を修得するとともに、社会活動において日々接する様々な企業・団体のマーケティング活動を理解できることを目標とする。				
-------	------------------------------------------------------------	--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>マーケティングとは何か、マーケティングはどのように実施するのか、マーケティングミックスとは何か、インターネット時代の新しいマーケティング手法にはどのようなものがあるのかなど、マーケティングの全体像について学びます。テレビや雑誌、インターネットなどで日々大量の広告に接していますから、それらが誰を対象にどのような成果を目指して実施されているのか常に意識すると、授業内容についての理解が深まります。</p>							
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>「経営概論」とあわせて受講すると、経営学の全体像を学べます。3年次の「企業論」の理解につながります。履修に必要な予備知識や技能はありません。</p>							
-------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

教 科 書				参考書・リザーブドブック			
なし				なし			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	心理の専門知識を身につける。							
②	心理の分析方法を身につける。							
③	心理カウンセリングの知識を身につける。							
④	心理カウンセリングの技法を身につける。							
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。							
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	企業が日々取り組んでいるマーケティングが理解できる。						○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）						
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。						○
	② 働きかけ力							
	③ 実行力							
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。						○
	② 計画力	時間内に成果を出せる。						△
	③ 創造力	成果のまとめ方にオリジナリティがある。						○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力							
	② 傾聴力							
	③ 柔軟性							
	④ 状況把握力							
	⑤ 規律性							
	⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観	① 倫理性							

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		40		20					60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10		20					30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				10					10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
マーケティングの基礎知識を十分理解している。 マーケティングの基礎知識を活用して、効果的なマーケティング戦略を構想できる。					マーケティングの基礎知識を理解している。 マーケティングの基礎知識を活用して、マーケティング戦略を構想できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス、本講義の進め方や受講上の注意事項 マーケティングを学ぶ意義、マーケティングの全体像	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第2回 /	マーケティングの基礎知識（1） 定義、コンセプト、プロセス	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第3回 /	マーケティングの基礎知識（2） 環境分析、STP、マーケティングミックス 小テスト	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第4回 /	マーケティングの基礎知識（3） 製品戦略	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第5回 /	マーケティングの基礎知識（4） 価格戦略、チャネル・物流戦略	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第6回 /	マーケティングの基礎知識（5） プロモーション戦略	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第7回 /	マーケティングの基礎知識（6） インターネットマーケティング	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第8回 /	マーケティングの基礎知識（7） 経験価値マーケティング	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第9回 /	マーケティング事例演習（1）	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第10回 /	マーケティング事例演習（2） TGU e-Learning システムからレポート（課題）提出	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第11回 /	マーケティング事例演習（3）	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第12回 /	マーケティング事例演習（4）	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第13回 /	マーケティング事例演習（5） TGU e-Learning システムからレポート（課題）提出	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60
第14回 /	マーケティング事例演習（6）	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning システムでのビデオ教材視聴	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SSA33S078S	専門教育科目 関連科目領域	企業と社会 Modern Business Enterprise	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	<p>現代社会においてもっとも重要な組織である企業とは何なのだろうか。企業はさまざまな構造や機能のもとで多くの役割を果たしている。現代企業では、人々のニーズを的確につかみ、これに応える商品をどのように開発し、製造・販売するかが重要であり、そのような知識や取り組みを十分理解しておく必要がある。企業経営の新しいスタイルを市場・社会との関係から考え、企業に求められる役割は何か、どのような取り組みが行われているのかを学ぶ。</p>							
キーワード	株式会社 企業戦略 ステークホルダー グローバリゼーション 製品のライフサイクル ガバナンス コンプライアンス SDGs	学修教育目標	本講義では、企業がどのように発展してきたか、また企業をとりまく社会や環境がどのように変化しているか、そして企業の組織、マネジメント、リーダーシップなどを学び、企業と社会の関係を理解するための基礎知識を身につけることを目標とする。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
授業の前半では、「企業」と「社会」がどのように発展してきたか、また「企業」をとりまく社会や環境がどのように変化してきたか考える。後半では、「企業」の経営戦略・生産形態・組織構造、企業の社会的責任などについて考える。 授業の内容でわからないことは、授業の時や授業以外でもどんどん質問して、解決しておくこと。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
2年次以降の「マーケティング論」・「経営概論」などの理解につながります。 高等学校で学んだ「現代社会」や「政治経済」などの内容を確認しておくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
なし				企業と社会—サステナビリティ時代の経営学（中央経済社） 企業論 第4版（有斐閣アルマ Specialized） よくわかる企業論「第2版」(やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)				
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1)						
①	心理の専門知識を身につける。							
②	心理の分析方法を身につける。							
③	心理カウンセリングの知識を身につける。							
④	心理カウンセリングの技法を身につける。							
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	企業の社会的責任等を学ぶことから、社会人としての必要な基礎的能力について理解できる。					○	
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	企業と社会とは、どのような関係をもっているか理解出来る。					○	
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標 (※2)						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。					○	
	② 働きかけ力							
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。					○	
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。					○	
	② 計画力							
	③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自らの見解/意見を積極的に発言、説明することができる。					○	
	② 傾聴力	他者の見解/意見に積極的に耳を傾け、理解することができる。					○	
	③ 柔軟性							
	④ 状況把握力							
	⑤ 規律性							
	⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観	① 倫理性	コーポレートガバナンス、コンプライアンス等について理解することができる。					○	

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20	20	10				100
評価 の 指標	知識に関する評価		40	20	10					70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10			5				15
	チームワークに関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価				10					10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>企業と社会の発展と、その関係の変化を十分理解している。 企業の戦略・生産形態・組織構造を十分理解している。 企業の役割（ガバナンス、コンプライアンス等）について十分理解している</p>					<p>企業と社会の発展と、その関係の変化を理解している。 企業の戦略・生産形態・組織構造を理解している。 企業の役割を理解している。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	講義・質疑応答 面接授業	予習：30分、復習30分	60
第2回 /	企業とは(1) 企業の目的、企業の種類、企業の歴史	講義・質疑応答 面接授業	予習：30分、復習30分	60
第3回 /	企業とは(2) 会社の種類と特徴、株式会社、組織、業界、系列、ステークホルダー	講義・質疑応答 面接授業	予習：30分、復習30分	60
第4回 /	企業の組織構造 企業の役割（コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス等）	講義・質疑応答 面接授業	予習：30分、復習30分	60
第5回 /	企業をとりまく環境（1） 企業経営とサステナビリティ、企業責任、アカウンタビリティ	講義・質疑応答 面接授業	予習：30分、復習30分	60
第6回 /	企業をとりまく環境（2） 地球環境、CSR、ESG、SDGs、コーズ・リレイテッド・マーケティング コメントシート、グループ演習/発表	講義・質疑応答 面接授業	予習：30分、復習30分	60
第7回 /	戦略的フィランソロピーとウェル・ビーイング	講義・質疑応答 面接授業	予習：30分、復習30分	60
第8回 /	経営戦略 企業経営、サプライチェーン、バリューチェーン	講義・質疑応答 面接授業	予習：30分、復習30分	60
第9回 /	ソーシャル・エンタープライズ ソーシャル・ビジネスとイノベーション 小テスト（振り返り）	講義・質疑応答 面接授業	予習：30分、復習30分	60
第10回 /	製品企画と生産管理 マーケティング、生産情報システム、商品のライフサイクル ワークショップ	講義・質疑応答 面接授業	予習：30分、復習30分	60
第11回 /	生産形態の変化 グローバル生産、組み立て生産、プロセス生産	講義・質疑応答 面接授業	予習：30分、復習30分	60
第12回 /	企業価値と評価	講義・質疑応答 面接授業	予習：30分、復習30分	60
第13回 /	マネジメント・リーダーシップ 方針管理、PDCA、意思決定、直感性、創造性、人材育成	講義・質疑応答 面接授業	予習：30分、復習30分	60
第14回 /	まとめ 企業の目的・歴史から組織構造に至るまで、日本の企業の様々な特徴を整理する コメントシート、グループ演習/発表	講義・質疑応答 面接授業	予習：30分、復習30分	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA32F079S	専門教育科目 関連科目領域	歴史地理学概論 Introduction to Historical Geography	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	人間が生活する環境として「地理」をとらえ、人間と地理の密接な関係について、大学周辺の歴史的な事例をもとにして理解を深めることを目的とする。						
--------	-----------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

キーワード	太子町 竹内街道	学修教育目標	1. 人間が生活する環境としての地理の重要性について理解することができる。 2. 身近な地域について、歴史地理的な視点から関心をもって調べることができる。				
-------	-------------	--------	----------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

面接授業とオンデマンドによる遠隔授業を交互に行う（詳細は第1回目の授業で説明する）。地図（授業で配付するものやネットで検索できるもの）を確認しながら授業の理解を深めていくこと。教材をPDF等の形式で配信するので、インターネット接続可能なPC、iPad、スマートフォン等を準備しておくこと。							
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

歴史関係の授業（「西洋史の探究」「近代史の探究」など）。							
------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

教 科 書				参考書・リザーブブック			
なし				なし			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	心理の専門知識を身につける。						
②	心理の分析方法を身につける。						
③	心理カウンセリングの知識を身につける。						
④	心理カウンセリングの技法を身につける。						
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。						
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	身近な地域に関する地理・歴史・文化について自ら調べ、知識を身につけ、教養を深めることができる。					○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた主題群のなかから自発的に自分のテーマを選び、調べることができる。					○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。					○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。					○
	② 計画力	課題発表ができるように計画的に準備ができる。					◎
	③ 創造力	今回の発表で、新しいこと（考え、研究）を思いつくことができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことがらについて、十分に説明できる。					○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。					○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。					○
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。					○
	⑤ 規律性	発表時に他の発表者に迷惑のかからないよう、発表時間に留意することができる。					○
	⑥ ストレスコントロール力	発表に対する批判的なコメントについて真摯に受け止め、自身の改善すべき点として認識することができる。					○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるることができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		42				13	100
評価 の 指標	知識に関する評価		25		14				3	42
	技能に関する評価								3	3
	応用力に関する評価		10		14				3	27
	チームワークに関する評価								1	1
	関心・意欲に関する評価		10		14				3	27
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
太子町や竹内街道など大学周辺の歴史地理的な事例について授業で理解を深めた内容をもとにして、現地に赴き探索ができる。					太子町や竹内街道など大学周辺の歴史地理的な事例について理解を深めることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	1. 地理学と歴史地理学	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第2回 /	2. 太子町の「生産」①	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第3回 /	太子町の「生産」②	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第4回 /	3. 竹内街道の歴史 古代①	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第5回 /	竹内街道の歴史 古代②	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第6回 /	竹内街道の歴史 古代③	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第7回 /	竹内街道の歴史 古代④	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第8回 /	4. 竹内街道の歴史 中・近世①	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第9回 /	竹内街道の歴史 中・近世②	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第10回 /	竹内街道の歴史 中・近世③	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第11回 /	5. 太子町の宗教景観 ①	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第12回 /	太子町の宗教景観 ②	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。 ・フィールドワークに関わるレポート。	60
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第13回 /	太子町の宗教景観 ③	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第14回 /	6. 私たちの生活と地理	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA31S080S	専門教育科目 関連科目領域	心性の歴史 History of Mentalité	2単位	選 択	講 義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	ひとりひとりの人間は、個別の心を持っている。しかし、別の心のとらえ方もある。ある国や地域、また文化に属している人々は何かしら共通したものの感じ方をしている。また時代によって、ものの感じ方は違っている。そのような「人々の思考様式や感覚」を「心性（マンタリテ：フランス語）」という。この授業ではいくつかの「心性の歴史」をひもとくことによって、人間の心のありようの側面についての理解を深めることを目的とする。	
	キーワード	心性史 恐怖 驚き 笑い

学修教育目標

時代や地域、文化によって、人間の思考の仕方や感覚が異なることもあることが理解できるようになる。

授業科目の概要及び学修上の助言

面接授業とオンデマンドによる遠隔授業を交互に行う（詳細は第1回目の授業で説明する）。「恐怖」「驚き」「笑い」などの心のありようを読み取ることができる資料を読み解きながら、そこに隠されている社会的・文化的・宗教的な意味を考えていく。題材はヨーロッパの歴史のものが中心となる。教材をPDF等の形式で配信するので、インターネット接続可能なPC、iPad、スマートフォン等を準備しておくこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「宗教と文化」「西洋史の探究」「近代史の探究」と関連がある。

教 科 書

参考書・リザーブブック

なし

なし

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	異なる時代や地域の人々の思考様式や感覚を尊重できるようになる。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分なりに判断し、他者に流されず行動できる。	○
	② 働きかけ力	相手を納得させるために、協力することの必然性(意義・理由・内容等)を伝えることができる。	○
	③ 実行力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。	○
	② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。	○
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。	○
	② 傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。	○
	③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる。	○
	⑤ 規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	○

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		42				13	100
評価 の 指標	知識に関する評価		25		14				3	42
	技能に関する評価								3	3
	応用力に関する評価		10		14				3	27
	チームワークに関する評価								1	1
	関心・意欲に関する評価		10		14				3	27
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
授業で学修したことを土台にして、興味関心がある国・文化・時代の心性に関する資料に自らアクセスし、調べて学び、視野を広げ異文化に対する理解を深めることができる。					授業で学修したことから、異なる時代や地域の人々の思考様式や感覚を尊重できるようになる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 心性の歴史とは何か？ 1. 恐れについて (1) 西洋中世における死への恐れ①	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第2回 /	西洋中世における死への恐れ②	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第3回 /	(2) 西洋中世における罪の意識と恐れ①	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第4回 /	西洋中世における罪の意識と恐れ②	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第5回 /	(3) 西洋中世における感染症への恐れ	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第6回 /	(4) 西洋近世における感染症への恐れ	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第7回 /	2. 笑いについて (1) 古代ギリシア・ローマ時代の笑い	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第8回 /	(2) 西洋中世におけるキリスト教と笑い	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第9回 /	(3) 西洋中世における女性と笑い (4) 西洋中世における子どもと笑い	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第10回 /	(5) 西洋中世における老人と笑い (6) 民衆文化と豊かな笑いの世界	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第11回 /	(7) ベルグソンと笑い	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第12回 /	3. 驚きについて (1) 歴史に探る様々な驚き	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第13回 /	(2) 西洋における「驚異」の文化ー古代・中世	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第14回 /	(3) 西洋における「驚異」の文化ー近世	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA33S081S	専門教育科目 関連科目領域	思想の歴史 History of Thought	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>真理あるいは正しさはそれ自体として価値を有し、学問という営為は世界におけるそれらを明るみにすることを目的としています。学問体系において、その最も基礎となるのが哲学や思想という領域であり、それゆえ大学で学んだ者の不可欠な教養として哲学や思想は尊重されてきました。そうした哲学や思想の一端に触れ、教養を深めることが本科目の目的となります。</p>
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

キーワード	真理、実在、認識、観念、思考、人間、自由	学修教育目標	<p>問いに対し哲学的・思想的に向き合い思考できるようになること。 自分の考えを言葉にして伝え、それについて話し合いができるようになること。</p>
-------	----------------------	--------	--------------------------------------------------------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>思想・哲学の諸問題に関する資料を教員が準備し、それに関して受講生が調査・考察・発表・質疑応答を行います。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>思想や哲学に関する積極的な関心と考察意欲</p>

教科書	参考書・リザーブブック
なし	(適宜、指示する)

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	哲学的・思想的な考え方を教養として身につけ、人生に活かすことができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	課題に積極的に取り組むことができる。	△
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力		
	③ 創造力	物事を根底から自由に考えることができる。	△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自己の考えや成果物に関して表現することができる。	△
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		25	30				100
評価 の 指標	知識に関する評価		45		10	20				75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				15	10				25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
物事の哲学的・思想的な捉え方・考え方に親しむことで自らの教養とし、十分に準備されたプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。					物事の哲学的・思想的な捉え方・考え方に積極的に触れ、標準的なプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス	課題研究による授業	課題研究	120
第2回 /	次回以降の準備学修等	課題研究による授業	課題研究	120
第3回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（1）	課題研究による授業	課題研究	120
第4回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（2）	課題研究による授業	課題研究	120
第5回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（3）	課題研究による授業	課題研究	120
第6回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（4）	課題研究による授業	課題研究	120
第7回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（5）	課題研究による授業	課題研究	120
第8回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（6）	課題研究による授業	課題研究	120
第9回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（7）	課題研究による授業	課題研究	120
第10回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（8）	課題研究による授業	課題研究	120
第11回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（9）	課題研究による授業	課題研究	120
第12回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（10）	課題研究による授業	課題研究	120
第13回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（11）	課題研究による授業	課題研究	120
第14回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（12）	課題研究による授業	課題研究	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA31F082S	専門教育科目 関連科目領域	比較文化論 Comparative Culture	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>時代・場所風土・性・職業・社会階層・ライフステージ等、広義の文化を生み出す要素のなかから、特に国という単位によってさまざまに異なる人間の暮らしや考え方を見いきます。他の文化を知ることにより、自らが自明視している常識や感覚や価値観などを改めて見直し相対化することが本科目の目的となります。</p>
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

キーワード	文化、多様性、寛容、多文化共生	学修教育目標	<p>自らを客観視し、他の文化に対する寛容の精神を涵養し、共生の可能性を考えることができるようになること。 自分の考えを言葉にして伝え、それについて話し合いができるようになること。</p>
-------	-----------------	--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>日本とは異なる文化を観察する視点を受講生と教員が話し合い、それに基づき受講生が他国の文化について調査・考察・発表・質疑応答を行います。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>他国の文化に関する積極的な関心および探究意欲</p>

教科書

参考書・リザーブブック

なし	(適宜、指示する)
----	-----------

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	他の文化を理解することを通じて、自己を客観視し相対化することができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	課題に積極的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	課題を完遂するまでのステップを確認できる。	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自己の考えや成果物に関して表現することができる。	○
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		25	30				100
評価 の 指標	知識に関する評価		45		10	20				75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				15	10				25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
他国の文化に接することを通じて自己省察に基づく寛容と共生の精神が深く育まれ、十分に準備されたプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。					他国の文化に接することを通じて文化の多様性を深く認識し、標準的なプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス	課題研究による授業	課題研究	120
第2回 /	次回以降の準備学修等	課題研究による授業	課題研究	120
第3回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（1）	課題研究による授業	課題研究	120
第4回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（2）	課題研究による授業	課題研究	120
第5回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（3）	課題研究による授業	課題研究	120
第6回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（4）	課題研究による授業	課題研究	120
第7回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（5）	課題研究による授業	課題研究	120
第8回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（6）	課題研究による授業	課題研究	120
第9回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（7）	課題研究による授業	課題研究	120
第10回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（8）	課題研究による授業	課題研究	120
第11回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（9）	課題研究による授業	課題研究	120
第12回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（10）	課題研究による授業	課題研究	120
第13回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（11）	課題研究による授業	課題研究	120
第14回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（12）	課題研究による授業	課題研究	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA32S083S	専門教育科目 関連科目領域	宗教と文化 Religion and Culture (Christianity)	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	世界には様々な宗教が存在し、それらの宗教では信仰心をもった人々が多様な宗教的儀礼に参加している。また、現代の世界各地では宗教を原因とした紛争があとをたたず、宗教がこれほど注目されている時代はない。この授業では世界の主な宗教について概観することを通して、人間と宗教、またその二者のあいだから生まれる宗教文化について理解を深めることを目的とする。	
	学修教育目標	文化と宗教に対して、多面的な見方・考え方を身につけることができる。

キーワード 祈り 儀礼 祭り 聖地	学修教育目標 文化と宗教に対して、多面的な見方・考え方を身につけることができる。
-------------------------------	---------------------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

様々な宗教にみられる特徴（祈り、儀礼、祭り、修行、神話、巡礼など）をとりあげて、人間と宗教と文化の関係について理解を深める。面接授業とオンデマンドによる遠隔授業を交互に行う。教材をPDF等の形式で配信するので、インターネット接続可能なPC、iPad、スマートフォン等を準備しておくこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「心性の歴史」「西洋史の探究」と関連がある。

教科書	参考書・リザーブブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	心理の専門知識を身につける。	
②	心理の分析方法を身につける。	
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	宗教と人間、宗教文化と人間の関係についての知識を身につけることができる。 △

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分なりに判断し、他者に流されず行動できる。	○
	② 働きかけ力	相手を納得させるために、協力することの必然性(意義・理由・内容等)を伝えることができる。	○
	③ 実行力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。	○
	② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。	○
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。	○
	② 傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。	○
	③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる。	○
	⑤ 規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	○

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		42				13	100
評価 の 指標	知識に関する評価		25		14				3	42
	技能に関する評価								3	3
	応用力に関する評価		10		14				3	27
	チームワークに関する評価								1	1
	関心・意欲に関する評価		10		14				3	27
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>授業の学修内容を土台にして、身近な宗教事象に関心を持ち、わからないことは自分で調べ理解を深めることができる。また、宗教に対する多角的な見方ができるようになる。</p>					<p>宗教と人間、宗教文化と人間の関係についての知識を身につけることができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	宗教とは何だろう	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第2回 /	祈り—なぜ人は祈るのか	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第3回 /	儀礼—なぜ儀礼があるのか	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第4回 /	祭り—なぜ祭りに熱中するのか① 世界編	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第5回 /	祭り—なぜ祭りに熱中するのか② 日本編	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第6回 /	修行と戒律—なぜ修業が必要なのか	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第7回 /	神話—現代に生きる神話的世界	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第8回 /	死後の世界—人は死んだらどこに行くのか① 天国と地獄	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第9回 /	死後の世界—人は死んだらどこに行くのか② 輪廻ほか	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第10回 /	シャマニズム—神がかりと憑きものの世界	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第11回 /	聖地と巡礼—聖なる旅の目的① 世界編	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第12回 /	聖地と巡礼—聖なる旅の目的② 日本編	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第13回 /	宗教団体の多様性	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第14回 /	現代日本の宗教	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA33F084S	専門教育科目 関連科目領域	人間と思想 Human and Thought	2単位	選 択	講 義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	社会の在り方には自然科学的な正解というものはありません。したがって社会の運営には個人および個人の結合態としての社会がいく思想や価値観が重要になります。その点を人権、倫理、社会的正義といった観点から考えることが本科目の目的となります。	
	人間、社会、人権、正義、法、倫理	学修教育目標 社会的問題に関して社会的正義とは何かを思考できるようになること。 自分の考えを言葉にして伝え、それについて話し合いができるようになること。

授業科目の概要及び学修上の助言

人権や社会的正義に関する講義、および教員が準備した人権や社会的正義にまつわる諸問題の資料に関して受講生が調査・考察・発表・質疑応答を行います。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

社会的問題に関する積極的な関心と考察意欲

教 科 書

参考書・リザーブブック

なし (適宜、指示する)

No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1)
①	心理の専門知識を身につける。	
②	心理の分析方法を身につける。	
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	自由や平等・公正といった市民性の核となる価値観を体現できる。 ○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標 (※2)
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	課題に積極的に取り組むことができる。 △
	② 働きかけ力	
	③ 実行力	
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	
	② 計画力	
	③ 創造力	物事を根底から自由に考えることができる。 △
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自己の考えや成果物に関して表現することができる。 △
	② 傾聴力	
	③ 柔軟性	
	④ 状況把握力	
	⑤ 規律性	
	⑥ ストレスコントロール力	
4. 倫理観	① 倫理性	

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		25	30				100
評価 の 指標	知識に関する評価		45		10	20				75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				15	10				25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>人権や社会的正義の深い理解に基づくシティズンシップが涵養され、十分に準備されたプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。</p>					<p>人権や社会的正義に基づく考え方を理解し、標準的なプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス	課題研究による授業	課題研究	120
第2回 /	人権および社会的正義（序）	課題研究による授業	課題研究	120
第3回 /	人権および社会的正義（1） 受講生による課題発表（1）	課題研究による授業	課題研究	120
第4回 /	人権および社会的正義（2） 受講生による課題発表（2）	課題研究による授業	課題研究	120
第5回 /	人権および社会的正義（3） 受講生による課題発表（3）	課題研究による授業	課題研究	120
第6回 /	人権および社会的正義（4） 受講生による課題発表（4）	課題研究による授業	課題研究	120
第7回 /	人権および社会的正義（5） 受講生による課題発表（5）	課題研究による授業	課題研究	120
第8回 /	人権および社会的正義（6） 受講生による課題発表（6）	課題研究による授業	課題研究	120
第9回 /	人権および社会的正義（7） 受講生による課題発表（7）	課題研究による授業	課題研究	120
第10回 /	人権および社会的正義（8） 受講生による課題発表（8）	課題研究による授業	課題研究	120
第11回 /	人権および社会的正義（9） 受講生による課題発表（9）	課題研究による授業	課題研究	120
第12回 /	人権および社会的正義（10） 受講生による課題発表（10）	課題研究による授業	課題研究	120
第13回 /	人権および社会的正義（11） 受講生による課題発表（11）	課題研究による授業	課題研究	120
第14回 /	人権および社会的正義（12） 受講生による課題発表（12）	課題研究による授業	課題研究	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA32S085S	専門教育科目 関連科目領域	社会福祉論 Social Welfare Theory	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	心理学の隣接領域である社会福祉について、その必要性、機能、役割を学ぶことにより、対人援助に不可欠である多職種連携を図るための基礎を理解する。	
	キーワード	学修教育目標

社会福祉の理念・意義
利用者の権利擁護
社会福祉の制度と実施体系
相談援助

1. 現代社会における社会福祉の意義について理解する。
2. 社会福祉の歴史の変遷について理解する。
3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解し、実践に活用できる。
4. 社会福祉における相談援助の方法について理解し、実践できる。
5. 社会福祉の動向と現代的課題について理解し、実践できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

まず今日の社会福祉の必要性について学ぶ。その上で、社会福祉とは何か（概念）、どのように発展してきたのか（歴史）、大切にしていることは何か（理念）について学修する。その上で、現代社会における社会問題に社会福祉がどのように関わっているのかを、身近なトピックスを取り上げながら具体的に学んでいく。その際、ディスカッションなどのグループワークを適宜取り入れる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

本授業で学ぶ知識を基礎として、方法論である「福祉相談援助」の学修につなげていく。

教 科 書

参考書・リザーブブック

書名：社会福祉への招待
著者名：北川清一 川向雅弘
出版社：ミネルヴァ書房

なし

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	現代社会における社会福祉の意義について理解する。 社会福祉の動向と現代的課題について理解する。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	心理学の隣接領域である社会福祉について学ぶことにより、多職種連携を図るための基礎を理解する。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた主題群のなかから自発的に自分のテーマを選び、調べることができる。	○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55		45					100
評価 の 指標	知識に関する評価		55		30					85
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				15					15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について十分に理解する。 社会福祉の制度や実施体系等について理解し、活用することができる。 社会福祉における相談援助について理解、実践することができる。 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解し、実践することができる。 社会福祉の動向と課題について十分に理解する。</p>					<p>現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 社会福祉における相談援助について理解する。 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 社会福祉の動向と課題について理解する。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 1 社会福祉の概念	面接授業	（予習として）テキスト第1章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	予習 30 復習 30
第2回 /	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 2 社会福祉の理念	面接授業	（予習として）テキスト第2章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第3回 /	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 3 日本の社会福祉のあゆみ	面接授業	（予習として）テキスト第4章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第4回 /	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 3 海外の社会福祉のあゆみ	面接授業	（予習として）テキスト第5章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第5回 /	社会福祉の制度と実施体系 1 社会保障制度と社会福祉	面接授業	（予習として）第4回の授業で指示する。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第6回 /	社会福祉の制度と実施体系 2 社会福祉行財政	面接授業	（予習として）第5回の授業で指示する。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第7回 /	社会福祉の制度と実施体系 3 社会福祉の実施機関と施設 小レポート	面接授業	（予習として）第6回の授業で指示する。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第8回 /	社会福祉における援助 1 社会福祉の対象 小レポート	面接授業	（予習として）テキスト第10章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第9回 /	社会福祉における援助 2 社会福祉の援助 小レポート	面接授業	（予習として）テキスト第9章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第10回 /	社会福祉における援助 3 社会福祉の利用過程 小レポート	面接授業	（予習として）テキスト第7章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第11回 /	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 1 利用者保護の必要性 小レポート	面接授業	（予習として）テキスト第7章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第12回 /	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 2 利用者保護の仕組み	面接授業	（予習として）テキスト第7章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第13回 /	社会福祉の動向と課題 1 現代の貧困問題	面接授業	（予習として）テキスト第6章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第14回 /	社会福祉の動向と課題 2 社会的排除	面接授業	（予習として）テキスト第6章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA33S086S	専門教育科目 関連科目領域	福祉相談援助 Welfare Counseling Assistance	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>心理学の隣接領域である福祉相談援助（ソーシャルワーク）を学ぶことにより、心理学領域、社会福祉領域それぞれの専門職の役割についての理解を深め、有意義な多職種連携を図るための基礎を培う。</p>
----------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------

キ ー ワ ー ド	<p>ソーシャルワークの知識・技術・倫理 自己覚知 他者理解</p>	学 修 教 育 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの知識・技術・倫理について理解する。 2. ソーシャルワークに必要な自己覚知と他者理解の方法を知り、実践に活用できる。 3. ソーシャルワークの固有性について理解する。 4. ソーシャルワーク実践の方法を学び、実践できる。
-----------------------	--------------------------------------------	----------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>相談援助の専門職に不可欠な知識、技術及び倫理について学修する。 相談援助のための面接スキルを習得するため、適宜シングルワーク、ペアワーク、グループワークなどの演習を取り入れる。 必要に応じて、精神保健福祉領域に焦点を当てた講義、演習を行う。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>「社会福祉」の学修内容を理論的基盤とする。</p>

教 科 書	参考書・リザーブブック
<p>書 名：ソーシャルワーク論 著者名：空閑浩人 出版社：ミネルヴァ書房</p>	なし

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	ソーシャルワークに必要な自己覚知と他者理解の方法を知る。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	ソーシャルワークの知識・技術・倫理について理解する。 多職種連携に不可欠なソーシャルワークの固有性について理解する。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力	周囲の人を動かして目標を達成するパワーを持って働きかけている。	○
	③ 実行力	失敗を怖れずに、とにかくやってみようとする果敢さを持って、取り組むことができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	相槌や共感等により、相手に話しやすい状況を作ることができる。	◎
	③ 柔軟性	相手がなぜそのように考えるかを、相手の気持ちになって理解することができる。	◎
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55		45					100
評価 の 指標	知識に関する評価		55		30					85
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				15					15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>ソーシャルワークの知識・技術・倫理について十分に理解する。 ソーシャルワークに必要な自己覚知と他者理解の方法を知り、実践できる。 多職種連携に不可欠なソーシャルワークの固有性について十分に理解する。 ソーシャルワーク実践の方法を学び、実践できる。</p>					<p>ソーシャルワークの知識・技術・倫理について理解する。 ソーシャルワークに必要な自己覚知と他者理解の方法を知る。 多職種連携に不可欠なソーシャルワークの固有性について理解する。 ソーシャルワーク実践の方法を学ぶ。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	相談援助の理論	面接授業	(予習として) テキスト第2章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。	予習 30 復習 30
第2回 /	相談援助の目的	面接授業	(予習として) テキスト第3章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。	同上
第3回 /	相談援助の歴史	面接授業	(予習として) テキスト第6章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。	同上
第4回 /	相談援助の価値と倫理	面接授業	(予習として) 第3回授業で指示する。 (復習として) 実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。	同上
第5回 /	相談援助の機能	面接授業	(予習として) テキスト第4章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。	同上
第6回 /	相談援助の対象	面接授業	(予習として) 第5回授業で指示する。 (復習として) 実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。	同上
第7回 /	ソーシャルワークの体系	面接授業	(予習として) テキスト第7章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。	同上
第8回 /	相談援助における援助関係	面接授業	(予習として) テキスト第9章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。	同上
第9回 /	相談援助の原則	面接授業	(予習として) 第8回授業で指示する。 (復習として) 実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。	同上
第10回 /	相談援助の実践モデル	面接授業	(予習として) 第9回授業で指示する。 (復習として) 実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。	同上
第11回 /	相談援助の実践アプローチ	面接授業	(予習として) 第10回授業で指示する。 (復習として) 実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。	同上
第12回 /	相談援助の展開過程 1	面接授業	(予習として) テキスト第8章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。	同上
第13回 /	相談援助の展開過程 2	面接授業	(予習として) テキスト第8章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。	同上
第14回 /	自己覚知	面接授業	(予習として) テキスト第10章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。	同上

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA33F087S	専門教育科目 関連科目領域	障がい者福祉論 Policy of Persons with Disabilities	2単位	選 択	講 義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	心理学の隣接領域である障がい者福祉について、その理念、思想、歴史、制度政策、支援の実際を学ぶことにより、対人援助に不可欠である多職種連携を図るための基礎を理解する。						
	キーワード	障がい者の権利 ノーマライゼーション	学修教育目標	①障がいの概念を、社会構造との関連において理解する。 ②障がい者の人権に関する思想や当事者運動のあゆみについて理解する。 ③障がい者福祉の理念を理解する。 ④障がい者福祉の施策と支援の実際について理解する。			

授業科目の概要及び学修上の助言

まず「障がい」の概念について社会構造との関係において理解し、障がい観の変遷と障がい者の権利獲得の歴史を学ぶ。その上で今日の障がい者福祉の制度政策を知り、それらの活用の仕方と支援の実際を知るために事例検討を行う。							
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

社会福祉論、福祉相談援助を履修していることが望ましい。							
-----------------------------	--	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

書名：よくわかる障害者福祉 著者名：著者名：小澤 温 出版社：ミネルヴァ書房	なし
----------------------------------------------	----

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	現代社会における障がい者福祉の意義について理解する。 障がい者福祉の理念や思想と現代的課題について理解する。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	心理学の隣接領域である障がい者福祉について学ぶことにより、多職種連携を図るための基礎を理解する。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた主題群のなかから自発的に自分のテーマを選び、調べることができる。	○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55		45					100
評価 の 指標	知識に関する評価		55		30					85
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				15					15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
①障がいの概念を、社会構造との関連において理解し、社会の事象の中に障がい者問題を見出すことができる。 ②障がい者の人権に関する思想や当事者運動のあゆみについて知り、その意義について説明することができる。 ③障がい者福祉の理念を理解し、実践に生かすことができる。 ④障がい者福祉の施策と支援の実際について理解し、実践できる。					①障がいの概念を、社会構造との関連において理解する。 ②障がい者の人権に関する思想や当事者運動のあゆみについて理解する。 ③障がい者福祉の理念を理解する。 ④障がい者福祉の施策と支援の実際について理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	障がい者をどのように理解するか1 障がいの概念	面接授業	（予習として）テキストⅡ-1を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること	予習 30 復習 30
第2回 /	障がい者をどのように理解するか2 障がいの構造的理解	面接授業	（予習として）テキストⅡ-2を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること	予習 30 復習 30
第3回 /	障がい者の人権のあゆみ1 戦前・戦中の障がい者	面接授業	（予習として）テキストⅠ-7を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること	予習 30 復習 30
第4回 /	障がい者の人権のあゆみ2 精神科医療と精神保健福祉のあゆみ	面接授業	（予習として）テキストⅢ-4を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること	予習 30 復習 30
第5回 /	障がい者の人権のあゆみ3 ノーマライゼーション	面接授業	（予習として）テキストⅠ-8を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること	予習 30 復習 30
第6回 /	障がい者の人権のあゆみ4 自立生活運動	面接授業	（予習として）テキストⅤ-1～3を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること	予習 30 復習 30
第7回 /	障がい者の人権のあゆみ5 優生思想	面接授業	（予習として）第6回で指示する。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること	予習 30 復習 30
第8回 /	障がい者の人権のあゆみ6 障害者権利条約	面接授業	（予習として）テキストⅠ-13を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること	予習 30 復習 30
第9回 /	障がい者福祉の施策1 障がい者のくらしと生活ニーズ	面接授業	（予習として）テキストⅤ-7を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること	予習 30 復習 30
第10回 /	障がい者福祉の施策2 支援のための政策・制度	面接授業	（予習として）テキストⅧ-1～2を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること	予習 30 復習 30
第11回 /	障がい者福祉の施策3 ケアマネジメントとサービス利用	面接授業	（予習として）テキストⅣ-3を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること	予習 30 復習 30
第12回 /	障がい者福祉の施策4 障がい者福祉にかかわる専門職	面接授業	（予習として）第11回で指示する。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること	予習 30 復習 30
第13回 /	障がい者と家族に対する支援の実際1 事例検討1. 障がい者に対する支援の実際	面接授業	（予習として）テキストⅥを読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること	予習 30 復習 30
第14回 /	障がい者と家族に対する支援の実際2 事例検討2. 障がい者の家族に対する支援の実際	面接授業	（予習として）第13回で指示する。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること	予習 30 復習 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA33S088S	専門教育科目 関連科目領域	産業・観光特論 Industry and Tourism Special Study	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>発電機工場ではどのようにして発電機が組み立てられているのでしょうか？ 化学会社ではどのように操業しているのでしょうか？ 生きた産業や会社経営を勉強するには教室の授業だけでは十分に理解できません。また近年町おこしのために地域観光の必要性が話題になっていますが、ワインがどうしてできるのか？ 本当の観光資源の現場を見なくては分かったことになりません。</p>
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

キーワード	地域産業、地域観光、南大阪	学修教育目標	<p>実社会の経験が乏しい皆さん方に実社会ではどうなっているのか理解できる。将来・産業や観光関係の仕事に就きたい方にはその基礎知識と実態が把握できる。これらの点について説明できるようになる。</p>
-------	---------------	--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>南河内を中心に地域で会社を営んでいる人びとや、観光に関する活動をしている方々に本学に入学頂き、授業をしてもらい翌週、関連の施設を見学してより深く地域の産業や観光を理解する。学生は休まずに施設見学などには是非参加すること。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>中小企業経営論など経営に関する授業と深く関連するので、経営に関する基礎知識を理解していると、授業がより面白くなると思う。</p>

教科書	参考書・リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	訪問先でよく観察する。外部講師の話をよく聞く。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	会社訪問などに積極的に参加する。	○
	② 働きかけ力	訪問先などで積極的に質問する。	◎
	③ 実行力	課題を発表できる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	与えられた課題を考え抜く。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力	問題点が創造できる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	参加者からの意見も聞く。	○
	③ 柔軟性	工場見学など現地を訪問したときは、先方とのやり取りで柔軟に対応する。	△
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	起立・礼を授業の時に必ず実施する。	△
	⑥ ストレスコントロール力	授業に休まずに出席できる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	経営者の経営姿勢を理解する。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			58						42	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30						15	45
	技能に関する評価								7	7
	応用力に関する評価		10							10
	チームワークに関する評価								10	10
	関心・意欲に関する評価		18						10	28
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
地域産業や観光の専門的な知識をみにつける。					地域産業や観光の標準的な知識をみにつける。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス及び南大阪の産業について	面接授業	予習：南大阪の産業観光 復習：演習課題	予習：30 復習：30
	授業参加態度			
第2回 /	租税について、堺税務署	面接授業	予習：前回の演習課題 復習：税務について	予習：30 復習：30
	授業参加態度			
第3回 /	堺市の産業と観光	面接授業	予習：南大阪の産業と観光 復習：堺市を中心とした歴史	予習：30 復習：30
	授業参加態度			
第4回 /	堺市の観光	オンデマンドによる遠隔授業	予習：古墳時代における仁徳天皇 復習：現地見学内容	予習：30 復習：30
	授業参加態度			
第5回 /	宝石会社運営と寺院運営	面接授業	予習：宝石産業 復習：寺院経営	予習：30 復習：30
	授業参加態度			
第6回 /	河内のワイン産業	面接授業	予習：ワインについて 復習：工場経営	予習：30 復習：30
	授業参加態度			
第7回 /	河内のワイン産業	オンデマンドによる遠隔授業	予習：ワインについて 復習：河内のワイン産業	予習：30 復習：30
	授業参加態度			
第8回 /	富田林市の観光	面接授業	予習：富田林観光 復習：同上	予習：30 復習：30
	授業参加態度			
第9回 /	富田林市の観光 寺内町など	オンデマンドによる遠隔授業	予習：富田林観光 復習：同上	予習：30 復習：30
	授業参加態度			
第10回 /	地域で仕事する	面接授業	予習：田舎での仕事 復習：同上	予習：30 復習：30
	授業参加態度			
第11回 /	化学会社の経営	面接授業	予習：化学工場経営 復習：同上	予習：30 復習：30
	授業参加態度			
第12回 /	日本フッソの経営	オンデマンドによる遠隔授業	予習：化学工場経営 復習：化学工場経営	予習：30 復習：30
	見学会参加態度			
第13回 /	南河内の歴史	面接授業	予習：南河内の歴史 復習：美原区の歴史	予習：30 復習：30
	授業参加態度			
第14回 /	堺市みはら歴史博物館など	オンデマンドによる遠隔授業	予習：美原区の歴史 復習：同上	予習：30 復習：30
	授業参加態度			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA32S089S	専門教育科目 関連科目領域	地域研究 Area Studies for Tourism	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>成熟した日本社会において、地域における位置づけや取り組みは様々になってきています。その中の一つである社寺等を中心とした地域のまちづくりについて取り上げます。地域の暮らしへの共感や地域コミュニティを通じたまちづくりを尊重する着地型観光について学修していきます。</p>	
	キーワード	学修教育目標

まち遺産
着地型観光

学修教育目標

歴史的建造物や郷土文化など、時間の蓄積に価値があるとみなし、文化が集積する「まち」。市民が愛着を深め、手を入れて資産を保存・継承し、文化的経年価値を持続する「まち」。その様な「まち遺産」たるものを考えます。
学生は、地域における「まち遺産」とはどのようなものかを学び、説明することができることを目標とします。

授業科目の概要及び学修上の助言

地域における「まち遺産」について学修します。
「まち遺産」を探しに土曜日または日曜日に大阪市内でフィールドワークを実施します。都心部でありながらも、日常歩くことのない「まち」を資源というまなざしで見ること、違った風景に見えてきます。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「観光マネジメント論」、「観光ビジネス実務論」、「産業・観光特論」、「地域研究」、「歴史地理学概論」、「地域研究フィールドワーク」の理解につながります。
「観光ビジネス実務士」の資格取得要件科目の必須授業科目、社会調査アシスタントの資格取得要件科目の授業科目の1つになっています。

教 科 書

参考書・リザーブブック

なし

なし

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	地域における「まち遺産」について認識する力を身につける。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題に自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中にすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	課題を完成させることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分なりのまち遺産を見つけることができる。	○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことがらについて、十分に説明ができる。	○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	発表時間に留意することができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30	20				100
評価 の 指 標	知識に関する評価		20		10	10				40
	技能に関する評価				10					10
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		30		10	10				50
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に「まち遺産」について理解し、説明することができる。					「まち遺産」について理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション －講義の概要、「まち遺産」について－	講義 面接授業	社会人基礎力事前評価シートの記入 復習：授業内容のまとめ	30
第2回 /	自分のまち調査・研究（1） －地理・大きさ・人口・観光・名産などの調査－ レポート	講義、演習 面接授業	予習：テーマに関する事前学習（情報収集等） 復習：レポートのまとめ	30 60
第3回 /	自分のまち調査・研究（2） －「まち遺産」紹介レポート－ レポート	演習 面接授業	予習：テーマに関する事前学習（情報収集等） 復習：レポートのまとめ	30 60
第4回 /	フィールドワークの心得、観光資源マップ作成方法 ワークシート	講義 面接授業	予習：テーマに関する事前学習（情報収集等） 復習：ワークシートのまとめ	30 30
第5回 /	フィールドワーク事前学習（1）、調査地研究 ワークシート	講義、演習（作業） 面接授業	予習：テーマに関する事前学習（情報収集等） 復習：ワークシートのまとめ	30 30
第6回 /	フィールドワーク事前学習（2）、まち歩き資源シート作成 ワークシート	講義、演習（作業） 面接授業	予習：テーマに関する事前学習（情報収集等） 復習：ワークシートのまとめ	30 30
第7回 /	フィールドワーク（1）	学外調査 面接授業	予習：調査地域の情報収集 60 復習：現地調査のまとめ 60	
第8回 /	プレゼンテーション（1） －プレゼンテーションの手法について－ ワークシート	講義、演習 面接授業	予習：現地調査のまとめ 復習：プレゼンテーション準備	30 30
第9回 /	プレゼンテーション（2） －着地型観光の提案の発表－ プレゼンテーション	演習（プレゼンテーション） 面接授業	予習：プレゼンテーション準備 復習：発表内容のまとめ	60 30
第10回 /	フィードバック（振り返りレポート作成） －着地型観光の可能性を探る－ レポート	講義、演習 面接授業	予習：発表内容（第9回）のまとめ 復習：レポートのまとめ	30 30
第11回 /	フィールドワーク（2）	学外調査 面接授業	予習：調査地域の情報収集 60 復習：現地調査のまとめ 60	
第12回 /	フィールドワーク（2）	学外調査 面接授業	予習：調査地域の情報収集 60 復習：現地調査のまとめ 60	
第13回 /	フィードバック（振り返りレポートの作成） －着地型観光の企画提案－ レポート	講義、演習 面接授業	予習：現地調査のまとめ 復習：プレゼンテーション準備	
第14回 /	プレゼンテーション（3） －「まち遺産」を活用した着地型観光の発表－ プレゼンテーション	演習（プレゼンテーション） 面接授業	社会人基礎力事後評価シートの記入 復習：授業内容のまとめ	30 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA33S090S	専門教育科目 関連科目領域	地域研究フィールドワーク Area Studies with a Fieldwork for Tourism	2単位	選 択	実 習	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>観光は地域経済にとって重要な産業のひとつになりつつあり。そのため、観光産業は旅行会社などの民間企業だけでなく、国や地方行政にとっても人材育成をしていくことが求められています。近畿圏の観光地や文化を調べるとともに、実際に観光地を訪れ、フィールド調査をすることで各地域の文化を体得していくことを目的とします。</p>	
	キーワード	学修教育目標

地域資源
観光プランニング
まちづくり

学生は、観光地域の特徴を知るとともに、観光地形成のありかたの基礎となる「地域資源」の発掘をしていく過程を学びます。その中で、学生は観光プランニングや地域のまちづくりに貢献できる企画を作成していくことで、「地域資源」についての知識・理解をより深く身につけることができることを目標とします。

授業科目の概要及び学修上の助言

観光資源ともなる「地域資源」について学修します。
フィールドワークを通じて、実際に観光地を訪れ、「地域資源」について学びます。尚、フィールドワークは土曜日または日曜日に実施します。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「観光マネジメント論」、「観光ビジネス実務論」、「産業・観光特論」、「地域研究」、「歴史地理学概論」、「地域研究フィールドワーク」の理解につながります。
「観光ビジネス実務士」の資格取得要件科目の必須授業科目、社会調査アシスタントの資格取得要件科目の授業科目の1つになっています。

教 科 書

参考書・リザーブブック

なし

なし

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	観光資源となり得る「地域資源」を認識し、まちづくりに貢献できる知識と技能を身につける。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中にすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	課題を完成させることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	独自の観光プランニングをつくることできる。	○
	② 計画力	課題発表ができるように計画的に準備ができる。	○
	③ 創造力	発表をする、発表を聞くことで、新しいアイデアを思いつく。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことがらについて、十分に説明できる。	◎
	② 傾聴力	他の人の発表を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性	発表者が前向きに、かつ理解しやすいようにコメントすることができる。	○
	④ 状況把握力	フィールドワークにおいて、参加者に迷惑がかからないよう行動できる。	○
	⑤ 規律性	発表時間に留意することができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	発表に対する批判的なコメントについて真摯に受け止め、自身の改善すべき点として認識できる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合					40	40	20			100
評価 の 指標	知識に関する評価				10	10				20
	技能に関する評価				30	10	10			50
	応用力に関する評価					20	10			30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に「地域資源」についての知識を修得し、観光プランニングができ、その観光プランニングが多くの学生の支持をえることができる。					「地域資源」についての知識を修得し、観光プランニングができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 講義の概要、地域研究について	講義、演習 面接授業	社会人基礎力事前自己評価シートの記入 復習：授業内容のまとめ	30
第2回 /	旅行パンフレットの見方 レポート	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
第3回 /	旅行雑誌の見方 レポート	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
第4回 /	フィールドワーク（1）	学外調査 面接授業	復習：現地調査のまとめ 60 予習：調査地域の情報収集 60	
第5回 /	旅行ツアーを企画する －旅行ツアー企画の構成について－ レポート	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
第6回 /	プレゼンテーション（1） －旅行ツアー企画を魅力的にみせるには－ レポート	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
第7回 /	プレゼンテーション（2） －旅行ツアー企画の発表－ 成果発表	演習（発表） 面接授業	授業内容の復習と課題	60
第8回 /	フィールドワーク（2）	学外調査 面接授業	復習：現地調査のまとめ 60 予習：調査地域の情報収集 60	
第9回 /	フィードバック（旅行ツアー企画の振り返り） －フィールドワークを実施して－ レポート	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	30
第10回 /	プレゼンテーション（3） －旅行ツアー企画の再提案－ 成果発表	演習（プレゼンテーション） 面接授業	授業内容の復習と課題	30
第11回 /	フィールドワーク（3） （1日旅行ツアー体験）	学外調査 面接授業	復習：現地調査のまとめ 60 予習：調査地域の情報収集 60	
第12回 /	フィールドワーク（3） （1日旅行ツアー体験）	学外調査 面接授業	復習：現地調査のまとめ 60 予習：調査地域の情報収集 60	
第13回 /	フィードバック（旅行ツアー企画を広報する） －フィールドワークを実施して－ レポート	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
第14回 /	宣伝用ポスターの制作と発表 成果発表、作品	演習（プレゼンテーション） 面接授業	社会人基礎力事後評価シートの記入 授業内容の復習と課題	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA33F091S	専門教育科目 関連科目領域	福祉住環境論 Theory of Coordinating Environment for Tourism	2単位	選 択	講 義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	高齢者・障がい者が自立した生活を送れる住まい環境の学修をします。高齢者・障がい者の心身の特性を理解し、高齢者・障がい者にとっての適切な住まいを認識できることを目的とします。	
	キーワード	学修教育目標

高齢者・障がい者
住まい環境
福祉住環境コーディネーター

学生は、高齢者・障がい者にとって使いやすい住まい環境について、医療・福祉・建築について体系的で幅広い知識を学修します。さらに福祉住環境コーディネーター資格に対応し、特に住環境を中心に高齢者・障がい者の住まい環境をより深く理解できることを目標とします。

授業科目の概要及び学修上の助言

高齢者・障がい者に対する福祉住環境整備には様々な知識が必要である。その基礎知識をこの授業において学修をしていきます。講義だけでなく演習をまじえて、知識の定着をはかっていきます。身近な高齢者・障がい者の理解ができることで、正しい知識で高齢者・障がい者の対応ができることを期待しています。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「福祉心理学」、「介護概論」、「福祉相談援助」、「障がい福祉論」の理解につながります。

教科書

参考書・リザーブブック

書 名：福祉住環境コーディネーター速習レッスン
著者名：ユーキャン福祉住環境コーディネーター試験研究会
出版社：

なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	心理の専門知識を身につける。	
②	心理の分析方法を身につける。	
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	高齢者・障がい者の心身の特性についての知識を身につける。 ◎
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。 ◎
	② 働きかけ力	授業中にすすんで質問することができる。 ○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。 ○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	
	② 計画力	
	③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。 ○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	
	② 傾聴力	
	③ 柔軟性	
	④ 状況把握力	
	⑤ 規律性	
	⑥ ストレスコントロール力	
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。 ◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30						20	50
	技能に関する評価		20						10	30
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								20	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に高齢者・障がい者の福祉住環境整備の基本技術を理解し、説明することができる。					高齢者・障がい者の福祉住環境整備の基本技術を理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1章 暮らしやすい生活環境をめざして (1)	講義、演習 オンデマンドによる遠隔授業	社会人基礎力事前自己評価シートの記入 授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第2回 /	第1章 暮らしやすい生活環境をめざして (2)	講義、演習 オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第3回 /	第2章 自立生活を支援する制度と方策 (1)	講義、演習 オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第4回 /	第2章 自立生活を支援する制度と方策 (2)	講義、演習 オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第5回 /	第3章 ユニバーサルデザイン共用品と福祉用具 (1)	講義、演習 オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第6回 /	第3章 ユニバーサルデザイン共用品と福祉用具 (2)	講義、演習 オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第7回 /	第3章 ユニバーサルデザイン共用品と福祉用具 (3)	講義、演習 オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第8回 /	第4章 安全・安心・快適な住まいづくり (1)	講義、演習 オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第9回 /	第4章 安全・安心・快適な住まいづくり (2)	講義、演習 オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第10回 /	第4章 安全・安心・快適な住まいづくり (3)	講義、演習 オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第11回 /	第4章 安全・安心・快適な住まいづくり (4)	講義、演習 オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第12回 /	第5章 安心して暮らせるまちづくり (1)	講義、演習 オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第13回 /	第5章 安心して暮らせるまちづくり (2)	講義、演習 オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第14回 /	第5章 安心して暮らせるまちづくり (3)	講義、演習 オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA31F092S	専門教育科目 関連科目領域	観光概論 Introduction to Tourism	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>日本は、観光立国の実現に向け平成 20（2008）年に国土交通省の外局に観光庁を設置しました。観光は、飲食や購買、宿泊などの様々な経済活動を伴い、幅広い産業の分野に影響をあたえます。この講義では、初めて観光学にふれる学生を対象に観光学の基礎を学びます。観光の社会的役割、観光と社会との関わりについて理解することを目的とする。</p>	
	<p>観光立国 日本遺産 世界遺産</p>	<p>学修教育目標</p> <p>学生は、日本の観光地や世界遺産、日本遺産など、有名な観光地についての知識を習得するとともに、観光が社会に及ぼす影響などを学び、そして理解することを目標とする。</p>

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>観光に関する基本的な言葉や専門用語を学びます。毎回の授業では、グループワーク、グループ内でのプレゼンテーションをしてもらい、観光に関する興味関心を持ってもらうようにしていきます。世界遺産や日本遺産などを中心とした有名な観光地は覚えてくれることを望みます。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「観光マネジメント論」、「観光ビジネス実務論」、「産業・観光特論」、「地域研究」、「歴史地理学概論」、「地域研究フィールドワーク」の理解につながります。「観光ビジネス実務士」の資格取得要件科目の必須授業科目になっています。

教 科 書

参考書・リザーブブック

なし	なし
----	----

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	心理の専門知識を身につける。	
②	心理の分析方法を身につける。	
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	観光に関する項目について基礎的な知識を身につける。 ◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。 ◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。 ◎
	③ 実行力	課題を完成させることができる。 ◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	
	② 計画力	課題発表ができるように計画的に準備ができる。 ◎
	③ 創造力	今回の発表で、よい発表の仕方を思いつくことができる。 ○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べた課題について、十分に説明ができる。 ◎
	② 傾聴力	グループでの発表について、十分な意見が言えるように傾聴することができる。 ○
	③ 柔軟性	自分の価値観とは違う意見を受け入れることができる。 ○
	④ 状況把握力	
	⑤ 規律性	発表時間に留意することができる。 ○
	⑥ ストレスコントロール力	
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。 ○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30							30
	技能に関する評価								10	10
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20						40	60
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に観光地に関する基礎知識を持つことができ、有名な観光地を知り、説明することができる。					観光地に関する基礎知識をもつことができ、有名な観光地を知った。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション（授業の進め方） 観光立国について	講義 面接授業	社会人基礎力事前自己評価シートの記入 予習：行ってみたい国を調べる。	60
	コメントシート			
第2回 /	日本の観光について 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク 面接授業	予習：世界の世界遺産の中から行ってみたい場所を調べる。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第3回 /	観光の概念 - 「観光」とは - 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク 面接授業	予習：日本の世界遺産の中から行ってみたい場所を調べる。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第4回 /	観光の構成要素 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク 面接授業	予習：北海道地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第5回 /	グループワーク手法について（振り返り） 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク 面接授業	予習：東北地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第6回 /	観光の特色 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク 面接授業	予習：東北地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第7回 /	観光の世界史 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク 面接授業	予習：中部地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第8回 /	観光の日本史 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク 面接授業	予習：中部地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第9回 /	観光の諸制度 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク 面接授業	予習：関東地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第10回 /	観光の影響と効果 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク 面接授業	予習：近畿地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第11回 /	観光と情報 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク 面接授業	予習：中国地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第12回 /	観光と地域社会①（地域社会をとりまく状況） 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク 面接授業	予習：四国地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第13回 /	観光地域社会②（地域主導型観光） 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク 面接授業	予習：九州地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第14回 /	観光行動を成立させるもの 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク 面接授業	予習：今までに調べた観光地について、最も気に入っている観光地について、より詳しく調べ、授業内で発表するための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA32F101S	専門教育科目 関連科目領域	観光ビジネス実務論 Lectures on Business Practices of Tourism	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	この講義では、旅行業、ホテル旅館業、航空輸送業や観光周辺産業を総合的に取り上げて、観光ビジネスの役割や現状を学習する。						
--------	-------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

キーワード	Wholesaler、Retailer、Air only、MICE、BTM、インバウンド、Concierge、Continental Breakfast、温泉手形、Airline alliance、LCC、Tour Conductor、Land Operator	学修教育目標	講義をとおして、観光ビジネスの基礎知識を身につけ、現状の課題についての思考力を高めることができる。				
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------	---------------------------------------------------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

観光の新しい流れや、①旅行業・②ホテル旅館業・③航空輸送業・④観光周辺産業の最新情報や抱える課題などを学びます。観光ビジネスに興味を持ったり進路先にと考えている学生には業界の光と影の両面を学ぶことができます。							
----------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「観光マネジメント論」、「産業・観光特論」、「地域研究」、「歴史地理学概論」、「地域研究フィールドワーク」の理解につながります。「観光ビジネス実務士」の資格取得要件科目の必須授業科目になっています。							
-----------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

教 科 書				参考書・リザーブブック			
レジュメをその都度配布します。				なし			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	心理の専門知識を身につける。						
②	心理の分析方法を身につける。						
③	心理カウンセリングの知識を身につける。						
④	心理カウンセリングの技法を身につける。						
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	観光ビジネスの社会的役割が理解できる。					○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	観光ビジネスの光と影の両面が理解できる。					○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。					○
	② 働きかけ力	授業中にすすんで質問することができる。					○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。					○
	② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。					○
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力						
	② 傾聴力						
	③ 柔軟性						
	④ 状況把握力						
	⑤ 規律性						
	⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。					○

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30						30	60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20						20	40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
観光ビジネスの現状や課題を説明することができ、他人に自分なりの意見を発表することができる。					観光ビジネスの現状や課題について説明ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	はじめに 講義の全体計画、観光ビジネスの役割と現状	講義 面接授業	配布したレジュメの復習	30
第2回 /	観光業の変遷と役割 観光の意義、観光交流と地域文化、観光地づくり	講義 面接授業	配布したレジュメの復習	30
第3回 /	観光の新しい流れ 新しいツーリズム、地域の活性化、宿泊業の変化	講義 面接授業	配布したレジュメの復習	30
第4回 /	旅行業の現状と課題 経営とその特色、旅行商品の特徴、旅行業者の区分、 旅行業の課題、旅行業界の将来	講義 面接授業	配布したレジュメの復習	30
第5回 /	主要旅行業者の実態と戦略 JTB、KNT-CTホールディングス、阪急交通社、 日本旅行、東武トップツアーズ、H. I. S、ジャルパック	講義 面接授業	配布したレジュメの復習	30
第6回 /	旅行業の仕事内容①[セールス・商品造成] アウトセールス、カウンターセールス、提携販売、 商品造成、メディア販売、eビジネス	講義 面接授業	配布したレジュメの復習	30
第7回 /	旅行業の仕事内容②[スタッフ部門、仕事の流れ] 各部門の仕事(スタッフ・仕入れ・海外駐在員など) 仕事の流れ、旅行商品の種類、関連商品	講義 面接授業	配布したレジュメの復習	30
第8回 /	旅行業とIT環境 旅行業者の予約端末、航空会社のDGS、 インターネット販売と旅行商品	講義 面接授業	配布したレジュメの復習	30
第9回 /	ホテル旅館業の現状と課題 宿泊業の現状、温泉観光地の現状	講義 面接授業	配布したレジュメの復習	30
第10回 /	ホテル旅館業の仕事 ホテルマンの仕事、客室の区分、料金体系	講義 面接授業	配布したレジュメの復習	30
第11回 /	航空輸送業の現状と課題 航空輸送業の現状と戦略、航空会社、LCC、航空連合	講義 面接授業	配布したレジュメの復習	30
第12回 /	航空輸送業の実務 2レター、3レター、IATAとTC会議、運賃の種類	講義 面接授業	配布したレジュメの復習	30
第13回 /	観光業のホスピタリティ 修学旅行の添乗業務を通じて、旅行会社のビジネスマナー	ビデオ鑑賞・講義 面接授業	配布したレジュメの復習	30
第14回 /	観光周辺産業と観光関係団体	講義 面接授業	配布したレジュメの復習	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSA32S102S	専門教育科目 関連科目領域	観光マネジメント論 Tourism Management Theory	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	観光は旅行業、宿泊業、輸送業、飲食業などを含む裾野の広い産業であり、その経済効果は極めて大きい。観光振興のためには、観光に関わる企業や地方自治体がそれぞれの活動を効率的・効果的にマネジメントすることが必要になる。	
	キーワード	学修教育目標

まちづくり、地域開発、
人材開発、マーケティング、
マネジメント、

学生は、観光まちづくり、観光人材開発、観光マーケティング、といった視点から、観光マネジメントについて学び、そして理解することを目標とする。

授業科目の概要及び学修上の助言

観光マネジメントに関する基本的な考え方を学びます。毎回の授業ではコメントシートを活用して、学修の定着を進めていきます。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「観光ビジネス実務論」、「産業・観光特論」、「地域研究」、「歴史地理学概論」、「地域研究フィールドワーク」の理解につながります。
「観光ビジネス実務士」の資格取得要件科目の必須授業科目、社会調査アシスタントの資格取得要件科目の必須授業科目になっています。

教科書

参考書・リザーブドブック

なし

なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	観光力が地域活性化に役立つ重要性を理解できる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	地方再生の基礎知識が身につく。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中にすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。	◎
	② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。	○
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の場合で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価 の 指 標	知識に関する評価		30						10	40
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								20	20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20						20	40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
従来の観光地や地域創造のためのマネジメントについて理解できる。					地域の再活性化について事例をもとに説明ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	講義、ワーク 面接授業	授業内容と復習	30
	学修内容についてのコメント			
第2回 /	オールドツーリズム 都市観光の魅力要素とまちづくり	講義、ワーク 面接授業	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第3回 /	ニューツーリズム (1) 「地」と観光としてエコミュージアム	講義、ワーク 面接授業	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第4回 /	ニューツーリズム (2) 宝探しとエコツーリズム	講義、ワーク 面接授業	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第5回 /	ニューツーリズム (3) 見えない宝を探し、創りだすコンテンツツーリズム	講義、ワーク 面接授業	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第6回 /	観光まちづくり (1) 観光地マーケティング	講義、ワーク 面接授業	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第7回 /	観光まちづくり (2) 地域からの観光プロモーション	講義、ワーク 面接授業	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第8回 /	観光まちづくり (3) 観光地のホスピタリティ	講義、ワーク 面接授業	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第9回 /	観光マーケティング (1) 観光マーケティングと地域人材マーケティング	講義、ワーク 面接授業	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第10回 /	観光マーケティング (2) 観光人材の育成	講義、ワーク 面接授業	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第11回 /	持続可能な観光 (1) 持続可能な観光まちづくり	講義、ワーク 面接授業	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第12回 /	持続可能な観光 (2) これからの観光推進組織と体制	講義、ワーク 面接授業	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第13回 /	観光マネジメント (1) 観光マネジメントとまちづくりの計画	講義、ワーク 面接授業	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第14回 /	観光マネジメント (2) 地域創造型観光のマネジメント	講義、ワーク 面接授業	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF31S110S	専門教育科目 キャリア形成領域	表現入門 Introduction to Japanese Expression	2単位	選 択	講 義	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標							
学修教育目的	国際化、情報化時代における国語学習である。学生が日本文化全体を含めた日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につける。高等学校において既に学習しているはずの文字や文章にかかわる項目以外に、口語（音声）表現における敬語等敬語表現などの基本的な知識をも整理復習して、さらにその活用方法を学ぶ。その他、就職活動に不可欠な履歴書・エントリーシートなども扱い、自己を正確に分析する能力をも身につける。						
	キーワード	国語常識	学修教育目標	学生が日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につけることができる。			
授業科目の概要及び学修上の助言							
教科書に沿って逐次問題演習をしていくので、必ず教科書を持参して授業に臨むこと。							
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能							
特になし							
教科書				参考書・リザーブブック			
書 名：キャリアアップ国語表現法 21 訂版 著者名：丸山 顕徳、その他 出版社：嵯峨野書院				なし			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	心理の専門知識を身につける。						
②	心理の分析方法を身につける。						
③	心理カウンセリングの知識を身につける。						
④	心理カウンセリングの技法を身につける。						
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	発信力をつけたり、問題解決能力など社会に必要な基本的な力を養う。					○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につける。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標							
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。					◎
	② 働きかけ力						
	③ 実行力	実際に解答を板書して他者の同意を求める。					◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している。					◎
	② 計画力						
	③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力						
	② 傾聴力	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。					◎
	③ 柔軟性						
	④ 状況把握力						
	⑤ 規律性						
	⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観	① 倫理性	相手の意思決定や権利を守りながら行動することができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59			35			6	100
評価 の 指標	知識に関する評価		40			30				70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		9							9
	チームワークに関する評価								6	6
	関心・意欲に関する評価		10			5				15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
国語常識として必要な殆どすべての知識を身につけることができた。					国語常識としてよく使われる知識については修得できた。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	面接授業・ 授業ガイダンス 就職試験（国語常識）との関係。	面接授業・ 講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第2回 /	教科書の第3課「同訓異義語」の問題	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第3回 /	教科書の第4課「音訓と熟語」の問題	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第4回 /	教科書の第5課「熟語の構造」の問題	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第5回 /	面接授業・第3課、4課、第5課の解答合わせと教科書の第6課「四字熟語」の問題	面接授業・教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第6回 /	教科書の第7課「仮名遣いと送り仮名」の問題	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第7回 /	教科書の第13課「レトリック」の問題	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第8回 /	教科書の第14課「慣用表現の誤用」の問題	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第9回 /	面接授業・第7課、第13課、第14課の解答合わせと教科書の第26課「待遇表現①」の問題	面接授業・教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第10回 /	教科書の第27課「待遇表現②」の問題	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第11回 /	教科書の第28課「接客・電話の対応」の問題	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第12回 /	教科書の第8課「文のしくみ」の問題	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第13回 /	面接授業・第27課、第28課、第8課の解答合わせと第9課「文章構成」の「基本問題」のみ	面接授業・教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第14回 /	面接授業・提出物を確認し、質問を受けプリントの問題をする	面接授業・プリントの問題をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF31F111S	専門教育科目 キャリア形成領域	文章作成法 Japanese Composition	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>国語の表現力を鍛えることは、知性や感性を磨き豊かな日常生活を送るために不可欠である。日本語表現に関する特質を学び、社会人として必要な文章表現能力を涵養する。現代社会における複雑な人間関係の中で積極的であるために、的確な表現力を身に付け、正確に自己の考えを相手に伝達できるコミュニケーション能力を養う。</p> <p>目標として、社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身に付けることを目指す。</p>
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

キーワード	<p>適確な表現力・コミュニケーション能力</p>	学修教育目標	<p>社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身につけることができる。</p>
-------	---------------------------	--------	------------------------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>(概要) 書くことに慣れ、短文を重ねることで長文が書けるようにする。 (助言) 毎時間の学修の復習と、課題作文等に対し継続して取り組むこと。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>(関連) 他教科でのレポート等の課題に取り組む時に、本科目で学習した文章表現力を生かし、短文を重ねて表現することができる。 (予備知識) 要約する力。</p>

教科書	参考書・リザーブブック
<p>書 名：実戦・日本語の技術 著者名：本多勝一 出版社：朝日新聞出版</p>	<p>書 名：大学生のための日本語表現トレーニング 著者名：安部朋世 他 出版社：三省堂</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	社会人として必要な文章表現能力を涵養する。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身に付ける。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	表現したい事柄に自ら気づくことができるようにする。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力		
	③ 創造力	書きたい内容を取材し、どのように構成すればよいのか考えることができるようにする。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	他人が書いた文章の、よさを見つけたり、私ならこう書くという批評的な観点から文章を読んだり、聞いたりすることができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	正確に自己の考えを相手に伝達できるコミュニケーション能力を養うために、助言や指摘をきちんと受け止め、校正することができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20			30			100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	4			6			20
	技能に関する評価		10	4			6			20
	応用力に関する評価		10	4			6			20
	チームワークに関する評価		10	4			6			20
	関心・意欲に関する評価		10	4			6			20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身につけることができた。					受講前と比して、表現力やコミュニケーション能力を高めることができた。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	授業ガイダンス。(事前・社会人基礎力含む) 実際に書いてみる。(実践演習①) 授業のすすめ方と科目の必要性について。現地点での自分自身の文章力を知る。 学修の進め方を理解し、本時の作文課題「私の100長所」について、長所50カ所以上を記述できている。	対面授業 講義と演習(作文)	「自分の長所」をできるだけ多く書き出してくる。 (A4用紙を縦長使用。「私の長所」と題を付けて、学籍番号・名前・授業日を記入し、授業日に持参の上授業終了時に提出。)	30
第2回 /	原稿用紙の使い方。「どう校正するか」という課題を通して基本的な原稿用紙の使用方法について復習する。 演習(作文)を通して正しく原稿用紙が使えている。	対面授業 講義と演習(作文)	テキスト「実戦・日本語の作文技術」 7・欠陥文をどう直すか 復習	30
第3回 /	文章力自己点検(1) 短文の誤りを訂正する 仮名遣い・送り仮名・句読点・文のねじれに着目して訂正できる。	対面授業 講義と演習(作文)	テキスト「実戦・日本語の作文技術」 2・「わかりやすい」ということ 復習	40
第4回 /	文章力自己点検(2) 文章力自己点検 漢字の使い分け・見やすい表記・あいまいな文に着目して訂正できる。	対面授業 講義と演習(作文)	テキスト「実戦・日本語の作文技術」 4・「就職の順序」 復習	40
第5回 /	コミュニケーション能力を磨く 放送局関係者(アナウンサー)の講義に関心を持って参加できる。	対面授業 外部講師による講義	入社試験を想定した自己アピール作文を400字で記述してくる。 (授業日に持参の上授業開始前に提出。)	40
第6回 /	公募作品に挑戦(1) 新聞、雑誌等の公募作品の与えられた課題に取り組もうとする。	対面授業 講義と演習(作文)	TGU e-Learning システムに提示した課題(作文)のプロットを記述してくる。	30
第7回 /	演習I(1) 文章一般 文章を書く時「結論を先に述べる」ことに留意する必要があることが理解できる。	対面授業 講義と演習(作文)	テキスト「実戦・日本語の作文技術」 3・かかる言葉と受ける言葉 復習	30
第8回 /	演習I 学生が教える(1) 予習に基づいて内容を他の学生に伝える(教える)ことができる。	対面授業 演習(教える)と講義	テキスト「実戦・日本語の作文技術」 2・「わかりやすい」ということを元に演習できるよう予習しておく	60
第9回 /	課題別演習II(1) レポート レポートの書き方の要点が理解できる。	対面授業 講義と演習(作文)	参考書「大学生のための日本語表現トレーニング」 ドリル編第21章「レポートの構成」p65~66 予習 (授業日に持参の上授業開始前に提出。)	30
第10回 /	課題別演習II(2) 論文・評論文・エッセイ 論文の書き方の要点が理解できる。	対面授業 講義と演習(作文)	公募作文として600字の「評論文」または「エッセイ」に取り組む。(具体課題は第8回授業日に指示)	40
第11回 /	課題別演習II(3) 説明文・報道文 説明文の書き方の要点が理解できる。	対面授業 講義と演習(作文)	1週間の間の新聞記事の中から1編を選んで、報道文の書き方600字レポート (授業日に持参の上授業終了後に提出。)	40
第12回 /	演習III 敬意を表す表現 敬語の使い方を理解できる。(就職試験にチャレンジ)	対面授業 講義と演習	TGU e-Learning システムに添付した就職試験問題に取り組む。	30
第13回 /	各自作文・小論文の実践演習(実践演習②) 書き直すことによって分かりやすい文章が書ける。	対面授業 講義と演習(作文)	第1回授業で書いた「私の長所」のどこを直したいのか直したい部分に下線を引いて持ってくる。 (授業日に持参の上授業終了後に提出。)	20
第14回 /	(実践演習③-創作-) (事後・社会人基礎力含む) 他人が書いた作品(文章)のよさを見つけることができる。	対面授業 講義と演習(作文)	公募作品の朗読練習をしておく。	10

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF32S103S	専門教育科目 キャリア形成領域	プレゼンテーション演習 Presentation Exercise	1単位	必修	演習	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>情報化の時代になり日常生活においてもビジネス社会においても積極的な自己表現を行う機会が増えてきている。プレゼンテーションとは人（自分自身）を通して聞き手に情報を正確に伝えようとするものである。その方法を具体的に修得するのがこの授業の目的である。</p>						
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

キーワード	説明のプレゼンテーション 自己表現 情報伝達	学修教育目標	この授業ではわかりやすいプレゼンテーションを行うための基本的な態度や能力を身につけることを目標とする。				
-------	------------------------------	--------	-----------------------------------------------------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>プレゼンテーションの意義、目的を明確にした上で、構成作り、話し方の技術、見やすい資料の作り方を学ぶ。また発表内容を相手に効果的に伝えるために口頭表現、身体表現の演習を行う。演習は個人またはグループで発表を行うことが中心となる。</p>							
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>プレゼンテーションを行う全ての授業の基礎となります。コンピュータの基本スキルは必要です。</p>							
-----------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

教科書				参考書・リザーブブック			
なし				なし			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	心理の専門知識を身につける。						
②	心理の分析方法を身につける。						
③	心理カウンセリングの知識を身につける。						
④	心理カウンセリングの技法を身につける。						
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	説明のプレゼンテーションの技法を身につけることができる。					◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。						

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	問題意識を持ち、授業に積極的に参加できる。					◎
	② 働きかけ力	グループワークなど他の学生と協力することができる。					○
	③ 実行力	率先してグループワークに参加できる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力						
	② 計画力						
	③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考えやグループワークの結果を他の学生に説明できる。					◎
	② 傾聴力	他の学生の考えを聞き、理解することができる。					◎
	③ 柔軟性						
	④ 状況把握力	グループワークにおいて周囲の状況を把握して自分の行動をコントロールできる。					○
	⑤ 規律性						
	⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観	① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		30	20			5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		5		5					10
	技能に関する評価		20		5	10				35
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価		10		10	5				25
	関心・意欲に関する評価		10		10	5			5	30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
説明のプレゼンテーションができるだけでなく、グループワークにおいては周囲の状況に配慮して他の学生と協力することができる。					説明のプレゼンテーションを行い、伝えるべき情報を的確に伝えることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション（プレゼンテーションの意義と目的、授業の流れ、グループ分け） プレゼンテーションとは何か。その意義と必要性を明確にし、授業の流れを説明する。 課題	講義と実習（面接授業）※ ※すべての回において面接授業を基本としますが、受講人数や感染状況で課題提出となる場合があります。	課題の完成と Word の基本操作の復習	60
第2回 /	自己紹介のプレゼンテーション 実際にプレゼンテーションを行ってみる。まずは自己紹介から。 発表と課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成と前回の課題のやり直し	60
第3回 /	テーマの選び方 効果的なストーリー作りを演習を通して行い、テーマに関して自分の考えをまとめる。 発表と課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成と前回の課題のやり直し	60
第4回 /	構成づくりーマインドマップの作り方ー プレゼンテーションの骨格となる構成づくりについて、与えられた課題と情報から実際に組み立てる過程を実習する。 課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成	60
第5回 /	構成づくりーマインドマップを使ってみるー プレゼンテーションの骨格となる構成づくりについて、与えられた課題と情報から実際に組み立てる過程を実習する。 グループワークと課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成	60
第6回 /	言語表現（言葉の使い方と言いまわし）と非言語表現（発表に必要な言語以外の要素）ー構成の完成度と言葉の関係ー プレゼンテーションでは内容と同時に伝え方、すなわち表現技術も重要である。言語表現、非言語表現を中心に話し方の技術を演習する。 課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成	60
第7回 /	言語表現（言葉の使い方と言いまわし）と非言語表現（発表に必要な言語以外の要素）ー敬語についてー プレゼンテーションでは内容と同時に伝え方、すなわち表現技術も重要である。言語表現、非言語表現を中心に話し方の技術を演習する。 課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成	60
第8回 /	言語表現（言葉の使い方と言いまわし）と非言語表現（発表に必要な言語以外の要素）ーうまく伝えるにはー プレゼンテーションでは内容と同時に伝え方、すなわち表現技術も重要である。言語表現、非言語表現を中心に話し方の技術を演習する。 発表と課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成	60
第9回 /	発表のための環境（効果的な発表を行うための環境） 態度、身振り以外の要素である服装や環境について効果的な方法を探る。 課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成	60
第10回 /	資料の作り方（コンピュータを用いた資料作成）ー初級編ー Power Point を用いて発表資料作成を行う。 発表と課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成	60
第11回 /	資料の作り方（コンピュータを用いた資料作成）ー中級編ー Power Point を用いて発表資料作成を行う。 発表と課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成	60
第12回 /	資料の作り方（コンピュータを用いた資料作成）ー応用編ー Power Point を用いて発表資料作成を行う。 発表と課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成	60
第13回 /	総合演習（説明のプレゼンテーション実習）ー発表準備ー 与えられた課題を他のグループにわかりやすく説明するプレゼンテーションを行う。 課題	実習（面接授業）※	課題の完成	60
第14回 /	総合演習（説得のプレゼンテーション実習）ー発表と振り返りー バーチャル・フリーマーケットを行い、説得型のプレゼンテーションを行う。 発表と課題	実習（面接授業）※	課題の完成	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF32S112S	専門教育科目 キャリア形成領域	介護概論 Introduction to Care	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	教員資格を目指すにあたり、事前課題である「介護等体験」を理解し現場での実習をスムーズに実施できることを主目的とする。社会福祉施設や特別支援学校における支援内容・方法について考え、演習を通して、教育者に必要な姿勢や考え方を養う。本講義では、高齢者介護の知識や介護技術を中心に介護体験がより良く行えるよう、また、実習の意義や必要性についての理解を深める。	
	キーワード 高齢者介護 利用者理解 実習の意義 実習態度	学修教育目標 社会福祉施設および特別支援学校における介護等体験の意義や体験内容を理解し、実習にあたっての自身の心構えや学びたい目標を事前に準備をすることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

介護等体験で関わる高齢者や障害のある人について、置かれた状況や必要とする支援内容、また、日常生活を営む上で、その人の有する能力を活用し、その人らしい生活を営めるよう支援するための原理原則について、講義、ワークを通じて基礎知識の習得と定着をはかる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

新聞および各種メディアの報道に関心を持ち、特に福祉・介護等生活領域での問題やトピックスを理解するよう心がける。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：改訂 人にやさしい介護技術 著者名：野村 敬子 編著 出版社：中央法規	単元ごとにレジュメと参考資料を配布します。
----------------------------------------------	-----------------------

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	高齢や障害を持って生活する上での本人や家族の心理を理解することが出来る。	○
②	心理の分析方法を身につける。	人の感覚や知覚、認知が“こころ”に及ぼす影響を考え、対人援助を行う上での心理の分析方法と関連させることが出来る。	○
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	高齢や障害を持って生活する中での本人や家族の思いに実践的に対応できる知識を学ぶことが出来る。	○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	自己理解・他者理解を行う事ができ、相手の気持ちを理解し、自分の思いを的確に伝えることの意義を理解できる。	○
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	介護を必要とする人の生活のしづらさを理解し、相手の立場に立って必要な支援を考えることができる。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	介護現場で求められるコミュニケーション能力が及ぼす影響を学び、相手の気持ちを理解するための力を養う。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。	○
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。	○
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。	○
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手の話をしっかり聴き、思いや願いを理解することができる。	○
	③ 柔軟性	その場の状況に合わせた援助方法を選択し、実施できる。	○
	④ 状況把握力	冷静かつ客観的に必要な情報を収集することができる。	○
	⑤ 規律性	ルールを守り与えられた役割について責任をもって遂行することができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。	△
4. 倫理観	① 倫理性	いかなる状況であっても人としての尊厳をまもり、援助者として必要な態度をとることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	20	20				100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	10	20	20				100
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
支援を必要とする人の立場に立ち、その人の思いや希望に沿った支援が実施できる。					支援を必要とする人の思いや希望を理解し、必要とされる支援について考えることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	介護概論を学ぶ意義1 オリエンテーション 自己紹介、授業の目標、授業の進め方、介護を学ぶ必要性	講義・対面授業	テキストに目を通しておく。	30
第2回 /	介護を支える制度	講義およびグループワーク 対面授業	介護保険制度・社会保障の概要について調べておく。	60
第3回 /	介護の場と特性(在宅と施設)	講義・対面授業	高齢者介護において、地域に住みながら利用できるサービスにはどのようなものがあるか調べておく。	60
第4回 /	対人援助におけるコミュニケーションの技法 コミュニケーションの重要性、言語的・非言語的コミュニケーション、傾聴と共感 ミニテスト	講義および演習、グループワーク 対面授業	日常生活において、家族や友人等、人間関係で困ったことや悩んだことの経験を各自でまとめておく。	60
第5回 /	介護を必要とする人の理解 身体に障害を有する人の理解、認知症の人の理解 ミニテスト	講義・対面授業	認知症の種類とそれぞれの症状について、各自で調べておく。	60
第6回 /	視覚障害のある人の手引き歩行	講義および演習・対面授業	視覚障害のある人が生活するとはどういう事かどのような環境が求められるかをまとめておく。	60
第7回 /	基本的介護技法1 移乗・移動の介護、車いすの基本的操作 ミニテスト	講義および演習、グループワーク 対面授業	課題レポート 車いすで学内を移動、その体験を通じて気づいたことや、介助者が配慮すべき点等をまとめる。	60
第8回 /	関連職種との連携、チームケアの必要性	講義・対面授業	介護領域で関連する職種について、名称と主な業務について調べておく。	30
第9回 /	アンガーマネジメント、アサーション、セルフケア	講義・対面授業	自身がコミュニケーションを図る際に気を付けていることについて振り返りまとめておく。介護を必要とする人の具体的な支援を総括し、パワーポイントにまとめる準備をしておく。	60
第10回 /	基本的介護技法2 衣類の着脱の介護 ミニテスト	講義および演習、グループワーク 対面授業	骨折やけがなどで通常行っている着替えができなくなったとき、自分ならどうするか（どうしてほしいか）まとめておく。	60
第11回 /	基本的介護技法3 食事の介護方法 ミニテスト	講義および演習、グループワーク 対面授業	自身の食事に関するこだわりや食事習慣についてまとめておく。	60
第12回 /	基本的介護技法4 排泄の介護 ミニレポート	講義および演習、グループワーク 対面授業	排泄に対する援助を必要とする人の気持ちや援助の留意点についてまとめる。	60
第13回 /	介護者への支援・虐待防止、介護を必要とする人の支援・まとめ	講義およびグループワーク 対面授業	「虐待」についての事件や関連のある出来事について、各自で調べてまとめておく。（高齢者分野以外でもよい。）介護を必要とする人の具体的な支援を総括し、パワーポイントにまとめる準備をしておく。	60
第14回 /	介護現場で働く人の心構えと求められるニーズ ミニレポート	講義および演習、グループワーク 対面授業	介護現場で働く人の心構えを理解し、そこで働く者には、どのようなニーズが求められているかを理解する。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF31S114S	専門教育科目 キャリア形成領域	ボランティア実習 Volunteer Training	2単位	選 択	実 習	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標							
学修教育目的	ボランティア実習は、学生自身がボランティア活動を通して社会と関わる中で、積極的に福祉活動に従事し、様々な福祉問題に前向きに取り組もうとするボランティア精神を身につけることを目的とする。						
	キーワード	ボランティア	学修教育目標	ボランティア活動に参加し、ボランティアについて理解することができる。 社会での活動を通じて、大学で学ぶ専門的な知識や技術をより実践的に修得し、社会人基礎力におけるそれぞれの能力要素を伸ばすことができる。			
授業科目の概要及び学修上の助言							
ボランティア活動に参加する。安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持って活動に参加し、責任をもってやり遂げること。							
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能							
特になし。							
教 科 書				参考書・リザーブブック			
なし				なし			
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）					
①	心理の専門知識を身につける。						
②	心理の分析方法を身につける。						
③	心理カウンセリングの知識を身につける。						
④	心理カウンセリングの技法を身につける。						
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	責任を持ってやり遂げることができる。				◎	
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	さまざまな問題に対し、解決方法を考えて取り組むことができる。				○	
授業科目における社会人基礎力の育成目標							
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。				◎	
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。				○	
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。				○	
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。				△	
	② 計画力	実行計画をたてることができる。				△	
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。				△	
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。				○	
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。				◎	
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。				◎	
	④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。				○	
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、その場の約束事を守って行動できる。				○	
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。				○	
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。				◎	

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
実習先の状況を理解して適切な行動をとることができる。					実習先で適切な行動をとることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	事前指導（オリエンテーション）		実習先へボランティア実習の受け入れについて依頼する	60
第2回 /	実習（1）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第3回 /	実習（2）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第4回 /	実習（3）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第5回 /	実習（4）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第6回 /	実習（5）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第7回 /	実習（6）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第8回 /	実習（7）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第9回 /	実習（8）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第10回 /	実習（9）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第11回 /	実習（10）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第12回 /	実習（11）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第13回 /	実習（12）（実習先での活動） 総実習時間：45時間 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第14回 /	事後指導		事後レポートの作成、活動日誌のまとめ	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF32S115S	専門教育科目 キャリア形成領域	インターンシップ（学校） Internship (School)	2単位	選 択	実 習	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	学校現場での就業体験により、卒業後を見据えた将来像をより明確にすることができる。	
	キーワード 就業体験 学校	学修教育目標 教育現場の実際を経験し、取り組まなくてはならない課題を明確にすることができる。 教育現場で必要とされる社会人基礎力を身に付ける。

授業科目の概要及び学修上の助言

高等学校・中学校・小学校・幼稚園・保育所等での就業体験を行う。 安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持ち、教育する側に立っているという自覚をもって参加すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

実習先の特性をよく理解しておくこと。

教 科 書

参考書・リザーブブック

なし	なし
----	----

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	実習先でふさわしい態度・行動をとることができる。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	実習先での課題を明確にし解決策を導くことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	実行計画をたてることができる。	○
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	○
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、その場の約束事を守って行動できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価の指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
実習先の状況を理解して、積極的に課題解決に取り組むことができる。					実習先の状況を把握して、ふさわしい行動をとることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /				
	詳細は各インターンシップのオリエンテーション等で説明する。			
第2回 /				
第3回 /				
第4回 /				
第5回 /				
第6回 /				
第7回 /				
第8回 /				
第9回 /				
第10回 /				
第11回 /				
第12回 /				
第13回 /				
第14回 /				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF32S116S	専門教育科目 キャリア形成領域	インターンシップ（企業） Internship (Business Enterprise)	2単位	選 択	実 習	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	企業等での就業体験を行い、明確な職業意識と倫理観をもった職業人の育成と学外を含めた幅広い人間関係の醸成を図る。	
	キーワード	就業体験 企業

学修教育目標

企業等の実際を経験し、取り組まなくてはならない課題を明確にすることができる。
社会で必要とされる社会人基礎力を身に付ける。

授業科目の概要及び学修上の助言

企業での就業体験に参加する。
安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持ち、自覚をもって参加すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

実習先の特性をよく理解しておくこと。

教 科 書

参考書・リザーブブック

なし

なし

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	実習先でふさわしい態度・行動をとることができる。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	実習先での課題を明確にし解決策を導くことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	実行計画をたてることができる。	○
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	○
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、その場の約束事を守って行動できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
実習先の状況を理解して、積極的に課題解決に取り組むことができる。					実習先の状況を把握して、ふさわしい行動をとることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /				
	詳細は各インターンシップのオリエンテーション等で説明する。			
第2回 /				
第3回 /				
第4回 /				
第5回 /				
第6回 /				
第7回 /				
第8回 /				
第9回 /				
第10回 /				
第11回 /				
第12回 /				
第13回 /				
第14回 /				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF32S117S	専門教育科目 キャリア形成領域	インターンシップ（コーオプ） Internship (Part-time Job)	2単位	選 択	実 習	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	自己の職業適性を考え卒業後の職業選択の一助とするために、職種・業種を考慮に入れて就業先を選択し、実習を行う。	
	キーワード 就業体験 コーオプ	学修教育目標 自己の将来を見据えた職業選択ができる。 社会で必要とされる社会人基礎力を身に付ける。

授業科目の概要及び学修上の助言

自己の職業適性を考え卒業後の職業選択の一助とするために、職種・業種を考慮に入れて就業先を選択し、実習を行う。
安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持ち、就労に対する対価を受け取っているという自覚をもって参加すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

実習先の特性をよく理解しておくこと。

教科書

なし

参考書・リザーブブック

なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	実習先でふさわしい態度・行動をとることができる。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	実習先での課題を明確にし解決策を導くことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	実行計画をたてることができる。	○
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	○
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、その場の約束事を守って行動できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価の指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
実習先の状況を理解して、積極的に課題解決に取り組むことができる。					実習先の状況を把握して、ふさわしい行動をとることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /				
	詳細は各インターンシップのオリエンテーション等で説明する。			
第2回 /				
第3回 /				
第4回 /				
第5回 /				
第6回 /				
第7回 /				
第8回 /				
第9回 /				
第10回 /				
第11回 /				
第12回 /				
第13回 /				
第14回 /				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S093S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修A Global Study A	1単位	選 択	実 習	1～4年次	春学期 ・秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>グローバル化時代の中で特に文化面に特化したプログラムを中心に考える。① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティをもう一段深めること、② 真の日本文化への造詣を深めつつ異文化を理解し、日本文化の特徴などをプレゼンテーションするための諸能力を高めることを目的とする。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などを体験学習し、研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得ることを目的とする。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。</p> <p>他方、現地での研修では、事前研修までの学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p>
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

キーワード	異文化理解 プレゼンテーション能力	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現地の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。 ・状況に応じて、的確に判断し行動することができる。 ・事後研修で、成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。
-------	-------------------	--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。
研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし。

教科書

別途、教員から指示する。

参考書・リザーブブック

なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指 標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成	30
				60
第2回 /	グローバル研修（1） ―研修先での体験学習（第1日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第3回 /	グローバル研修（2） ―研修先での体験学習（第2日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第4回 /	グローバル研修（3） ―研修先での体験学習（第3日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第5回 /	グローバル研修（4） ―研修先での体験学習（第4日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第6回 /	グローバル研修（5） ―研修先での体験学習（第5日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第7回 /	第7日 事後学修 ―グローバル研修の振り返り― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②報告書の作成	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30
	グループワーク			60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S094S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修B Global Study B	2単位	選 択	実 習	1～4年次	春学期 ・秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>グローバル研修Aよりも長期間のプログラムにより体験学修をより充実し、グローバル化時代の中で特に文化面において、① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティを深める、②日本文化の造詣を深めることで異文化を理解し、自国文化をプレゼンテーションすることで諸能力を高める。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などの学修を通して、研修地の実情や状況について様々な体験をすることで、生きた知識を学び取る機会を得ることを目的とする。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。</p> <p>体験学修については、学生が主体的に企画・運営し、グループワークを行うことにより、コミュニケーション力、協調性、自主性、問題解決力、規律性や倫理観といった将来社会人として備えるべき能力を育成する。</p>
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

キーワード	異文化理解 プレゼンテーション力	学修教育目標	<p>他国（様々な地域）の文化・社会を理解することで、自国の文化を再認識あるいは新たな視野で認識できる知識を身につける。</p> <p>体験研修を通して①国・地域色などを反映した文化・歴史等について深く知ることができる。②培った感性や知識を他者に的確に伝えることができる。</p>
-------	------------------	--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>研修地の特性をよく理解しておくこと。</p>

教科書	参考書・リザーブブック
<p>別途、教員から指示する。</p>	<p>なし</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指 標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成	30
				60
第2回 /	第2日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第1日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第3回 /	第3日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第2日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第4回 /	第4日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第3日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第5回 /	第5日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第4日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第6回 /	第6日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第5日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第7回 /	第7日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第6日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第8回 /	第8日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第7日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第9回 /	第9日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第8日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第10回 /	第10日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第9日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第11回 /	第11日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第10日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第12回 /	第12日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第11日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第13回 /	第13日 事後学修（1）―グローバル研修の振り返り（1）― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成	演習	事後レポート作成 発表準備	30
	グループワーク			60
第14回 /	第14日 事後学修（2）―グローバル研修の振り返り（2）― グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30
	発表			60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S095S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修C Global Study C	4単位	選 択	実 習	1～4年次	春学期 ・秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>長期の体験学修を通して、グローバル化時代の中で、言語コミュニケーションの醸成、異文化への深い理解・受容、日本と研修先との習慣・風習の違いの理解・受容、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 文化や社会活動・社会規範の違う地域での生活への順応性を身につけることを目的とする。 また事前・事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p>	
	キーワード	<p>異文化理解 日本文化理解 順応性</p>

学修教育目標

現地の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。さらに事前学修においては知識により現地を理解し、研修では体験を通して現地の文化を学び取ることができる。事後研修では成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。
研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

研修地の特性をよく理解しておくこと。

教科書

別途、教員から指示する。

参考書・リザーブブック

なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化・習慣の理解（事前調査）	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備	30
	演習課題			60
第2回 /	第2日 事前研修 (2) ―事前学修のまとめ― ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	研修テーマに基づく課題のまとめ	60
	発表			
第3回 /	第3日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第1日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第4回 /	第4日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第2日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第5回 /	第5日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第3日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第6回 /	第6日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第4日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第7回 /	第7日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第5日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第8回 /	第8日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第6日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第9回 /	第9日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第7日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第10回 /	第10日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第8日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第11回 /	第11日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第9日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第12回 /	第12日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第10日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第13回 /	第13日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第11日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第14回 /	第14日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第12日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第15回 /	第15日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第13日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第16回 /	第16日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第14日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第17回 /	第17日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第15日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第18回 /	第18日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第16日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第19回 /	第19日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第17日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第20回 /	第20日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第18日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第21回 /	第21日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第19日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第22回 /	第22日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第20日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第23回 /	第23日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第21日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第24回 /	第24日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第22日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第25回 /	第25日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第23日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第26回 /	第26日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第24日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第27回 /	第27日 事後学修（1）—研修内容のまとめ— ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成	演習	事後レポート作成 発表準備	30
	グループワーク			60
第28回 /	第28日 事後学修（2）—グローバル研修の振り返り— グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30
				60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S096S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修D Global Study D	1単位	選 択	実 習	1～4年次	春学期 ・秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>グローバル化時代の中で特に文化面に特化したプログラムを中心に考える。① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティをもう一段深めること、② 真の日本文化への造詣を深めつつ異文化を理解し、日本文化の特徴などをプレゼンテーションするための諸能力を高めることを目的とする。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などを体験学習し、研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得ることを目的とする。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。</p> <p>他方、現地での研修では、事前研修までの学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p>
----------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

キ ー ワ ー ド	異文化理解 アジア	学 修 教 育 目 標	<p>近隣アジア諸国の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。さらに事前学修においては知識により現地を理解し、研修では体験を通して現地の文化を学び取ることができる。事後研修では成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。</p>
-----------------------	-----------	----------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>研修地の特性をよく理解しておくこと。</p>

教 科 書

参考書・リザーブブック

<p>別途、教員から指示する。</p>	<p>なし</p>
---------------------	-----------

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成	30
				60
第2回 /	グローバル研修（1） ―研修先での体験学習（第1日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第3回 /	グローバル研修（2） ―研修先での体験学習（第2日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第4回 /	グローバル研修（3） ―研修先での体験学習（第3日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第5回 /	グローバル研修（4） ―研修先での体験学習（第4日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第6回 /	グローバル研修（5） ―研修先での体験学習（第5日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第7回 /	第7日 事後学修 ―グローバル研修の振り返り― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②報告書の作成	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30
	グループワーク			60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S097S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修E Global Study E	2単位	選 択	実 習	1～4年次	春学期 ・秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>グローバル化に対応するなかで、特に文化面に特化したプログラムを実施する。体験学修をより充実し、より長期間の滞在を通してコミュニケーション能力を駆使して、① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティを深める、② 日本文化の造詣を深めることで異文化を理解し、自国文化をプレゼンテーションすることで諸能力を高める。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などの学修を通して、研修地の実情や状況について様々な体験をすることで、生きた知識を学びとる機会を得ることを目的とする。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。</p> <p>他方、現地での研修では、事前研修までの学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p>
----------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

キ ー ワ ー ド	異文化理解 日本文化理解 実行力	学 修 教 育 目 標	<p>現地の人々とのコミュニケーションを通して、① 自国文化を発信し、他者の理解を得ることができる能力を身につける。② 他国の文化・歴史の理解を深めつつ、自国文化の再認識を深める。</p> <p>さらに現地での研修を通じて学び取った知識を事後研修で、成果として発表するのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。</p>
-----------------------	------------------	----------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>研修地の特性をよく理解しておくこと。</p>

教 科 書	参考書・リザーブブック
別途、教員から指示する。	なし

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	④ 主体性	自ら行動することができる。	◎
	⑤ 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	⑥ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	④ 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	⑤ 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	⑥ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	⑦ 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	⑧ 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	⑨ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	⑩ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑪ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
4. 倫理観	⑫ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価

指標と評価割合		評価方法							
		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合									
評価 の 指 標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	チームワークに関する評価								
	関心・意欲に関する評価								
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安				
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。				

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成	30
				60
第2回 /	第2日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第1日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第3回 /	第3日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第2日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第4回 /	第4日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第3日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第5回 /	第5日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第4日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第6回 /	第6日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第5日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第7回 /	第7日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第6日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第8回 /	第8日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第7日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第9回 /	第9日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第8日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第10回 /	第10日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第9日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第11回 /	第11日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第10日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第12回 /	第12日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第11日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第13回 /	第13日 事後学修 (1) ―グローバル研修の振り返り (1) ― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成	演習	事後レポート作成 発表準備	30
	グループワーク			60
第14回 /	第14日 事後学修 (2) ―グローバル研修の振り返り (2) ― グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30
				60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S098S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修F Global Study F	4単位	選 択	実 習	1～4年次	春学期 ・秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>長期の体験学修を通して、グローバル化時代の中で、言語コミュニケーションの醸成、異文化への深い理解・受容、日本と研修先との習慣・風習の違いの理解・受容、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 文化や社会活動・社会規範の違う地域での生活への順応性を身につけることを目的とする。 また事前・事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p>	
	キーワード	<p>異文化理解 異言語コミュニケーション ホームステイ</p>

学修教育目標

ホームステイを取り入れて、ホストファミリーや現地の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。さらに事前学修においては知識により現地を理解し、研修では体験を通して現地の文化を学び取ることができる。事後研修では成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。
研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

研修地の特性をよく理解しておくこと。

教 科 書

別途、教員から指示する。

参考書・リザーブブック

なし

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化・習慣の理解（事前調査）	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備	30 60
	演習課題			
第2回 /	第2日 事前研修(2) ―事前学修のまとめ― ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	研修テーマに基づく課題のまとめ	60
	発表			
第3回 /	第3日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第1日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第4回 /	第4日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第2日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第5回 /	第5日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第3日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第6回 /	第6日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第4日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第7回 /	第7日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第5日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第8回 /	第8日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第6日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第9回 /	第9日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第7日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第10回 /	第10日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第8日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第11回 /	第11日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第9日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第12回 /	第12日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第10日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第13回 /	第13日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第11日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第14回 /	第14日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第12日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第15回 /	第15日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第13日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第16回 /	第16日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第14日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第17回 /	第17日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第15日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第18回 /	第18日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第16日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第19回 /	第19日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第17日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第20回 /	第20日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第18日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第21回 /	第21日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第19日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第22回 /	第22日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第20日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第23回 /	第23日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第21日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第24回 /	第24日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第22日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第25回 /	第25日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第23日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第26回 /	第26日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第24日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第27回 /	第27日 事後学修（1）—研修内容のまとめ— ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成	演習	事後レポート作成 発表準備	30
	グループワーク			60
第28回 /	第28日 事後学修（2）—グローバル研修の振り返り— グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30
				60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S099S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修G Global Study G	3単位	選 択	実 習	1～4年次	春学期 ・秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>グローバル化時代の中で、言語コミュニケーションの修得、異文化への理解、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 異文化や社会活動・社会規範の違う地域での生活の順応性を身につけることを目的とする。</p> <p>また事前・事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p>
----------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

キ ー ワ ー ド	異文化理解 異言語コミュニケーション アジア	学 修 教 育 目 標	<p>アジアの国々の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、知識を深める。さらに事前学修にて知識による現地の理解を、事後研修にて現地での研修を通じて学び取った知識を、成果として発表するのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に高めることを目標とする。</p>
-----------------------	------------------------	----------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>研修地の特性をよく理解しておくこと。</p>

教 科 書	参考書・リザーブブック
<p>別途、教員から指示する。</p>	<p>なし</p>

No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1)
①	心理の専門知識を身につける。	
②	心理の分析方法を身につける。	
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。 ◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。 ◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標 (※2)
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。 ◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。 ◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。 ◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。 ◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。 ◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。 ◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。 ◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。 ◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。 ◎
	④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。 ◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。 ◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。 ◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。 ◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化・習慣の理解（事前調査）	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備	30 60
	演習課題			
第2回 /	第2日 事前研修 (2) ―事前学修のまとめ― ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	研修テーマに基づく課題のまとめ	60
	発表			
第3回 /	第3日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第1日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第4回 /	第4日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第2日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第5回 /	第5日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第3日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第6回 /	第6日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第4日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第7回 /	第7日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第5日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第8回 /	第8日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第6日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第9回 /	第9日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第7日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第10回 /	第10日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第8日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第11回 /	第11日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第9日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第12回 /	第12日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第10日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第13回 /	第13日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第11日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第14回 /	第14日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第12日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第15回 /	第15日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第13日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第16回 /	第16日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第14日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第17回 /	第17日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第15日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第18回 /	第18日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第16日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第19回 /	第19日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第17日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第20回 /	第20日 事後学修（1）－研修内容のまとめ－ ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成	演習	事後レポート作成 発表準備	30
	グループワーク			60
第21回 /	第21日 事後学修（2）－グローバル研修の振り返り－ グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30
				60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S100S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修H Global Study H	3単位	選 択	実 習	1～4年次	春学期 ・秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>グローバル化に向けて、言語コミュニケーションの修得、異文化への理解、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 異文化いや社会活動・社会規範の違う地域での生活の順応性を身につけることを目的とする。</p> <p>また事前・事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p>
----------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

キ ー ワ ー ド	異文化理解 異言語コミュニケーション 欧米	学 修 教 育 目 標	<p>欧米の国々の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、知識を深める。</p> <p>さらに事前学修にて知識による現地の理解を、事後研修にて現地での研修を通じて学び取った知識を、成果として発表するのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に高めることを目標とする。</p>
-----------------------	-----------------------	----------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>研修地の特性をよく理解しておくこと。</p>

教 科 書	参考書・リザーブブック
<p>別途、教員から指示する。</p>	<p>なし</p>

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1日 事前研修 —グローバル研修の意義について— ・研修先の文化・習慣の理解（事前調査）	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備	30 60
	演習課題			
第2回 /	第2日 事前研修 (2) —事前学修のまとめ— ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	研修テーマに基づく課題のまとめ	60
	発表			
第3回 /	第3日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第1日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第4回 /	第4日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第2日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第5回 /	第5日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第3日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第6回 /	第6日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第4日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第7回 /	第7日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第5日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第8回 /	第8日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第6日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第9回 /	第9日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第7日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第10回 /	第10日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第8日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第11回 /	第11日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第9日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第12回 /	第12日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第10日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第13回 /	第13日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第11日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第14回 /	第14日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第12日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第15回 /	第15日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第13日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第16回 /	第16日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第14日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第17回 /	第17日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第15日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第18回 /	第18日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第16日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第19回 /	第19日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第17日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第20回 /	第20日 事後学修（1）—研修内容のまとめ— ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成	演習	事後レポート作成 発表準備	30
	グループワーク			60
第21回 /	第21日 事後学修（2）—グローバル研修の振り返り— グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30
				60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSS13S122S	専門教育科目 ゼミ	基礎ゼミ I Foundation Seminar I	1単位	必修	演習	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	卒業論文作成に向けた総合演習（卒論ゼミ）形式で進める。これまでの課程で獲得した知識を他へ自己表現する能力（プレゼンテーション能力）を身につける。						
--------	--------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

キーワード	卒業研究	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 各回のテーマに応じて必要となる知識を獲得することができる。 テーマに関するディスカッションに、積極的に関わることができる。 				
-------	------	--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 詳細は「基礎ゼミ I・II テーマ一覧表」で確認すること。 </div>							
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 詳細は「基礎ゼミ I・II テーマ一覧表」で確認すること。 </div>							
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

教科書				参考書・リザーブドブック			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	心理の専門知識を身につける。	「基礎ゼミ I・II テーマ一覧表」及び、第1回目の授業で説明する。					
②	心理の分析方法を身につける。						
③	心理カウンセリングの知識を身につける。						
④	心理カウンセリングの技法を身につける。						
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。						
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。						

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。	○
	③ 実行力	目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を把握して、課題を抽出することができる。	○
	② 計画力	課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。	○
	⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めするなど適切な対処方法を理解し行動することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価				到達度の評価方法は第1回目の授業 で担当教員から説明する。					
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
					第1回目の授業で担当教員から説明する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第1回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第1回目の授業の中で説明する。	
第2回 /				
第3回 /				
第4回 /				
第5回 /				
第6回 /				
第7回 /				
第8回 /				
第9回 /				
第10回 /				
第11回 /				
第12回 /				
第13回 /				
第14回 /				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSS13F122A	専門教育科目 ゼミ	基礎ゼミⅡ Foundation Seminar II	1単位	必修	演習	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	総合演習形式で卒業論文作成に向けた演習を行う。受講生の討論から対比的に学ぶことで、様々な知識を身につける。自らが獲得した知識に対する他者からの評価を建設的に受け止めることができる。	
	キーワード	卒業研究

学修教育目標

- ・まとめた内容を他者が理解できるよう説明できる。
- ・他者の意見を取り入れて自らの知識・理解の枠を広げることができる。
- ・他者の発表に対して建設的な意見を述べるができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

詳細は「基礎ゼミⅠ・Ⅱ テーマ一覧表」で確認すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

詳細は「基礎ゼミⅠ・Ⅱ テーマ一覧表」で確認すること。

教科書

別途、教員から指示する。

参考書・リザーブドブック

別途、教員から指示する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	心理の専門知識を身につける。	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ テーマ一覧表」及び、第1回目の授業で説明する。
②	心理の分析方法を身につける。	
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる	○
	② 働きかけ力	すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。	○
	③ 実行力	目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を把握して、課題を抽出することができる。	○
	② 計画力	課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる	○
	③ 柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。	○
	⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。	○

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価の指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
					第1回目の授業で担当教員から説明する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第1回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第1回目の授業の中で説明する。	
第2回 /				
第3回 /				
第4回 /				
第5回 /				
第6回 /				
第7回 /				
第8回 /				
第9回 /				
第10回 /				
第11回 /				
第12回 /				
第13回 /				
第14回 /				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSS14S123S	専門教育科目 ゼミ	ゼミ I Seminar I	1単位	必修	演習	4年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	卒業論文のためのテーマを設定し解決のための仮説の組み立てを行う。	
	キーワード 卒業研究	学修教育目標 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに関する先行論文を検索・研究し、理解して発表できる。 ・自らの研究内容に対して批判的に考察できる。 ・他者の発表に対して、批判的に意見を述べるができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

第1回目の授業で担当教員から説明する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

第1回目の授業で担当教員から説明する。

教科書

別途、教員から指示する。

参考書・リザーブドブック

別途、教員から指示する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	心理の専門知識を身につける。	
②	心理の分析方法を身につける。	
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	第1回目の授業で担当教員から説明する。
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。	◎
	③ 実行力	目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を把握して、課題を抽出することができる。	◎
	② 計画力	課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。	◎
	③ 創造力	考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価				到達度の評価方法は第1回目の授業 で担当教員から説明する。					
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
					第1回目の授業で担当教員から説明する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第1回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第1回目の授業の中で説明する。	
第2回 /				
第3回 /				
第4回 /				
第5回 /				
第6回 /				
第7回 /				
第8回 /				
第9回 /				
第10回 /				
第11回 /				
第12回 /				
第13回 /				
第14回 /				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSS14F123A	専門教育科目 ゼミ	ゼミⅡ SeminarⅡ	1単位	必修	演習	4年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>今まで学んできたことを基礎として、各自が設定したテーマについて考察した内容をまとめ、テーマに対する知識・理解を定着させる。また、相互批判を受け止め、互いに高めあう関係を構築することができる能力を身につける。</p>	
	キーワード	<p>卒業研究</p>

学修教育目標

- ・テーマに関する研究をまとめることができる。
- ・自らの研究内容に対する他者の批判的意見を受け入れさらに内容を改善できる。
- ・相互学修を通して他者と共に成長することができる能力を身につける。

授業科目の概要及び学修上の助言

第1回目の授業で担当教員から説明する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

第1回目の授業で担当教員から説明する。

教科書

別途、教員から指示する。

参考書・リザーブドブック

別途、教員から指示する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	心理の専門知識を身につける。	
②	心理の分析方法を身につける。	
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	第1回目の授業で担当教員から説明する。
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。	◎
	③ 実行力	目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を把握して、課題を抽出することができる。	◎
	② 計画力	課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。	◎
	③ 創造力	考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価				到達度の評価方法は第1回目の授業 で担当教員から説明する。					
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
					第1回目の授業で担当教員から説明する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第1回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第1回目の授業の中で説明する。	
第2回 /				
第3回 /				
第4回 /				
第5回 /				
第6回 /				
第7回 /				
第8回 /				
第9回 /				
第10回 /				
第11回 /				
第12回 /				
第13回 /				
第14回 /				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。